

平成15年度（2003）

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

第9回総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会

大分大会報告書

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

基調講演



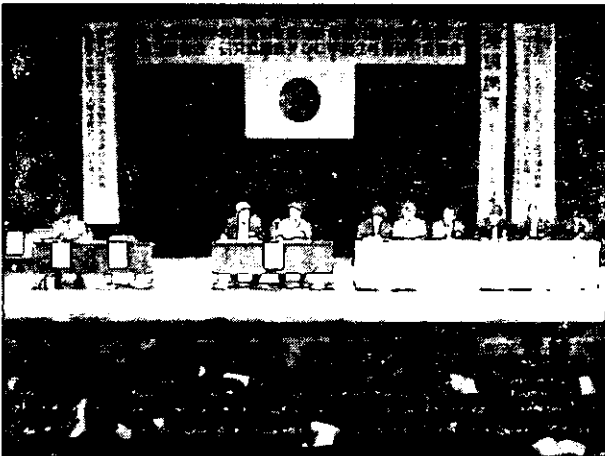
厚生労働省社会・援護局福祉基盤課
福祉人材確保対策室マンパワー企画係長
資格・試験係長 寺床 慎也氏

講演



大分大学教授 荻野 源吾氏

校長部会総会

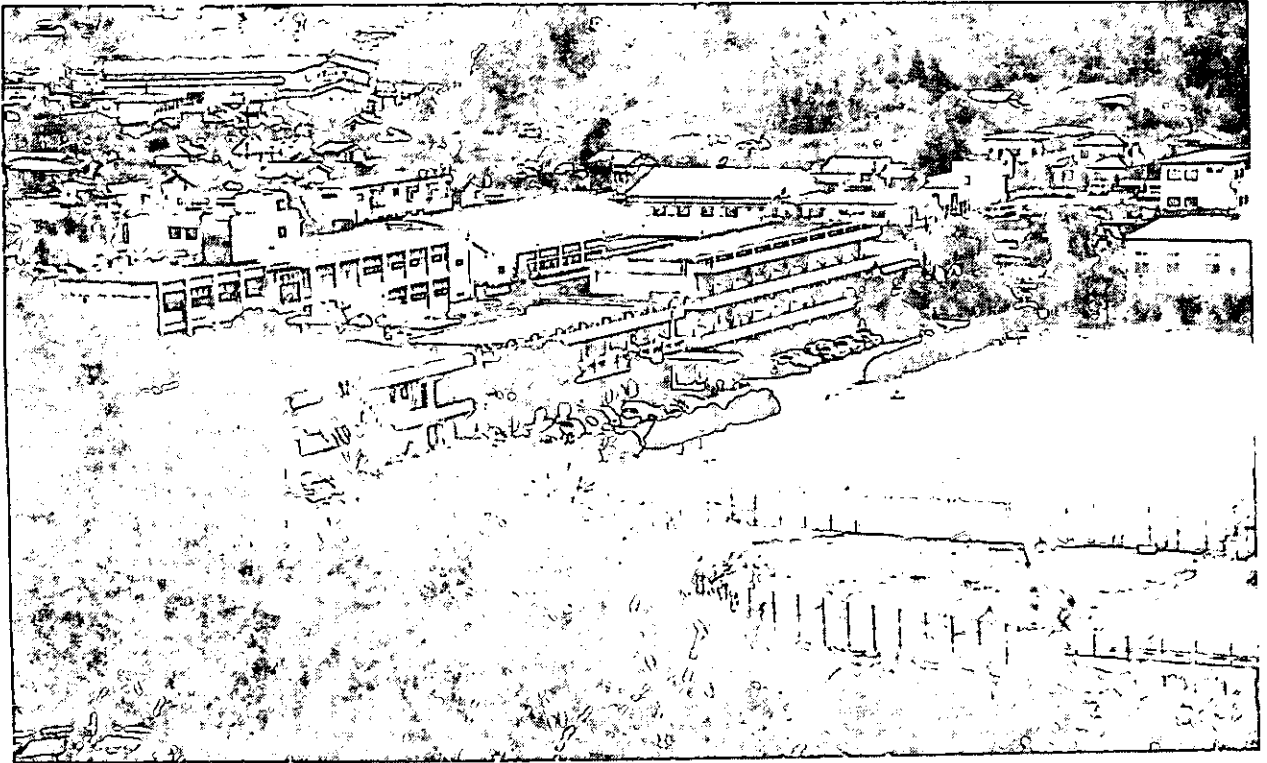


学科設置校分科会



コース・系列等設置校分科会





会 場

大分県立野津高等学校

目 次

開催要項	2
来賓・主催者	3
挨拶	4
理事会・学科主任代表者会議	5
大会（1日目）報告	7
大会（2日目）報告	50
主管校挨拶	77
規 約	79
平成 14 年度事業報告	80
平成 14 年度決算報告書	81
平成 15 年度事業計画	82
平成 15 年度会計予算	83
平成 15・16 年度 組織図	84
平成 15 年度加盟校	85
平成 15・16 年度 役 員	86
平成 15・16 年度 学科主任等代表者 組織分担表	87
總會・研究協議会並びに学科主任等研究協議会 会場地区一覧	88
總會・研究協議会並びに学科主任等研究協議会 分科会分担一覧	89
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会 加盟校リスト	90

開催要項

1 研究主題

変革の時代に求められる魅力ある高校福祉教育
－福祉の未来を担う人間性豊かな人材を育てるために－

2 期 日

・平成15年10月29日(水)～10月31日(金)

3 会 場

大分県立野津高等学校・野津町中央公民館
大分センチュリーホテル・トキハ会館

4 主 催 等

主 催 全国高等学校長協会家庭部会
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

共 催 大分県教育委員会

後 援 大分県高等学校長協会家庭部会
大分県高等学校教育研究会家庭部会
大分県産業教育振興会
大分県私立中学高等学校長会

主 管 大分県立野津高等学校

5 日 程

10月29日(水)＜役員会＞:大分センチュリーホテル

15:00 15:30 17:00

受付	理事会
	学科主任等代表者会議

10月30日(木)＜第1日目＞:野津中央公民館・野津高等学校・トキハ会館

9:00 9:30 10:10 10:50 11:15 12:05 12:20 13:05

受付	開会行事	基調講演	移動	公開授業	移動	昼食
----	------	------	----	------	----	----

13:05 14:20 14:50 16:50 18:30 20:30

講演会	和太鼓演奏	校長会総会・学科主任等 研究協議会	移動	教育懇談会
-----	-------	----------------------	----	-------

10月31日(金)＜第2日目＞:トキハ会館

9:00 10:00 10:10 10:40 10:50 12:00 12:30

全体報告会	移動	ブロック別会議	移動	文部科学省 指導・講評	閉会行事
-------	----	---------	----	----------------	------

来賓・主催者

1 来 賓

文部科学省初等中等教育局参事官室付教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官	矢 幅 清 司
厚生労働省社会援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 マンパワー企画係長 資格・試験係長	寺 床 慎 也
大分県教育委員会教育長	深 田 秀 生
日本社会事業学校連盟副会長・東洋大学教授	古 川 孝 順
野津町長	中 野 五 郎
大分県高等学校長協会副会長	田 尻 和 實
大分県教育庁学校教育課長	平 塚 正 明
福岡県教育庁教育振興部高校教育課指導主事	高 取 千 鶴 子
大分県教育庁学校教育課主幹兼係長	名 倉 弘 子

2 主 催 者

全国高等学校長協会家庭部会副理事長	山 本 順 子
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会長	木 村 行 幸
全国高等学校長協会家庭部会事務局長	小 島 和 雄
全国高等学校長協会家庭部会事務局次長	木 場 耕 平
大分県高等学校長協会家庭部会会長	吉 田 純 雄

挨拶

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会長 木村 行幸

「平成15年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会第9回総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会」が全国各地、津々浦々から多数のご来賓のご臨席と先生方の参加を得て、ここに開催できますことは、何よりの喜びといたすところであります。

本年度より実施の高等学校学習指導要領の専門教育に関する教科に、待望の「福祉」が新設されました。

21世紀は福祉の時代であり、今後の福祉教育の推進にあたり、次の2点が大切なことと私は考えます。

1. 教員の資質の向上

学習指導要領の福祉の目標達成のためには、生徒の実態に即し、授業展開を工夫し、「確かな学力、知識や技能に加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身につける教育を実践しなければなりません。生徒の興味関心等を生かしながら、発展的な指導を行うことを求められている現状において、先生方一人一人が教員としての自らの資質向上を図ることに日々努力することが肝要です。先生方に飽くなき資質の向上への努力を重ねてお願い申し上げます。

研修会等の開催は、職員の資質の向上に直接的に繋がります。校長先生方におかれましては、県・地区やブロック単位での充実した研修会ができるよう、又、円滑かつ有意義な運営がなされるよう、ご配慮とご努力をお願い致します。

2. 情報の共有化

本年度より福祉科が新設されたということは、充実した授業の展開例を記述した本など一切ない科目です。先生方の授業実践等を提供できるよう本年度より、事務局にホームページを開設しました。先生方の授業の指導と評価の在り方の研究・シラバス等を掲載するなどし、全国の福祉科目担当の先生方の授業に役立てたり、福祉に関する情報を掲載することにより、情報の共有を推進し、福祉教育の推進と啓発に役立てたいと考えております。先生方の積極的な参加と活用を期待します。

さて、現在、福祉科校長会は、家庭部会の中の組織の一つとして活動しています。

家庭部会からは、これまで多大な物心両面のご支援をいただき、家庭科の福祉の教材との関連で、福祉に関するご指導・ご教示をいただき参りました。現在、福祉科校長会があるのはこうした背景があればこそであり、家庭部会の長年のご協力に感謝しているところであります。この背景はありますが、本年度より教科「福祉」が実施されるに至りましたので、これを機会に福祉科として独立するために、3年程度の時間をかけて、独立に必要な課題を一つずつ解決していきたいと思っています。何卒、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

最後になりますが、本会がさらなる福祉教育の発展の第一歩となることを祈念するとともに、本会の開催にご尽力くださいました安田録一大分県立野津高等学校長、大分県教育委員会様をはじめ、関係各位に感謝を申し上げ、挨拶と致します。

理事会・学科主任等代表者会議

理 事 会 29日(水) 15:30~17:00 大分センチュリーホテル

司会進行 : 小 倉 正 幹 (徳島県立小松島西高等学校長)

記 録 : 小山田 田鶴子 (大分県立野津高等学校教諭)

1 挨拶

- | | |
|---|-------|
| ①全国高等学校長協会家庭部会副理事長 | 山本 順子 |
| ②文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 | 矢幅 清司 |
| ③全国高等学校長協会家庭部会事務局長 | 小島 和雄 |
| ④全国高等学校協会家庭部会福祉科高等学校長会会長 | 木村 行幸 |
| ⑤全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会全国大会主管校校長 | 安田 緑一 |

2 報告事項

- ①平成14年度事業報告・決算報告 (事務局)
- ②平成15年度事業計画・会計予算 (事務局)
- ③平成15年度役員について (事務局)
- ④平成15年度加盟校 (事務局)
- ⑤介護福祉士試験の在り方等介護福祉士の質の向上に関する検討会への要望について (会長)
- ⑥全国社会福祉教育セミナーについて (会長)
- ⑦第13回全国産業教育フェア(北海道大会)について (会長)
- ⑧教員研修案内資料について (会長)
- ⑨介護福祉士試験2次試験の追跡調査について (会長)
- ⑩福祉科教員定数の補正について (会長)
- ⑪事務局のホームページの活用について (会長)

3 協議事項

- ①平成15年度第9回全国大会(大分大会)運営について
主管校 大分県立野津高等学校長
開催日 平成15年10月29日~31日
- ②平成16年度全国大会(徳島大会)運営について
主管校 徳島県立小松島西高等学校長
開催日 平成16年10月27日~29日
- ③平成16年度第1回理事会〔5月28日(金)〕について (会長)
- ④規約改正について (会長)
- ⑤平成16年度第10回全国大会(徳島大会)における表彰等について (会長)
- ⑥ その他

学科主任代表者会議 29日(水) 15:30~17:00大分センチュリーホテル

司会進行：稲村桂子(徳島県立小松島西高等学校教諭)

記録：道脇法子(大分県立野津高等学校教諭)

1 報告事項

(1) 研修部(三重県立上野商業高校 富井)

- ① 指導書作成について
- ② 第5回ソーシャルワーク実践教育講座の発表者について

(2) 調査統計部(香川県立飯山高校 北村)

- ① 加盟校教職員名簿の作成について
- ② 教育実習アンケートについて

(3) 広報部(長野県立上田千曲高校 小林)

- ① ホームページ(福祉系高校ニュース)の立ち上げについて
- ② 加盟校URL調査について

(4) 事務局(千葉県立松戸矢切高校 佐藤)

- ① 「平成15年度新産業技術等指導者養成講習」について
- ② 「平成15年度全国産業教育フェア」(北海道大会)について
- ③ 福祉科高等学校長会ホームページ(事務局だより)について
- ④ その他
 - ・高等学校「福祉科」の現状と課題について
 - ・介護福祉士試験の在り方等介護福祉士の質の向上に関する検討会への要望について

2 協議事項

①平成16年度以降の「新産業技術等指導者養成講習」の在り方について

- ・案内を多くの人に呼びかける。
- ・人選、会場、講師、内容について改善していく。

②平成16年度以降の「全国産業教育フェア」の対応について

- ・開催県に近いブロックの理事が選出して願います。

③その他

- ・介護福祉士試験の在り方等介護福祉士の質の向上に関する検討会への要望については随時、事務局へ要望を提出し集約する。
- ・調査統計で教諭の個人情報をもつのはどうか来年度協議する

3 その他

- ・平成16年度全国大会について(主管校 徳島県立小松西高等学校)

大会（1日目）報告

開 会 行 事 30日（木） 9：30～10：10 野津中央公民館 大ホール
司会進行：首藤久登（大分県福德学院高等学校長）
記 録：安部俊伯（福岡県飯塚高等学校教諭）
小田真奈美（福岡県福知高等学校助教諭）

1 開会のことば

福岡福智高等学校長 荒瀬 昭彦

2 主催者あいさつ

全国高等学校長協会家庭部会副理事長

山本 順子

本年度より高齢化に伴い、介護福祉士などの福祉に関する人材養成の必要性に対応するために、専門教科「福祉」が新たに設けられた。スタートして色々な課題も出てきています。福祉教育を2つの側面から考えると、

① 福祉教育の基本として、高校生一人一人が健康に関心をもち、衣食住など自立する生活力を基盤に家族や地域の高齢者、障害者に対して、思いやる気持ちやいたわる気持ちを持ち、心豊かな感性を実践を通して育てることが大切であり、福祉マインドを身につける必要があります。

② 社会福祉に関する基礎・基本を身につけ、要介護高齢者や障害者などの自立を支援する能力や技能・実践力を持つ人材育成をねらいとする福祉学科・コースづくりが必要です。

この福祉教育の2つの側面をつきあわせながら、今大会では各高校における福祉教育の在り方を考える良い機会となることを願っています。

全国高等学校長協会家庭部会

福祉科高等学校長会会長 木村 行幸

福祉教育の推進を図るにあたり、重要な点として2つが考えられます。

① 教員の資質の向上

「生徒の実態を知り確かな学力を身につける。学ぶ意欲や自ら判断できる能力を身につける。社会福祉に興味関心を向けながら発展的に行う。」その為に教員の日々の努力をお願いしたいし、各研修等もできるようお願いします。

② 情報の共有化

歴史のない教科であり、授業展開例もない状態ですので、指導の在り方等インターネット等も利用して情報の共有化を促進します。

3 来賓祝辞

文部科学省初等中等教育局参事官付

教科調査官 矢幅 清司

教科「福祉」は、ここに集まれた皆様のご協力、そしてこの校長会の努力の成果によってできたものと考えられます。今後はこの教科「福祉」の内容の充実を図らねばなりません。皆様方一人一人の御力を借りて、この新教科を作り上げていくとともに、この校長会がより発展していくことを祈念いたします。

大分県教育庁教育次長 足立 一馬

近年、国際化 高度情報化 少子高齢化と急激な社会の変化に伴う学校教育においては、生徒一人一人が主体的に考え、様々な状況に対処できる心豊かな人間の育成が求められています。また、高等学校においては今年度から新しく教科「福祉」がスタートし、国民の福祉ニーズが多様化してきている事などから、きめ細かな介護サービスに対応できる専門的な知識・技術を有する人材が不可欠となっています。今後、福祉の専門知識と技術の向上を図り、福祉需要者のニーズに答えられるよう努めていかれることを祈念いたします。

日本社会事業学校連盟理事 東洋大学教授
古川 考順

(1) 現況報告

[全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会]

- 加盟校は、昨年度190校から15校の増加の205校。
- 高校における福祉科設置校数は、607校の内、介護福祉士受験資格取得校は約160校、訪問介護員1級取得校が約80校、2級取得校が約330校、3級取得校が約150校で、今後増加傾向は続く。
- 高校で福祉を学ぶ生徒数は、1万5千人～2万人で、福祉系大学へ進学する生徒は増加している。

[日本社会事業学校連盟]

- 設立当初の会員数は大学137校、短大23校、専修学校15校の合計175校で発足予定。
 - 文部科学省高等教育局医学教育課の所管法人で、高校における福祉教育との連携を推進。
 - 新設法人の定款では、福祉教育を行っている高等学校の入会も視野に入れ作成。
- (2) 日本社会事業学校連盟の事業計画に示す高校における福祉教育の位置づけ
- 教員研修…「ソーシャルワーク実践教育研修講座」・「全国社会福祉教育セミナー」等。
 - 講師派遣及び施設提供…高校における福祉教員研修に連盟から講師派遣及び施設提供。
 - 高校における福祉教育の推進のため、テキスト作成・教育方法・教材開発・講師派遣等の支援協力。
 - 新設法人の委員会構成において、社会福祉専門教育委員会の中に「高校福祉科部会」設置予定。

4 来賓紹介 大分県立三重農業高等学校長
阿部 俊久

5 主管校あいさつ
大分県立野津高等学校長 安田 緑一

6 閉会のことば
熊本県菊池女子高等学校長 荒木 元子

基 調 講 演 **30日(木) 10:10~10:50** **野津中央公民館 大ホール**
司会進行 : 三 浦 豊 (大分県立耶馬溪高等学校長)
記 録 : 小 田 真奈美 (福岡県福知高等学校教諭)
 安 部 俊 伯 (福岡県飯塚高等学校教諭)

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室
マンパワー企画係長 資格・試験係長

寺 床 慎 也

1. 介護福祉士養成の現状

近年の急速な少子・高齢化により、国民の福祉に対するニーズは多様化し、質の高いサービスが求められています。このため、高い職業倫理を持った専門職にふさわしい人材の育成に努めていく必要があります。

(1) 養成施設開設の動向

養成の主流は、専門学校から大学・短大(31%)へと移行しています。大学・短大は少子化による生き残り策として、人気の高い福祉分野の課程を増設しています。

(2) 国家試験合格者の動向

国試の受験者は、平成12年度第13回試験以降、伸びが鈍化しています。また、合格者は増加しており、合格率は長期的に減少していましたが、平成14年度第15回試験は48%と回復傾向にあります。

(3) 登録・就労の状況

ア 登録者の状況

介護福祉士は登録して初めて資格が認定されますが、登録者は着実に増加しています。平成15年9月における登録者数は約135万人でしたが、国試合格者はそのうちの6割で、残りの4割は養成施設卒業生でした。日本介護福祉士会によると、登録者の90%は女性で、10%が男性、20歳代の登録者は養成施設卒業生、40~50歳代は国試合格者が多く、登録者の学歴は徐々に上がりつつあります。

イ 就労状況

就労状況は、福祉系の職場が7割を占め、登録者の8割が本来の福祉業務を行っています。介護福祉士資格保有者の3割はケアマネジャーの資格を持っており、介護保険制度への積極的な参加が望まれます。

2. 求められる介護福祉士像

平成12年に介護保険制度が導入されてから、福祉においては行政関与型からサービス主体型へと移行しています。平成15年4月からは、障害者福祉にも支援費制度が導入されるという状況の中、要介護者はサービスの選択・自己決定権を持つことができるようになり、客体から権利行使の主体へ変化しつつあります。福祉サービスは人的サービスであり、福祉に携わる人材の質の向上が急務であり、また即戦力として求められています。厚生労働省では「期待される介護福祉士像」として、5点を紹介している。

3. 介護福祉士養成の課題と責務ー量的確保から質的向上へー

(1) 国家試験の改革

介護を取り巻く環境の変化により、国家試験の筆記は、総出題が 100 題から 120 題へと増加しています。実技は、安全安楽等を重視した採点基準への見通しを第 14 回試験から実施。また、国家試験としての水準を高めるため、出題基準・合格基準の作成・公表と、正答の公表を行っています。

(2) 養成施設教育の改革

ア 介護福祉士養成施設教育課程の改正

福祉専門職の教育課程等に関する検討会の報告書を踏まえ、平成 12 年 4 月から介護福祉士養成施設で、新しい教育課程が展開されています。

イ 教員の質の向上

介護系専任教員は、実務経験 5 年以上の介護福祉士とされていますが、質の向上をめざし、講習会において 300 時間以上の研修を体系的に行うことにしました。平成 15 年度から実施され、平成 19 年度まで 5 年間で猶予期間としています。

ウ 実習のあり方

実習は居宅実習を義務づけていますが、実習先の確保が困難で、十分に実習ができない状況があります。

(3) 生涯研修体制

資格取得がゴールではありません。資格取得後も自己研鑽により、自己の技術や能力のレベルアップを図る必要があります。専門職としての自覚をもち、OJT（就業中研修）や外部トレーニング、行政主催の研修等の機会をとらえてほしいです。

(4) 職業倫理の確立

社会的弱者を対象とする事が多く、秘密に接する機会も多いので、秘密保持、信用失墜の防止等法律的にも一定の義務を課しています。しかし、近年登録取り消し等の処分を行わざるを得なかった事例が生じるなど、職業倫理の確立が急務です。

(5) 介護福祉士の質の向上に関する検討会

介護福祉士試験等の在り方について検討するもので、介護技術講習会か実技試験のいずれかを選択可能としたもので、平成 18 年 1 月実施の第 18 回試験からの適用を検討しています。講習会の指導者の講習会が平成 16 年度から実施が考えられています。

1 社会福祉基礎 学習指導案

日時	平成15年10月30日(木) 第4限
クラス	福祉科 1年1組 40名 男子 14名 女子 26名
教室	福祉総合実習室
教科書	社会福祉基礎(中央法規)
授業者	教諭 中山田 由美

1 単元名 社会福祉の担い手と福祉社会への展望

2 単元の目標

- (1) 福祉社会を創造していくために必要な社会福祉従事者とその役割、専門性について理解させる。
- (2) 相互扶助の精神に基いた国民一人ひとりの意識改革の重要性、必要性について理解させる。
- (3) これからの福祉社会を創造するうえで重要な、人権の尊重やノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインなどについて理解させる。
- (4) 現場実習や体験学習を取り入れるなどして、社会福祉に関する学習の基本的な心構えを身に付ける。

3 単元設定の理由

(1) 生徒観

本校では、介護福祉士国家試験受験資格及び訪問介護員2級の資格取得を目標とした学習を行っており、入学してくる生徒の多くは、将来福祉に関する仕事に就きたいという進路目標を持っている。多くの生徒達は意欲も高く、県内各地の福祉施設等へのボランティア活動やインターンシップに参加しているが、中には、それほど興味・関心を示さない者もいる。生徒達は、入学して半年が過ぎ、十分な専門的知識や技術はまだ身に付いていないが、少しずつ福祉に関する専門的な学習が進んでいる。

(2) 教材観

地域社会で福祉のリーダーとして活躍する専門従事者となる生徒達にとって、福祉社会を創造していくために必要な社会福祉従事者とその専門性、役割を知り、専門従事者に求められる資質や技術を学ぶことは非常に重要である。また、福祉社会を作り上げていくために、一人ひとりが相互扶助の精神に基き、地域社会に実際に参加し、活動していくことの重要性を理解することも非常に意義深いことである。さらに、これらを学習する中で、豊かな職業観の育成を図ることができ、また、今後の学びへの動機づけや基本的な心構えが身に付くと考える。

(3) 指導観

社会福祉に携わる専門従事者に必要な資質と技術については、地域の従事者の方に話しをしていただいたり、施設実習や演習等を通して、生徒自身が実感をもち、体験的に考え、身に付くようにしたい。

また、コミュニケーションを中心とした社会福祉の援助技術の基本的な考え方や技法についても、具体的な演習を通して体験的に学ばせたい。

4 指導計画

社会福祉の担い手と福祉社会への展望	55時間
(1) 社会福祉サービスにかかわる専門職制度と資格	2時間
(2) 専門従事者に必要な資質と技術	34時間 (本時 8 / 34)
(3) ボランティアの考え方と歴史的展開	11時間
(4) 福祉国家から福祉社会へ	8時間

(2) 専門従事者に必要な資質と技術

	指導内容	配当時間	指導上の留意点
1	専門従事者に求められる視点	1時間	・身近な地域で活躍している方から講義をして頂き、具体的な仕事内容と、求められる資質を考えさせ、理解させる。
2	専門従事者の倫理	1時間	・日本介護福祉士会倫理綱領を理解させるとともに、その意味を、今の自分と照らし合わせながら考えさせる。
3	対人援助の技術と視点 (本時 2 / 2)	2時間	・対人援助の基本であるコミュニケーションの重要性を確認し、演習を通してその技法を身に付けさせる。
4	施設実習 事前指導 ・意義と目的 ・実習前の諸記録 ・実習日誌の記録の仕方	30時間 3時間	・各自の実習の目的を明らかにし、主体的に学ぶ態度を身に付けさせる。 ・実習に必要な書類を作成する。 ・実習日誌の適切な記録方法について、具体的事例を用いた演習を通して理解させる。
	施設実習 (4日間)	24時間	・実習がスムーズに行えるよう巡回指導する。
	事後指導 ・実習のまとめ	3時間	・施設実習を通して社会福祉専門従事者とその専門性、求められる資質を考えさせる。

5 本時案

(1) 主 題 対人援助の技術と視点

～コミュニケーションの技法～

- (2) 目 標
- ①言語以外のコミュニケーションがわかり、その重要性を理解する。
 - ②言語以外のコミュニケーションを含めた有効な技術を理解し、実践する態度を養う。
 - ③対人援助におけるコミュニケーションの留意点を理解する。

(3) 展 開

過程	学習活動	指導内容・指導上の留意点	配時	備考
導 入	1. 前時までのコミュニケーションの学習内容を確認する。	○前時の学習内容の確認を生徒に聞きながら行なう。	3	
	2. 本時の学習目標および学習内容を知る。	○本時は対人コミュニケーションの技法について学習することを説明する。	2	
展 開	3. 演習の進め方を知る。	○ワークシートを配布し、座る位置、目の高さ、距離についての演習の説明を行う。	3	ワークシート ①
	4. 座る位置、目の高さ、距離についての演習を行ない、ワークシートに感想を記入する。 ＜演習内容＞ ①座る位置 ②目の高さ ③距離	○隣同士で2人組を作り、ワークシートに沿って演習を行うよう指示する。 ○それぞれについて感想をワークシートに記入させるよう指示する。 ○机間指導する。	15	ワークシート ①
	5. 演習の感想を発表し、他の生徒の感想も聞く。	○感想を数名の生徒に聞き、自分の感想との違いに気づかせるとともに、好意的な対人関係のあり方を理解させる。	7	
	6. 演習のまとめを行ない、言語以外のコミュニケーションについて理解し、その重要性が分かる。	○言語以外のコミュニケーションの在り方について生徒の発表をまとめながら説明する。 ○その他の言語以外のコミュニケーション(表情、動作、姿勢、装い)も事例を交え説明する。	10	

ま と め	7. 本時のまとめを行い、コミュニケーションを図る上での留意点分かる。	○コミュニケーションを図る上では、言語以外のコミュニケーションも含めた視点が重要であることを押さえる。 ○知的障がい者の方とのコミュニケーションや接する上では、一人ひとりの障害の程度に応じ、個別に関わることが大切であり、事前に把握しておくことの重要性も押さえる。	5	
	8. 本時の自己評価を行い、感想を書く。	○本時の自己評価と感想をワークシートに記入させる。	4	ワークシート ②
	9. 次時の学習内容を知る。	○次回、実習日誌の記録について学習を行うことを伝える。	1	

6 評価

- (1) 演習に積極的に参加し、自分の感想、意見を表すことができたか。(関心・意欲・態度)
- (2) 言語以外のコミュニケーションを理解し、施設実習で実践しようとする姿勢を養えたか。(技能・表現)、(思考・判断)
- (3) 対人援助におけるコミュニケーションの在り方が分かり、自らの体験としてその重要性を理解することができたか。(知識・理解)

2 「基礎介護」学習指導案

日 時 平成 15 年 10 月 30 日 (木)
学 級 福祉科 1 年 2 組 (A 班) 20 名
(男子 6 名 女子 14 名 計 20 名)
教 室 介護実習室 I
教科書 基礎介護 (一橋出版)
授業者 教諭 矢田 幸恵

1 単元名 高齢者介護の基本的技術

2 単元の目標

- (1) 体位変換、移動、衣生活や食生活の援助に関する基本的な知識や技術について取り扱い、高齢者の実態に応じた介護を提供し、介護者は利用者の自立生活を支援するものではないことについて理解させる。
- (2) プライバシーを尊重し、利用者との信頼しあえる人間関係が重要であること

とについて理解させる。

3 単元設定の理由

(1) 生徒観

生徒の多くは将来、何らかの形で福祉の職業に就きたいと考えている。今まで基礎介護の実習ではボディメカニクス、ベッドメイキングなどを意欲的に取り組んできた。生徒は身体を動かして学ぶことが好きで、実習には積極的に取り組み、多くの技術を身に付けたいと思っているようである。しかし、コミュニケーションの取り方が難しいと感じている生徒が多い。

(2) 教材観

日常生活支援としての介護は人間としての尊厳を守り、その人らしく生きていくための援助である。援助については、利用者のプライバシーを尊重し、できるだけ負担をかけないで安全・安楽に出来るようにすること、残存能力を活かし自力で行うことで達成感が得られるように配慮することの必要性を理解させるとともに、実践する態度を育成したい。

(3) 指導観

利用者の実態に応じた適切な援助ができるような知識と技術の習得を目指したい。実際に援助を体験することにより基礎的な技術を身に付けさせるとともに、利用者・介護者それぞれの気持ちを理解させたい。また、援助を行うために必要なコミュニケーションの取り方に留意しながら指導したい。

4 指導計画	高齢者介護の基本的技術	(23時間)
	(1) 体位変換	4時間
	(2) 移動の介護	6時間
	(3) 衣服着脱の介護	7時間
	・衣服について	(1時間)
	・和服の着脱	(2時間…本時は2/2)
	・和服の着脱(麻痺有)	(2時間)
	・パジャマの着脱	(2時間)
	(4) 食事の介護	6時間

5 本時案

(1) 主題 和服の着脱 ～寝巻きの交換～

- (2) 目標 ① 衣服着脱の基本的知識をもとに、実習を通して技術を身に付けさせる。
② 介護される側の気持ちを理解し、相手の立場に立って援助する大切さを知る。

(3) 展開

過程	学習活動	指導及び指導内容	配時	評価・備考
----	------	----------	----	-------

導 入	1 前時の学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・介護のポイントを確認する。 (声かけ、安全、保温、ボディメカニクス、残存機能の活用、寝衣のしわ・たるみ・合わせ・ひも) 	7	<ul style="list-style-type: none"> ・実習プリント ・絵でみる介護
	2 本時の学習内容を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は衣服着脱の実習を行うことを知らせる。 		
	3 身だしなみの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・爪、髪、服装を確認する。 		
展 開	4 和式寝巻きの交換方法を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・和式寝巻きの交換の援助のポイント (デモンストレーションで説明) *介護を必要としている人に向けられるポイント <ul style="list-style-type: none"> ・事前の利用者への確認 ・保温に注意し不必要な露出を避ける ・ボディメカニクスの活用 ・利用者の残存機能の活用 ・利用者介護者双方の安全 *寝衣の扱い方に向けられるポイント <ul style="list-style-type: none"> ・しわやたるみがないか ・着物の合わせ方、紐の結び方 	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆかた ・帯 ・綿毛布 ・洗濯かご
	5 2人1組のグループに分かれて和式寝巻きの着替えの実習を行う(麻痺なし)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護する側、される側の両方を体験することを伝える。 ・時間を指示する ・衣服着脱の援助の基本をおさえた援助ができているかグループずつ確認して周り、適切な指導をする。 		
ま と め	6 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを押さえた援助ができたか確認する。 ・実習の感想、反省点、要望などを書かせる。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・実習プリント
	7 次時の学習内容を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、半身麻痺がある場合の衣服の着脱の援助等について学習することを知らせる 		

6 評価

- (1) 衣服着脱の基本的原則をおさえた援助ができたか。(技能・表現) (思考・判断)
- (2) 介護される側の気持ちが理解できたか。(関心・意欲・態度)
- (3) 相手の立場になって援助することの大切さを知ることができたか。(知識・理解)

3 「家庭総合」学習指導案

日 時 平成15年10月30日(金)

クラス 福祉科 1年2組B班 20名

男子8名 女子12名

教室 被服教室

指導者 教諭 加藤陽子

1 単元名 衣生活の科学と文化

2 単元の目標

- (1) 被服材料、被服の構成、被服製作、被服整理などについて科学的に理解させる。
- (2) 衣生活の文化に関心をもたせ、必要な技術を習得して充実した衣生活を営むことができるようにする。

3 単元設定の理由

- (1) 生徒観 衣生活に関して、衣服の調達は多くの生徒が自分で行き、着装についての関心も高い。しかし品質表示、取り扱い表示を見ることはなく、ほとんどは気にしていないようである。また洗濯等の手入れも親任せである。本校の生徒のほとんどは将来福祉の仕事に携わろうと考えている。また福祉の仕事の面から考えても、充実した生活を送るためにも、衣生活の管理について十分に理解しておく必要がある。
- (2) 教材観 今日多種多様な既製服が豊富に出回って入る中で、自分の目的に合った被服を選び出すことは容易ではない。また退職製品等も増えている。愛用の服、気心地のよい服という観点から関心を持たせ、被服の機能について考え、素材の特性、構成や被服整理などについて理解させ、自分自身で衣服管理をさせたい。
- (3) 指導観 自分の手持ちの被服のラベルから繊維の組成や取り扱い表示等を調査させたり、具体的な事柄をもとに考えさせたりして興味を持たせる。また各項目ごとに必要な実験実習を取り入れ、科学的に合理的に理解させ、主体的に衣生活を設計できる能力が身に付くよう指導を行いたい。

4 指導計画

衣生活の科学と文化	24時間
①人間と被服	4時間
②被服材料の性能と特徴	6時間
③被服の構成と製作	8時間
④被服整理と衣生活の管理	6時間
衣服の購入	1時間
衣服の手入れ	4時間(本時2/4時間)
衣生活と環境・資源	} 0.5時間

5 本時案の指導

(1) 主題 被服の汚れと洗剤の働き

(2) 目標 ①被服に付着する汚れの種類や繊維への付着の状態について、科学的に把握させる。
②洗剤の働きを洗浄実験を通して理解させ、自分で日常的な洗濯ができるようにする。

(3) 展開

過程	学 習 活 動	指 導	配時	備考
導入	1 前時の復習と本時の学習内容を確認する。	○前時に学んだ被服の汚れの種類について発表させ、興味をもたせる。汚れを除去するため洗剤の働きについて理解することが目標であることを説明する。	5	
展開	2 汚れと汚れの付き方を確認する。 3 実験方法について説明を聞く。 4 洗剤にはどのような働きがあるか実験を通して知る。 (4人×5班) (実験方法) ①フェルトに1滴ずつ落とし様子を見る。 ②洗剤液・水に①を浮かべ、沈むまでの様子やかかった時間を記録する。 ③ラー油を入れて混ぜ観察する。 ④すすを入れて混ぜ、分散の様子を観察する。 ⑤さらしを④に入れかき混ぜて取り出し汚れ具合を確認する。	○ 実体顕微鏡を使い、テレビ画面で説明する。(付着・吸着・染着の各汚れの比較) ○プリントにそって実験方法等を確認する。 ○各実験で洗剤液・水の両方を行い、比較する。 ○机間指導をして適宜指導する。 ○実験結果をプリントに記録させ、各班1カ所ずつ黒板にも記入させる。	5 5 20	3種類の汚れ(布) プリント フェルト (2枚) さらし (2枚) 0.5%洗剤液 水 ビーカー (2個) ガラス棒 (2本) すす ラー油

終結	5 実験結果をふまえながら洗剤の働きを再確認する。	洗剤には浸透作用・乳化作用・分散作用・再汚染防止作用があることを理解させる。	10	
	6 後片づけをする。		5	

6 評価

- ① グループ内の実験や話し合いに積極的に参加し、適切な記録ができたか。(関心・意欲・態度)
- ② 汚れと汚れの付き方の違いを確認できたか。(知識・理解)
- ③ 洗剤の働きが理解できたか。(知識・理解)

4 「老人介護」学習指導案

日 時 平成 15 年 10 月 30 日(木)
 クラス 福祉科 3 年 1 組 A 班 14 名
 男子 4 名 女子 10 名
 教室 介護実習室 2
 授業者 教諭 野田 美穂

1 単元名 介護技術の応用(介護演習)

- 2 単元の目標
- (1) 2 年間で身に付けてきた基本的な介護技術を使い、利用者の条件に応じた介護を自ら考え提供できる応用力を身に付ける。
 - (2) 介護に関する安全性、自立性、個別性を尊重したサービスの提供ができるよう積極的に努力する態度を育てる。

3 単元設定の理由

- (1) 生徒観 本校の生徒は介護福祉士国家試験受験資格及び訪問介護員 2 級資格取得を目標に学んでいる。2 年間にわたり基本的な介護技術を身に付け、3 クールに分けて現場実習に取り組んできた。介護技術に対する関心・意欲も高く、「常に利用者本位」、「介護をさせていただく」という態度で臨んでいる。しかし、まだまだ利用者の理解が不十分で個別性に応じた介護が提供できておらず、場当たりの対応となっている。指示された技術に関しては、スムーズに対応できるが、自ら利用者に合った介護の方法を考える力が付いていない。
- (2) 教材観 介護は、一つ一つの技術に意味があり、利用者の価値観、生活観、障害や年齢によって提供する方法が異なってくる。相手の立場に立ち、身体的側面・心理的側面・社会的側面など幅広い視点から利用者を把握し、対応していく臨機応変な態度は何よりも大切である。事例問題を通して、利用者の条件に応じた介護が提供できるよう、自ら考え介護を行う姿勢を身に付け、実践できる態度を育成したい。
- (3) 指導観 事例を提示し、自ら利用者の問題点を見つけ全体像を把握し、個別性に応じた

介護方法を見つけさせたい。その中から、一つ一つの介護技術の意味、介護の多様性を理解し、実践できる態度を育成したい。

4 指導計画	介護技術の応用	21 時間
	ア 基本的な介護技術の復習	6 時間
	イ 介護演習	12 時間
	・介護演習の意義と目的	(1 時間)
	・実施方法の説明とグループ分け	(1 時間)
	・各グループでの介護演習実施	(4 時間)
	・介護演習発表会	(6 時間 本時 4/6)
	ウ 実技試験	3 時間

介護演習(全 12 時間)

No	指導内容	配当時間	指導上の留意点
1	介護演習の意義と目的	1 時間	○自ら利用者の問題点を見つけ全体像を把握し、個別性に応じた介護方法を見つける必要性を考えさせる。
2	実施方法の説明とグループ分け	1 時間	○演習の実施方法を理解させ、スムーズに演習活動できるよう、3 つのグループに分けて取り組ませる。
3	各グループでの介護演習実施	4 時間	○班ごとに事例を検討させ、利用者にあった介護方法を考えさせる。実施手順表を作成し、実施可能か考えさせる。 ○一つ一つの介護技術の意味を考えさせ、基本技術を応用する力を身に付けさせる。 ○指導者は、生徒が考え出した介護方法が、基本技術に沿った応用方法かを見極め、訂正・指導する。 ○プライバシーへの配慮、場に即したコミュニケーションの方法を実践できる態度を育成する。
4	介護演習発表会 <事例> ○ 着脱介助・歩行介助 (第 14 回国家試験問題参考) ○ 上方移動・体位変換 (第 15 回国家試験問題参考)	6 時間	○自分たちで考えた介護を他の生徒に指導することにより、それぞれの介護内容を確認し、達成感を持たせる。 ○さまざまな介護を実施する中で、介護の多様性を理解させる。 ○他の生徒の実技方法を観察し、より適

<p>○ ポータブルトイレへの移乗介助 (国家試験予想問題参考)</p>	<p>切な介護方法を見極める力を身につけさせる。 ○試験形式で介護を実施させることにより、試験に慣れさせる。</p>
--	--

5 本時案

(1) 主題 介護演習発表会(上方移動、体位変換)

- (2) 目標
- ①個別性に応じた介護方法を考え、必要に応じた介護ができるようにする。
 - ②デモンストレーションを観察し、より適切な介護方法を見極め、自分の意見を発表する。
 - ③個別性に応じた介護の大切さを理解し、自ら考え介護を提供するという姿勢を身に付けさせる。

(3) 展開

過程	学習活動	指導及び指導内容	配時	備考
導入	<p>1 身だしなみを整え、実習準備をする。</p> <p>2 前時の介護方法を振り返り、本時の学習内容について知る。</p>	<p>○実習へ取り組む姿勢を確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ(爪・髪・アクセサリ・ユニフォーム・シューズ・髭) ・挨拶の仕方 ・意識の持ち方(実習室は施設の中と同じである、という意識で臨ませる) <p>○前時に学習した内容をワークシート1で振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体位変換と上方移動の介護演習問題(第15回国家試験実技問題参考)のグループ練習。 <p>○本時は介護演習発表のための時間であることを説明する。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1
展開	<p>3 実施方法を理解する。</p> <p>4 事例の利用者の全体像を確認</p>	<p>○代表者1名が介護演習発表を実施。その他の生徒は観察者。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1と介護演習発表を見比べながら、気づいた点をワークシート2に記入させる。(悪かった点、良かった点、より適切な介護方法など。) <p>○対象者の全体像を把握し、その方に合った介護方法を確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左片麻痺、ベッド下方で左側臥位にな 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッド ・ワークシート2

	<p>する。</p> <p>5 代表者による介護演習発表を行う。 代表者 1名</p> <p>6 観察者は気付いたことを発表する</p>	<p>っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上方移動し、仰臥位で休んでいただく。 ・右上下肢の活用を支援。 <p>○国家試験形式で実施させる。 (入室の方法、挨拶の仕方、時間計測)</p> <p>○代表者の実技を見ながら評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントがずれていないか確認する。 *安全性、自立性、個別性の尊重 *残存機能の活用 *手順の間違い <p>○観察者には、気づいた点をワークシート2に記入するよう促す。</p> <p>○全員に、気づいた点を発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発表に評価、アドバイスをする。 ・生徒が気づかなかった点をアドバイスする。 <p>○生徒の発表の中から、総合的に考えてより適切な介護方法を見極めさせる。</p> <p>○一つ一つの介護技術の意味、介護の多様性を理解させる</p>	<p>10</p> <p>15</p>	
ま と め	<p>7 本時のまとめと講評</p> <p>8 次回の予告</p> <p>9 実習の後片付け</p>	<p>○個別性に応じた介護をまとめ、板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者をよく観察する。 ・一つ一つの介護の意味を理解する。 <p>○自ら考え介護を提供していくという姿勢の大切さを理解させる。</p> <p>○授業の取り組みを自己評価表に記入させる。</p> <p>○次回は介護演習発表会の三回目。ポータブルトイレへの移乗介助をすることを告げる。</p> <p>○必要物品の片付け、ベッドメイキング</p>	<p>8</p> <p>7</p>	<p>・自己評価表</p>

6 評価

- (1) 利用者の個別性に応じた介護方法を習得できたか。(思考・判断)
- (2) 介護演習発表を観察し、より適切な介護方法を見極め、自分の意見を発表できたか。
(関心・意欲・態度)(技能・表現)
- (3) 個別性に応じた介護の大切さを理解し、自ら考え介護を提供するという姿勢を身に付けられたか。(知識・理解)

5 「被服」学習指導案

日時	平成15年10月30日(木)第4限
クラス	福祉科 3年1組 B班 15名
	男子 0名 女子 15名
教室	3W1教室
教科書	新訂版 被服(実教出版)
授業者	教諭 津田 暁子

1 単元名 着 装

2 単元の目標

- (1) 被服の機能と着用目的の関係や着装について理解させ、快適で合理的な衣生活を営むために必要な知識や技術を習得する。
- (2) 着装について、根源的な人間の心理的欲求とのかかわりを知る。
- (3) 関連する市販品の選択が生涯にわたり自由に選択できるよう、産業界との関係を理解する能力や態度を育てる。

3 単元設定の理由

(1) 生徒観

本校の生徒は4～5割近くが祖父や祖母と暮らす拡大家族であり、日常生活の中で高齢者と接する機会が高校生としては比較的多い。福祉の科目では、障害者施設、老人施設等の施設実習を3年間で、合計28日間体験したことから、高齢者・障害者への関心・理解度も大きい。さらに、授業で得た知識・技術の向上にも努め、長期・短期の休日を問わず、ボランティア活動、インターンシップ体験へも積極的に参加し、地域の方々や施設の利用者とのコミュニケーションも上手になり、卒業後は介護従事者を目指すものも多い。しかし、福祉科で学んだ貴重な数多くの体験を、家庭一般や被服で学んだ生活上の科学的な知識と結び付け、高齢者の心理や実生活を理解し、生活の質の向上を求めることまでには至らない。

(2) 教材観

わたしたちは誕生直後から被服を着用しており、生涯にわたり人間性豊かで創造性にあふれる衣生活が望まれる。自己表現及び自己実現が容易であった青年期や成人期は、精神的にも身体的にも充実した生活を営むことが可能といえる。しかし、精神的・身体的機能の低下を余儀なくされた老年期の被服の着装については、悲観的になりやすいことを理解させ、積極的に活動するための個性の表現として考えさせたい。

(3) 指導観

高齢者の心を温かく理解することは、介護従事者だけではなく、将来の家族や自分の生活を楽しくさせることにもつながる。特に、高齢者の衣服を特殊なものにとらえず、保健衛生上の機能を理解した上で、楽しくなるようなデザイン・色などへの配慮ができる態度を育成したい。

4 指導計画

着 装

8時間

- ① 着装的意義 2時間
- ② 高齢者の観察 2時間
- ③ 生活と着装 4時間 (4/4) 本時

指導内容	配当時間	指導上の留意点
①着装的意義	2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被服と着装の関係を考えさせ、着装には保健衛生上の機能と社会生活機能の両面を満たすことが必要なことを理解させる。 ・ 着装について本校3年生を対象にアンケートをとる。 ・ アンケート結果を参考に快適な着装の条件を、考え理解させる。 ・ 被服の精神的機能と身体的機能との関わりについて理解させ、ライフステージと着装の関係を考えさせる。 ・ 和服と洋服の着装の違いから、服装の文化を理解させる。 ・ 高齢者についてはアンケート項目を作成することで、高齢者の着装に関心を持たせる。
②高齢者の観察	2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生の着装に対するアンケートと、高齢者の意識を比較させ、発表させる。 ・ 高齢者の精神的機能や身体的機能の低下と着装について考えさせる。 ・ 市販品の被服例を参考に問題点を考えさせる。
③生活と着装	4時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 着装の基本を理解させ、生活の場面に適した着装を考えさせる。 ・ 施設実習及び実生活を通して得た高齢者の衣服の現実と心理を発表させ、課題を見つけさせる。 ・ 共通した課題の分類を知り、着装の問題点、工夫や改善点、配慮する事項などについて各班ごとに考えさせる。 (2時間) ・ 高齢者が望む衣服の研究をさせる。 ・ 発表の準備をすすめる。 (1時間) ・ 各班ごとに調べた内容をまとめ、発表させる。 ・ 各班の発表からそれぞれの課題を見つける。 ・ 高齢者の既製服について、現状と問題点を見つけ、改善していく方法を考えさせる。 (本時4/4時間)

5 本時案

(1) 主 題 高齢者の着装

(2) 目 標

- ① 高齢者の身体的特徴を把握したうえで高齢者の望む被服と着装を理解させる。
- ② 各グループの課題と研究の取り組みから、高齢者の個性の表現と周囲の配慮について考えさせる。

(3) 展開

過程	学習活動	指導及び指導内容	配時	備考
導入	1 前時までの学習内容を確認する。 2 本時の学習内容について知る。	・ 着装のアンケート項目から本時の研究課題になった経緯を確認させる。 ・ ワークシートの記入方法及び、研究成果の発表について説明する。	5	前時のプリント
展開	3 グループごとに、研究成果について発表する。 課題設定の理由 研究の経緯 問題点 まとめ	・ 各班の着眼点を明確にさせ、発表の焦点を絞らせる。 ・ 他のグループと自分たちの考えの違いに気づかせ、観点の違いによる被服の役割を理解させる。 ・ ワークシートに各班の要点をまとめさせ、それぞれの意見を集約させる。	20	ワークシート 模造紙 マグネット
	4 各班の研究内容について質問させ、意見を出し合う。	・ 各班の意見や質問事項から高齢者の好む着装の工夫を総合的に考えさせる。	10	指示棒
	5 着装を通じて気づいたこと、介護従事者・利用者・周囲の配慮などについて学んだことを発表する。	・ 日常生活での着装の実態と工夫・本音や意見について高齢者の声を紹介し、好みやおしゃれ感を反映できる配慮の必要性を考えさせる。 ・ 被服の基本的な役割が年齢・障害のいかに関わらず共通していることを再認識させる。 ・ 介護従事者や家族・周囲ができる高齢者の個性の表現について理解させる。	10	高齢者の声 ワークシート
まとめ	6 本時のまとめをする。 7 次回の予告を聞き、準備の確認をする。	・ ワークシートを完成させ、提出させる。	5	

6 評価

- (1) 着装について関心をもち、家族・介護従事者・高齢者相互の精神的、身体的充実感の向上を目指すために、意欲的に取り組めたか。(関心・意欲・態度)
- (2) 家庭や施設、地域における着装観や高齢者の求める被服の現状について見直し、課題解決を目指して思考を深め、総合的に判断する能力がついたか。(思考・判断)(知識・理解)

6 「現代文」

日 時 平成15年10月30日(木)
クラス 福祉科3年2組 28名
女子 24名 男子 4名
授業者 教諭 田口 理一

1. 単元名 福祉に関する本の紹介スピーチ

2. 単元の目標

福祉に関する本を読んで、お薦めの一冊をクラスメートに紹介することで、公の場で筋道を立てて論理的に話すことの訓練をする。また、福祉に対する自分たちの思いを整理させ、様々な場で語るできるように準備をさせておきたい。

3. 指導の立場(単元設定の理由)

(1) 生徒観

福祉の学習や施設実習等の体験学習を積んで、介護職を中心に福祉関連の仕事に携わりたいと考えている生徒がほとんどである。現在、就職や進学を控えて、自己の志望動機を公の場で表明する必要に迫られている。しかし、生徒たちの話し言葉や日常会話は、貧弱な語彙による単語レベルの感覚的な会話がほとんどであり、筋道を立ててまとまった内容を話す場は意識的に設定しないと存在しない言語環境にあると考えている。

(2) 教材観

話すこと・聞くことの指導は、言葉の実の場を設定しないと学習者の動機を喚起することが難しい。今回は福祉関係の書籍を読んでお薦めの一冊を紹介することで、福祉に対する自分の思いを整理させたいと考えた。六百字から八百字のスピーチ原稿を作成させれば、2分間から3分間にかけて公の場で自己の考えを筋道を立てて話すことになる。3つの理由と主題を立てることを条件にしているので、事前準備では小論文や作文の対策にもなることを想定してこの表現教材を設定した。

(3) 指導観

人前でまとまった内容を話すこと、このような言葉の場に苦手意識を持っている生徒が大多数である。話すことの指導は、言葉づかいや音声言語の細かい事前指導が必要であるが、時間的な制約や指導者の力量不足から指導はとても困難である。せめて、事前のスピーチ原稿をきちんと用意していれば、3分間以内のスピーチはこなせるものだという実感や到達感を生徒たちに体験させたい。また、導入・展開(3つの理由)・結び(主題)といった枠組を決めておけば、あとは題材を発見することで、筋道を立ててまとまった内容を話すことができることを理解させたい。

4. 指導目標

枠組みを決めた六百字から八百字のスピーチ原稿とアウトライン表を作成させ、それに基づいてクラスメートの前で福祉に関する本の紹介をさせる。人前で筋道を立てて話すことの訓練を積むと同時に、クラスメートのスピーチを観点を設定して評価をしながら聞くことで「話すこと・聞くこと」のトレーニングをさせる。

5. 指導計画 福祉に関する本の紹介スピーチ

事前準備（1学期末）

- ① スピーチ原稿とアウトライン表の参考例を作成し、解説をする。 1時間
- ② 図書館で夏休みの読書感想文と本の紹介スピーチの素材となる本を探す。 1時間

事前指導（2学期）

- ③ 夏休みの宿題として本の紹介スピーチ原稿とアウトライン表を提出させる。
- ④ 帯単元方式で現代文（3単位）の授業の冒頭に2名ずつ発表をさせる。 9月より
- ⑤ 図書館に入れて、福祉に関するお薦めの一冊となる本を探させる。 1時間
(本校図書館・県立図書館からの借用図書・大分大学附属図書館からの借用図書)
- ⑥ スピーチ原稿とアウトライン表の提出期限、10月6日（月）まで
- ⑦ パソコンルームで一太郎・原稿用紙設定で各自のスピーチ原稿を入力させる。
(スピーチ原稿の内容について個別指導を行う) 4時間
- ⑧ スピーチ原稿に基づいてアウトライン表を修正させ提出させる。

発表と相互評価

- ⑨ スピーチA班（10名）の発表をさせ、相互評価をさせる。 1時間
- ⑩ スピーチB班（10名）の発表をさせ、相互評価をさせる。
(スピーチ原稿を文集化して生徒に配布)

本時

- ⑪ スピーチC班（8名）の発表をさせ、相互評価をさせる。 1時間

本時案

- (1) 主題名 福祉に関する本の紹介スピーチ
- (2) 本時の目標

- ① 筋道を立ててまとめた内容を発表する。(3分間以内)
- ② クラスメートのスピーチを観点を定めて評価する。
- ③ クラスメートの発表に対して短いコメントを書く。
- ④ 印象に残るスピーチの条件を考える。

展開（50分授業）

学習活動	指導内容	配時	備考

1. 本時の目標を知る	○ 相互評価表を配布し、評価のポイント、一言コメント記入の確認をさせる。	3	相互評価表を配布し、スピーチ担当者名を記入させる。 (一人 B 4・1枚)
2. 2分間～3分間のスピーチを発表する。 (10名) 3. 相互評価表の記入をする。	○ 10名の生徒に本の紹介スピーチを発表させる。(2分間～3分間) ○ スピーチ内容に対して一問一答。 ○ 一人ずつスピーチが終了した都度、その評価を相互評価表に記入させる。(1分間) ○ 音声/態度・表情/内容の3つの評価基準に基づいてABC判定をさせる。 ○ スピーチを聞いて印象に残った良い点、改善すべき点を短いコメントで記入させる。	40	アウトライン表とスピーチ原稿をもとに発表させる。 質問は教師側からスピーチの時間を計測する(ストップウォッチ)。 相互評価表、記入にスピーチ終了後の1分間を設定する。
4. 印象に残るスピーチの条件を考える。	○ 相互評価表を回収し、一言コメントを紹介することで、発表者のスピーチの良い点、改善すべき点を知らせる。 ○ 良いスピーチの条件をまとめる。	7	相互評価表を回収する。 回収した相互評価表は、切り離して後日、発表者に渡す。

評価

(1) 話す能力

- ① 適当な音量で、音声がはっきりしており、声が通っているか。
- ② 聞き手をしっかり見ていて、礼儀正しく、表情豊かに話をしているか。
- ③ 筋道を立てて論理的に話をすることができ、何を伝えたいのかが明確であるか。

(2) 聞く能力

- ① 音声/態度・表情/内容の3つの観点でスピーチの評価をする。

(3) 書く能力

- ① スピーチの良い点、改善すべき点を一つに絞って的確に表現する。

7 社会福祉実習（現場実習）見学

1 見学施設について

栄寿荘（特別養護老人ホーム）

〒875-0342 大分県大野郡野津町大字落谷530 0974-32-3838

・2年生（5名） 男子2名 女子3名

8日間【デイサービス又はデイケア1日含む】のうち7日目

2 実習施設と人数配置について

実習先施設名	人数	実習先施設名	人数
※栄寿荘 (野津町)	5	※アイリスおおいた (大分市)	3
ニコニコ銘水苑 (三重町)	5	※アルメイダメモリアルホーム(大分市)	4
豊西苑 (三重町)	5	※リバーサイド桃花苑 (大分市)	2
泉の里 (三重町)	5	メディケアふじが丘 (大分市)	2
※紫雲荘 (三重町)	7	※清静園 (大分市)	4
※豊寿苑 (弥生町)	3	※百華苑 (大分市)	1
鶴望野 (佐伯市)	2	※庄の原苑 (大分市)	1
※長良苑 (佐伯市)	2	やすらぎ苑 (大分市)	1
※花みずき (佐伯市)	5	※偕生園 (大野町)	1
南山園 (臼杵市)	4	※美晴が丘 (直入町)	1
臼杵福寿苑 (臼杵市)	3	※悠々居 (竹田市)	2
※四季の郷 (臼杵市)	3	※いずみの園 (中津市)	1
つくみかん (津久見市)	1	野津町社会福祉協議会(デイサービスのみ)	
※白梅荘 (津久見市)	4	岩田リハビリクリニック(デイケアのみ)	
※若葉苑 (挾間町)	1		

※ は特別養護老人ホーム ※以外は老人保健施設

3 実習の目的

(1) 介護の本質を知る

利用者が求めているケアのニーズに関する理解力、判断力を養い、QOL（生活の質）を高める援助を追及していく

(2) 介護の理論・技術・心を学ぶ

学校で学んだことをもとに、現場で介護の理論や技術を学び、実践する力を身につけ、介護の心を学ぶ

(3) 自己の感受性を養う

自分が何を感じ、何をしようとしているのかを知る

(4) 実習施設について理解する

施設の概要、運営の理念、一日の流れや諸行事、利用者の状況、職員の業務、施設・設備

や介護機器の活用方法などを知る

- (5) チームの一員として、介護を遂行する能力を養う
- (6) 介護の計画の立て方や記録の仕方について学ぶ

4 実習構成

1 年次

- 1) 先進地見学

2 年次

- 2) 社会福祉実習Ⅰ【知的障害者施設・身体障害者施設】・・・4日間
- 3) 社会福祉実習Ⅱ【老人保健施設・特別養護老人ホーム】・・・7日間
- 4) デイサービス又はデイケア見学実習・・・1日

3 年次

- 5) 社会福祉実習Ⅲ【老人保健施設・特別養護老人ホーム】・・・12日間
- 6) ホームヘルパー同行訪問・・・2日間

5 2年施設実習の流れ

実習の準備



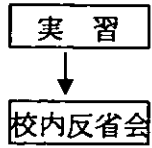
- 実習先希望調査提出 ※ ○生徒 ●教師
- 実習先へ実習依頼・調整（電話）
- 新規実習先へ挨拶（訪問）
- 実習依頼文章発送
- 保険加入
- 実習誓約書・個人票の提出
- 実習打ち合わせ（訪問）
- 持参書類
 - ・かがみ ・評価表 ※資料2
 - ・実習の意義・目的 ・実習誓約書
 - ・実習日誌 ※資料1 ・介護技術履修状況
 - ・個人票 ・返信用封筒

校内オリエン テーション



- 実習の意義、目的の把握
- 施設実習ビデオ視聴
- 各自の実習目標決定
- 各実習先における注意事項の確認（時間・持ち物・服装など）
- マナー講習会（施設の指導者）
- 実習の心得
 - ・注意事項(マナー)
 - ・日本介護福祉士会倫理綱領
 - ・先輩からのアドバイス

・実習記録の方法



●巡回指導（各施設 週1回）

○実習のまとめ

○自己評価

○礼状作成 ●発送

○情報交換

講 演 30日(木) 13:05~14:20 野津中央公民館 大ホール

司会進行 : 石川 康久 (大分県立日出暘谷高等学校長)

謝 辞 : 原 尻 正 信 (大分県楊志館高等学校長)

記 録 : 鶴 田 美 子 (鹿児島県立開陽高等学校)

野 田 美 穂 (大分県立野津高等学校)

演 題 変革の時代に求められる魅力ある高校福祉教育

—福祉の未来を担う人間性豊かな人材を育てるために—

講 師 大分大学教授 萩野源吾氏

略 歴

仏教大学非常勤講師、大阪府立社会事業短期大学非常勤講師、大阪キリスト教短期大学非常勤講師等を経て、平成9年大分大学教育学部助教授、平成10年大分大学教育学部教授、平成11年大分大学教育福祉科学部教授。日本社会福祉学会、日本基督教社会福祉学会、多文化間精神医学会、大分市ボランティアセンター会長、大分県保育・介護体験等総合推進事業委員会、大分市地域福祉活動計画策定委員会委員長他歴任。専門領域は障害福祉論、社会福祉原論。

人間の人間らしいところは「イメージ」できることである。今日は「イメージ講演」ということで、少し変わった構成にしています。創造逞しく前後の文脈から色々とイメージしていただきたい。

1 人間個人の位置と社会変化

(1) 社会の概念

生命体としての地球、すなわち「ガイヤ」。そして「宇宙規模の社会」を付け加え、4層ないし5層構造。社会とは、これらの各層の内部で、各層の相互でのトランザクショナルな動的な変化をもたらすものとして認識されます。

(2) 社会変動の方向

①イデオロギーの崩壊

最も印象深い現象を3つを挙げるとすると、第一にソ連邦の崩壊、そして二つに阪神淡路大震災、三つに同時多発テロでアメリカの貿易センタービルが崩れる姿であった。福祉理論も資本主義経済を核とする自由主義イデオロギーと社会主義の計画経済を核とする共産主義イデオロギーの影響を受けてきており、構造主義社会福祉論と機能主義論として対立してきた。今日こうしたイデオロギーだけで見ていく社会は崩れ、人間は一つの「思想」で生きられるものではないことを、歴史を通して知らされてきたように思います。

②序列化の崩壊

昔ながらの伝統的な価値が崩れる中でもこの「序列化が崩壊」という現象は多様な価値の中におかれはじめていくということでもあります。行政でもこのことを先取りしてすでに改革を始めています。

2 今の世相

①「バカの壁」(養老孟司氏)の福祉的考察

この本を福祉論的に考察してみたい。福祉論的には「バカとはなんぞや」といいたくになります。またもう一つ「個性を伸ばせの欺瞞」との意見は解剖学的立場であるとしても、社会関係重視の立場としての社会科学的・人間学的には反論したいと思います。ただ、「普段は情報がころころ変わり、人間は変わらない」と理解しているが、実は逆で「情報は不変であり万物は流転し、人間は変わるものだ」という解釈はさすが養老氏だと思います。福祉に関する価値観もこの点を十分吟味しなければなりません。もう一つ養老氏が指摘していることでは、今日的な社会状況を「唯脳論」としての「脳化社会」として捉え、それだけに「身体言語」が重要という養老氏の指摘は、福祉教科目のもつ実践的、体験学習を進める立場としては同感であります。

②「がんばらない」とは(鎌田實氏)の福祉的考察

「がんばらない」を主張する鎌田氏は、「ありのままに視ること、ありのままに生きること」の大切さを言っておられる。他人と比べて競争にあせったりしないで生きることを「癒し」として大切にしていくことです。知的障害の可能性の芸術といわれる「エーブルアート」のパワーを挙げておられます。今までは私たちの価値としてあまりにも「富国強兵」以来「強きもの」に憧れてまいりましたが、今や時代は「弱さイコールダメ人間」との解釈は、若者にとっては逆にダサイということになります。

最近の世相は福祉的価値と相当近似値にあります。

3 「共生」

すなわち「弱さ」は案外その本質部分において限りなく「優しさ」や「誠実」に近いといえます。そして、何よりも「弱さ」は「傷つきやすさ」(バルネラビリティ)にその土台があるといえます。実はこのバルネラビリティが「共生の原理」なのです。「ノーマライゼーション」は福祉的には「共に生きる」となり、この「共生」は今まで生物学的な共に棲むという「共棲」を主に説明してまいりました。共に利益を共有しながらも共存するという双利共生と寄生としてのパラサイトをここに含みます。「同床異夢」なんてことばがありますがこんな共生もありです。しかしもう一方の「わいわいがやがや」といような価値観の混在である「宴」、つまりコンビビアリティとしての共生についてはあまり触れられて参りませんでした。これは傷つきやすさと孤独を突き破っての、また敵対する関係性を突き破っての「共に生きる」ことへの模索であります。この「共生関係」を理解せねばなりません。

4 高校福祉教育の方向

「社会全体が今までほど寛容でなくなりつつある」との指摘がなされておりますが、特に子どもたちにとっての生きづらさ、閉塞感を解放させていく必要が教育や福祉には使命としてあります。1世紀以上を経過したわが国の教育の歴史からみての今日のニーズ教育は本格化されると思われまます。すでに障害児教育の面では「特別支援教育」のシステムは進みつつあります。高校福祉教育も当然こうした社会変動による時代潮流や教育の歴史的経過から切り離して考えることはできませ

ん。今、全国に約600校の福祉科高校が設置されてきております。高校教育の福祉の拡大は一つのブームでもあります。その流れは今始まったばかりではありますが、私たちは今から考えておくべき事が三つあります。

一つはたえざる創意工夫つまり発想の転換であります。幸い目下、今までお話してきましたように時流もあって、生きる力や総合学習や体験学習の重視、そして福祉科の必要性なのでありますが、いつまでも現状で進むとは限りません。短所を長所へ切り替える創造力が大切です。

二つに体験学習の利点とは単に体験させれば良い効果が得られるといった次元にとどまりません。「構造化されたプログラム」としてカリキュラム編成が必要です。

三つに介護やヘルパー養成だけが福祉科ではないはずですが、もっと多用に模索が成されて良いと考えます。

5 「あたりまえ」・「ありのまま」を求める時代

「あたりまえに支えあえる」体制作りとしてその裾野を広げるためにも高校福祉科教育は、その人の養成としておおいに発展していくことでしょう。しかし、人類の歴史2千年の中で、新しい福祉の歴史は特にこの国際障害者年から数えてわずか20数年たったばかりであります。今100分の1の歴史を刻み始めたばかり、急いではなりません。焦らず着実に前進する必要があります。また明の時代、「知行合一」を唱えた王陽明は、「知識とは実践してはじめて知識である。」とも述べております。陽明の実践学であります。福祉理論と学習はこうした側面を強くもっていると思われま

校長部会 30日(木) 14:50~16:50 野津中央公民館 大ホール
[総会]

司会 飯島 彦太郎 (長野県立上田千曲高等学校校長)

記録 原田 順子 (大分県立耶馬溪高等学校)

1 開会の言葉 辻 井 賢 隆 (三重県立上野商業高等学校校長)

2 会長挨拶 木 村 行 幸 (全国福祉科高等学校校長会会長)

3 議長団選出 議長・古山、副議長・井上が承認される。

4 議事

① 平成14年度事業報告 (事務局)

② 平成14年度会計決算報告 (事務局)

③ 平成15年度事業計画 (事務局)

④ 平成15年度会計予算 (事務局)

⑤ 平成15年度役員について (会長)

⑥ 平成15年度加盟校について (事務局)

⑦ 総会並びに研究協議会会場地区、全国主任等分科会分担について (事務局)

平成16年度全国大会 主管校：徳島県立小松島西高校

⑧ 規約改正について (事務局)

⑨ 第10回大会の表彰等について (事務局)

第10回大会は記念大会とし、表彰を行う。

⑩ その他 (会長)

質) 全国の加盟校のブロック編成について。北海道の加盟校は5校と少なく、九州・沖縄の加盟校は56校と多い。北海道は非常に少ないので、ブロック編成を考え直すべきではないか。また、九州・沖縄ブロックはもう少し細かいブロック編成をしたほうがいいのか。

答) 今後の検討課題にしたい。

5 閉会の言葉 安 井 啓 夫 (奈良県立榛原高等学校校長)

[研究協議会]

- 指導助言 : 矢 幅 清 司
(文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官)
- 司会進行 : 高 橋 福太郎 (青森県東奥学園高等学校校長)
- 記 録 : 明 石 二 郎 (大分県福德学院高等学校教諭)

- ① 第15回介護福祉士国家試験結果について
- ② 介護福祉士試験について
- ③ 福祉科教員の研修について
- ④ その他

第15回介護福祉士国家試験結果について

〔矢幅調査官〕結果について全体で48.0%、福祉系高校52.7%。高校の努力が見られる。内訳は、52.7%のうち純粋な福祉系高校47.7%、福祉系連携高校30.6%、現役学生66.1%となっている。福祉専門学科を置いている高校では49.2%、総合学科では46.7%、普通科33.0%、となっている。合格率に大きな変化が見受けられないように思えるが、受験者数では専門学科4600名、総合学科503名であり、総合学科ではかなりの校込みがある様子。また、全ての高校において50%台の合格率があるのではなく、格差がある。生徒のほとんどが受けて90%台の合格率を誇っているのが全国で2つある。山形県立山辺高校。岐阜県立大垣桜高校。80%が10校、70%が13校、60%が14校、50%が23校。そこで昨年受けた高校が128校受けているので65校が50パーセントを超えている。逆に、昨年度、受けて一人も合格者が出ていない高校が3校ある。

〔司 会〕 どうしたら合格率が上がるかを矢幅先生に伺ってみたい。

〔矢幅調査官〕 合格率のいい高校に取り組みを聞いてみるのもよいと思う。

〔大垣桜高校 山本氏〕 本校は、介護福祉士国家試験を合格させるためだけを目的にして実践している福祉教育ではない。では、なぜ合格率が高いかという職員とのチームプレイが、とてもよくできていることだと思う。1～3年生の間にどのように生徒を育てていくかと言うことを職員全体で考え、話し合い実践している。もう一つは、福祉教育は心の教育だと考えている。この心の教育を行うにあたっては、毎日の授業の積み重ねがある。また、現場の実践者を招き講話や特別授業などをする際、生徒と同様教員も一緒に学んでいる姿がある。いわゆる指導力の向上があげられる。

〔司 会〕 まとめると①生徒に教育していく上での教員のチームプレイ。②福祉教育は心の教育であるとの自覚と実践。毎日の授業への真剣な取り組み③現場の職員(外部講師)を招いての生徒、教員の勉強の場を確保となります。

介護福祉士試験について

〔矢幅調査官〕 介護福祉士の試験が量から質の時代に入った。筆記試験が100問から120

問になりました。また実技試験の充実を図るため、介護実技講習会を全国的にむけて検討中である。この介護技術講習会について質問や意見、情報があれば出していきたい。パブリックコメントをいただきたい。その上で介護技術講習会のメリット、デメリットを考えて、高校側としての意見をまとめて厚生労働省の方に持っていきたい。できるだけ希望をかなえていけるように努力したい。

〔三重県上野商業高校 辻井氏〕介護福祉士の受験費用が13,300円、受験だけでも大変なので、介護技術講習会の費用を低額な設定にしてもらいたい。

〔矢幅調査官〕厚生労働省のホームページで検討委員会の内容が掲載された。その中で検討することの一つに介護技術講習会に関する費用についての意見が出てくるであろうとあった。講習における講師料などもあるが高額な費用にならないように意見を出していきたいと考えている。

〔栃木県田沼高校 奈良部氏〕栃木県のほうでは3校で介護技術講習会の評価について、非常に大きな問題を抱えているのではないかと意見が出された。

〔矢幅調査官〕介護技術講習会の評価についての協議会で出された意見は、是非お送りいただきたい。

福祉科教員の研修について

〔木村会長〕千葉県では各地区に福祉コースのある高校が1つはある。本年度11月下旬に第1回福祉科教員研修会を開催する予定。いずれは組織の立ち上げが必要だと考えている。

〔大館高校 宮越氏〕秋田県では11月6・7日には実習授業の授業研究を行う。その際、施設職員を呼んで講演をしてもらうようになっている。

〔田沼高校 奈良部氏〕栃木県では専門学科3校による意見交換・勉強会、研究協議会を立ち上げてきた。来年度から高校教育研究会の福祉部会の立ち上げを考えている。また、来年度は予算的なバックアップをもらいながら進めていける。

〔矢幅調査官〕最後に、教員のレベルアップを図る必要がある。外部講師の依頼、学会や海外研修

を進め、それを学校内で発表することも重要である。

その他

〔宮之城農業高校 上妻氏〕鹿児島。看護の世界に比べ、介護職員の処遇が良くない。処遇の向上を図ってほしい。人材確保における処遇の改善をお願いしたい。

〔フェイス学院 福井氏〕施設基準として介護福祉士を求めているのか。介護福祉士が施設に何人いるというしほりがあるのだろうか。

〔女性教員〕進路については半分が就職希望で半分が進学。そのうち就職希望者は100パーセントの確立で就職する。施設実習時の生徒の動き、または先輩が就職し、とてもいい働きをしていると、次の求人も来るという状況である。しかし、このような体制がどこまで続けられるかという今後は心配である。進学の方は4年制大学が多く、中には看護の方へ進む生徒もいる。

〔矢幅調査官〕就職についてだが、就職してしまっただけで終わりではなく、そのあとのフォローも

できる体制が大切であろう。就職してからの評価も問われている。また、施設基準としてのしほりという質問についてだが、施設としてのしほりは無い。しかし、介護保険の導入により施設の情報公開がある。そこで施設に有資格者が何人いるのかと言うことはとても重要なことになってくる。

〔釧路星園 川村氏〕 介護福祉士の養成施設としての施設基準を教えてください。

〔矢幅調査官〕 施設設備についての質問ですが、介護福祉士養成教育に関する施設設備の基準について、案を作っております。ユニットのナンバー29、保育・福祉のユニットが630㎡であったものが1170㎡と倍近くになり、予算も3045万の補助であったものが、4412万の補助とアップしているのでかなりの物ができると考えられる。

〔司 会〕 ここで、時間が来ましたので3号議案については終わりにしたいと思います。次に会長報告に映りたいと思います。

〔木村会長〕 昨年の総会よりの案件が2件あります。1つは「福祉科の独立」、もう1つは「福祉科校長会の会長の選出」です。会長選出については、今迄、関東の県が順番で会長を担当してきましたが、県の事情により、この方法では実施不可能な現状があります。この2件について、理事会の中で検討委員会を設けて検討してまいりますので、ご承知おきください。

〔司 会〕 最後にもう一度、矢幅先生が言い忘れたこともあるかもしれないので、もう一度おねがいたします。

〔矢幅調査官〕 最後に、いつでもかまわないので、質問等があれば聞きに来てほしい。

学科設置校分科会

平成15年10月30日(木) 14:50~16:50

野津中央公民館多目的ホール

- 司 会：小川 義光（青森県東奥学園高等学校教諭）
河野 春子（宮城県立迫桜高等学校教諭）
指導助言：名倉 弘子（大分県教育庁学校教育課主幹兼係長）
記 録：鉄島 真美（熊本県立芦北高等学校教諭）
岩野 徳子（熊本県熊本フェイス女学院高等学校教諭）

テーマⅠ 授業研究

「介護技術及び指導技術の向上を目的とした授業実践」

発表者 熊本県立阿蘇清峰高等学校
教諭 中山 美宇

1 はじめに ～学科概要～

本校は平成9年度に熊本県で初めての県立高校福祉科として農業高校の中に新設された。阿蘇の外輪山に囲まれた壮大で豊かな自然環境の中で、1学年1クラス（定数40名）、現在5～7期生の106名が学んでいる。郡部であるため、交通面での心配はあるが、県内様々な地域から生徒が来ており、男女比は半々くらいである。興味関心にあわせ2年次より選択科目の導入、3年次には2系列に分かれた授業を展開している（H15年度入学生）。訪問介護員養成研修や校外実習の実施方法等課題は多い。

本校社会福祉科の2系列

- 介護福祉系・・・介護専門職を目指す。介護福祉士国家試験受験資格取得、訪問介護員養成研修1級課程修了可能。
- 教養福祉系・・・福祉・介護の基本を学び、より家庭の視点から福祉をとらえる。訪問介護員養成研修2級課程修了可能。

2 テーマ設定について

介護専門職に必要な技術として、大きくは「介護技術の提供」と「介護技術の指導」の2つがあると思うが、今回、訪問介護員1級課程養成研修のテーマにもなっている「介護技術及び指導技術の向上」の内容について、これまでの流れと昨年度の取り組みをまとめてみることにした。

- 1級課程本テーマの目標・・・2・3級課程養成研修の指導、介護技術の習熟
- 社会福祉演習の事例研修・・・求められるサービス内容や介護者の対応のあり方等を深く研究する。

3 授業内容の位置

3年次一学期施設実習の後、二学期演習での実施。実施内容についての検討は、これまでの校内・外実習の実施の中で検討されながら、3年次実習を終えた時点で教科担当でまず検討し、生徒が検討・選択する。最終的にこの

機会においては、グループワークとしてまとめている。なお、訪問介護員養成研修1級課程の一教科としての実施時間は、30時間以上となっている。

4 授業方法のこれまで

これまで本テーマは、3年次での学習内容として4回実施している。実施した方法は、その年度毎に対象などを変えながらも、「人に伝える」「これまでの体験を生かす・振り返る」を具体的な視点の中心としてきた。

- 1年目：介護実習毎に担当グループを決めて、他者（クラス員）に介護方法を実践説明。
- 2年目：主に1年目に同じ。説明の機会を文化祭で1コーナー設ける。
- 3年目：施設での実習を想定して、「施設の一日」と題してグループ毎に場面設定。実習生役、職員役、利用者役となりロールプレイ。3年次実習時のプロセスレコードの具体化による検討。
- 4年目（昨年度）：介護教室を想定して、グループ毎に内容の設定。職員役と他の者は教室参加者役となってロールプレイ。参加者役は実施者の評価も行う。評価表は担当グループが自ら作成したものを使用。

5 授業の展開

○昨年度の授業の流れ（30時間）

学ぶ意義や「指導者」「ロールプレイ」についての学習をし、3年生の実習の後、アンケートをとり、どのようなテーマで取り組みたいかを決め、グループをつくる。シナリオ・評価表作成の後、「介護教室」のロールプレイを実施する。その後、生徒たちは個人で各グループの評価をし、各グループはその評価を見てシナリオを練り直し、再度実施する。

6 生徒実践の様子（パワーポイントによる発表）

7 昨年度の考察 ～実施の効果・評価とのつながり～

対象者（教室で参観する側の生徒役）を「まったく介護方法を専門的に学んでいない方」として行ってみる行為は予想以上の気づきがあったようである。だが、生徒自身の評価については、その後の生かし方について、まだ積極的な関わりが必要かと思った。シナリオについて教師側のコメントが的確にできていたかが評価できていない。

今回の、生徒自身で評価項目までを検討するという取り組みは、本来の味での指導技術の向上、及び、これからの私たち教師側の評価方法の検討にもつながるものと感じた。

本テーマについて、今後も様々な方法で研究し実施していきたいと思う。

8 最後に

本校は、7年目になる学科である。本校の社会福祉科だからできることが

ないかと教育課程を常に動かしながらの模索を続けている。県立高校として学校全体の抱える課題もある。福祉マインドの育成、郊外実習、訪問介護員養成研修、国家試験対策、職員態勢、施設・設備、予算の捻出、教員自身の力量の向上、授業カリキュラム等々、課題とするところは未だに多い。今後一層、地域により必要な学科となるための地域とのつながり方について、生徒の様子を見ながら工夫し考えていけたらと思っている。

今年度、熊本県の高等学校教育研究会に福祉部会が新たに設置された。より教科の研究がしたいという思いでの発足である。目的を活かす取り組みを可能にする場づくりに向けて、是非盛り上げていきたいと思う。

テーマⅡ 進路指導

「専門学科における進路状況と課題」

発表者 函館大妻高等学校
教諭 畔田 かおり
教諭 田中 芳博

第1部 本校概要および福祉科進路状況発表者 畔田 かおり

1 本校の概要

本校は大正8年創立者・初代校長外山ハツが志を立てて単身上京、大妻コタカ先生（大妻女子大学学祖）の門を叩き、門下生として約6年間厳しい学業と努力を重ね、恩師大妻先生の教育に対する強い情熱と不撓不屈の精神力を体得し、大正13年「函館大妻技芸学校」として創立したのがその始まりである。昭和55年度北海道社会福祉協議会学童生徒のボランティア活動普及指定校となり、昭和57年「北海道ボランティア奨励賞」を受賞するなど、戦後まもなくの混乱の中で活動を開始した「愛護部」を中心としてのボランティア活動は地域社会から高い評価を受けている。こうした長い歴史の中で培われてきた各種社会福祉施設とのつながりが、本校福祉科の土台となり、また施設介護実習や非常勤講師派遣を容易にしてくれた。

校訓「恥を知れ」のもと、「しつけ教育」を中心にした心身ともに健康で、豊かな人間性と思いやりのあるやさしい心を持った女性を育成することを目標としている（家政科101名/福祉科122名/生活情報科112名/普通科184名）。

2 福祉科概要

教育目標

福祉の担い手となるべく福祉の知識を学び、「福祉の意義」「思いやりの心」「豊かな人間性」「豊かな人間性」を養う福祉の技術を学び、「表現の豊かさ」「利用者の理解」「信頼のもてる技術」を養う知識と技術を学び、「介護福祉士国家資格取得」を目指す。

進学状況・推薦制度もあり、進学がしやすくなった。

就職状況・・家庭の状況も影響し、約6割が就職。介護職が多くなってきているが、毎年採用があるかはわからない。福祉科の実績と施設との関係が大きく影響する。

3 本校の進路指導

1) 職場訪問

5月の中間テスト期間中の放課後を利用し、採用していただいた企業・施設等へのお礼を兼ねて、就職者の職場における勤務状況を伺い、来年度の採用についてのお願いをして、今後の生徒への進路指導の参考にするために実施するものである。実習をしたことで指名求人をいただくこともあるし、他施設についての情報も得られ、就職につながることもある。

また、これから就職試験に挑戦する生徒への要望などを職場訪問報告としてまとめ、生徒への進路指導に役立てている。

2) 面接指導

就職開始時期より生徒が履歴書を提出後、学年の先生方・進路指導部担当の先生を中心に放課後、個人・集団面接を行う。受験報告書を元に過去に先輩方が受験した先と同じもしくは同職種の報告書より質問事項や方法を類似させながら模擬面接を行う。進学者も同様に願書提出後行う。

4 福祉科としての取り組み

1) 資格取得

介護福祉士国家試験受験資格/訪問介護員1級課程・2級課程/普通救命講習修了認定/家庭科食物調理技術検定1級・被服製作技術検定4級 他

2) 介護福祉士国家試験取得状況

本校受験者合計482名/合格者合計370名/合格率平均76.76%/取得者数(再受験者含む)/福祉科卒業生482名/有資格者429名/取得率89%

安定した合格率を保つことができ、地域から信頼されるようになった。

介護福祉士国家試験不合格によって就職が取り消されたことはない。先輩の実績が採用を決める大きな要素となっている。

3) ボランティア活動

本校では、時期や施設を問わず多くのボランティアの依頼がある。学年を問わず福祉科を指定した形での依頼であり、今年度は6月～8月にかけて8施設から依頼、生徒参加延べ人数77名となっている。

5 今後の課題

1) 進学について

福祉を担う人材育成という状況の中で、上級学校に進み、さらに幅広い学問を身につけようとする生徒にとって、放課後の学習時間の確保や部活動との両立を考えると生徒の疲労も否めない状況であり、他の科の生徒に

比べてかなりのハンディになっている。18歳人口の減少に伴って、大学・短大・専門学校側も変革せざるを得ない今日の状況を大いに活用し、推薦枠を一つでも多く確保し、希望をかなえてあげられるようにしなければならない。

2) 就職について

就職の現状としては新設の施設を除けば中途採用が多く、通常就職活動開始とは異なっているため、求人が有るのか無いのかわからない就職を、根気強く待つしかない状況である。ましてや施設職員の数も規定の人数を満たしているため、定年や退職者の補充程度しか求人がないのが現状である。そのために常に施設関係者との情報交換を密にし、求人の動向に耳を傾けていかなければならない。

6 おわりに

今年で福祉科が設置されてから16年目を迎えた。15年間で培われてきた本校のボランティア活動や介護福祉士国家試験の合格実績、先輩方の各施設での活躍により、地域や施設の方々から「福祉の大妻」と称されるようになってきた。

先輩方は現在介護支援専門員の資格を取得し第一線で活躍している者や主任という立場で、職員の指導、同時に後輩への指導を行っている。その活躍が認められるからこそ、市内の施設からの求人がいただけていることは明確である。その人材を育てるのが我々の役目である。まずは基本的な生活習慣の徹底から始め、挨拶や言葉遣いについて指導していくことは本校はもちろん、他の高校でも四苦八苦していることでしょう。

施設職員が利用者に求められるニーズと同じく、介護職員として求められるニーズに対して、信頼に応えられる生徒を育成していくことが私たちにとって重要であると感じている。

第2部「心にせまる進路指導」 ～作文からみる生徒の福祉観～

発表者 田中 芳博

1 課題設定の理由

大妻高校に赴任する前は知的障害者福祉施設に勤務していた。初めての介護福祉士国家試験受験から、本校福祉科の福祉教育に携わっている。

本校福祉科は専門学科であり、昭和63年、家政科福祉コースでスタート時点から、「介護福祉士国家試験合格」を学科の第一目標にしている。

しかし、一方では受験対策中心の取り組みでは、生徒が卒業後、福祉の実践現場に立ったとき、福祉専門職員として実際にサービス利用者中心の援助活動を展開していけるのかという不安もあった。心の福祉教育、専門学科としての進路指導の問題である。そこで本校では、「生徒の福祉観確立への援

助」を学科の第二の目標に設定している。

具体的には、卒業時に「あなたにとって社会福祉とは何ですか」と問われたときに、自分の福祉観をしっかりと述べるができるということである。社会福祉を学ぶことは、自分自身の生き方を考えることでもあり、「自己の生き方の自覚」にも通じる。また、この目標には各教科担当者の生徒に福祉実践に必要なスピリットを自分なりの形で持ってほしいという願いも込められている。

実際には、生徒の実態に合うように、各教科の担当者及び学級担任が連携を取りながら授業内容をクロスさせることであり、生徒の発達段階に合った教材を準備することを重要視している。教科書を目次の順に教えるのではなく、「学校での学習（基礎）⇔現場実習（応用）」「理論⇔実践」の考え方ができるようなプログラムを準備することを目標に、教科書以外の教材として、新聞記事や文献を参考にしている。また、生徒の内面を知る材料として、主に作文によりその効果を確認していることから、今回の発表は、各学年の生徒の作文から、「自己の生き方と福祉観」に関係するものを取り上げて考察することにする。

2 各学年の作文紹介

3 考察

今回の作文は、抽出生徒の三年間を追ったものではなく、複数の生徒の作文であるため、全体的なこととして評価することになるが、各学年の作文の内容から、「自己の生き方と福祉観」について考察すると、次のような変化が見られる。

一 年 生 理想追及期	実態	社会福祉基礎・社会福祉実習などの授業により、社会福祉の理念や基礎的な介護に関する知識を獲得していく
	福祉観	自分の理想とする福祉社会のあり方について考えるようになる自分が目標とする介護福祉士のあるべき姿について考えるようになる。

↓

二 年 生 葛 藤 期	実態	社会福祉制度・社会福祉援助技術・老人介護などの授業により、社会福祉および介護の専門性を知る。
	福祉観	自分の理想とする福祉社会と現代社会とを比較し、社会福祉制度とサービス提供の在り方について、その矛盾点などにも気づくようになる。 社会福祉現場実習を経験することにより、社会福祉の仕事の厳しさとやりがいを知る。 介護福祉士という進路に不安を感じる生徒もでてくる。

↓

三 年 生 自己実現期	実	各専門科目と社会福祉現場実習で学んだ知識を統合させながら、社会福祉について考えるようになる。
	態	基礎的な介護技術を実践できるようになる。
	福	社会福祉援助における専門的な知識及び技術について、サービス提供現場と結びつけて考えるようになる。
	祉 観	社会福祉の専門的な視点に個性が見られるようになる。 自己の福祉観と結びつけながら、進路を決定するようになる。

生徒の中には社会福祉関係以外の進路に進むものもいるが、「自己の生き方と福祉観」について考えることは、各生徒の自己実現に何らかの形でプラスの影響を与えることができると考えている。

本校の教科福祉担当者の共通的教育目標

福祉科卒業生一人ひとりが、専門的資格と自己の福祉観を持って生活することにより、地域社会において、心のバリアが少しでも除去されていくことを願いつつ、本校福祉科もその一つの点になりたい。

今回、福祉科におけるクロス学習プログラムについては、まだ実践段階といえる状態ではなく、発表できなかったが、今後の継続課題として取り組んでいくことにしている。

質疑応答（テーマⅠについて）

Q： 理解が不十分で取り組みが遅れている生徒への対応、その後の生徒の変化を教えてください。

授業展開の最後、まとめの内容を伺いたい。指導者数、打ち合わせなどの指導者側の状況について伺いたい。（神奈川 川崎高）

A： 授業について行くのが難しい生徒も確かにいる。生徒間で共にやっという雰囲気づくりが大事。心配なところは教員がつくようにしている。取り組みの遅れている生徒は、ビデオ撮影などの担当になることが多いが、少しずつ自分も意見を出したいという気持ちを示し、活動の中に入っていく。

まとめでは、受講者役から出されたコメントを見て感想を書き、発表をする。教師の総括では、生徒の言葉をひろいながら、指導者側に立つということの難しさを伝える。自分はどうだったか、もう一度振り返り、今後はどのようなテーマで取り組んでいくのか、考えさせる。

福祉科職員は「福祉」2人＋非常勤1人、「看護」（講師）1人。

Q： ロールプレイ「介護教室」は授業以外のところで活用されているのか。訪問介護員養成研修の1単位は60分なのか、50分なのか。1級、2級

と実施されているが、期間についての工夫があればお聞きしたい。(群馬 吾妻高)

A: 「介護教室」は本校職員には呼びかけ、他教科の先生にも参加してもらっているが、保護者にも呼びかけをすれば良かったかと思う。文化祭でビデオの上映を行っている。

1単位は60分。通常50分授業時間帯での実施だが、前後の関連する授業、休み時間、レポート作成等で補う。

2級は2年生4月～10月(講師の都合で遅くなることもある)、1級は2年生1月～3年生11月(在宅実習のみ夏休み)。

質疑応答(テーマⅡについて)

Q: 作文はどのようなタイミングで書かせておられるのか。生徒の書いた作文はその後どのように資料展開していくのか。(新潟 八海高)

A: 1年生は今頃(10月)の時期に書かせ、コメントを書いて返している。3年生は進路につながるのと同じ題材で2回、3回と書かせる。宿題にしたり、援助技術の授業の中で書かせたりしており、いつ、どんな題材で、と決めているわけではない。

Q: 求人がなかなかない状況だが、もし求人がこなかった時にはどのように指導されるのか。進学の場合、介護福祉士国家試験対策や実習により時間をとられると思うが、一般入試を受ける生徒がいるのか。校内模試はどのくらいしているのか。卒業生の介護福祉士再受験の対応はどのようにされているのか。(兵庫 日高高)

A: 現在、就職希望者21名中2名しか決まっていないが、何件かは求人をしていただいている。卒業時に進路が決まっていない生徒もいるが、卒業後、中途採用の連絡をいただくことも多く、なんとか就職させることができている。進学については、一般入試で受ける生徒はいない。全員が推薦入試。業者模試は年に2回。本校独自で行っている模試は、夏休み4日、冬休み14日(国家試験の前日まで)の模擬試験をしている。卒業生も担任が責任を持って指導をしている。

Q: 高校生にここまで深く作文指導をされておられるのに驚いた。どのようにして生徒の気持ちをひきだしておられるのか。作文を書かせるタイミングは設定しておられないということだが、どのように実施されているのか。どこまで生徒に入って指導をされているのか。(静岡 三島高)

A: 各担当者がどのタイミングでどのように授業内容をクロスさせて指導していくのかが今後の課題。教科「福祉」職員が担任をしており、1年から3年まで担任がかわることがないので、生徒との関わりが深くなる。私自身12年間連続で福祉科担任と生徒指導をしてきたことも関係するかもしれない。最近では、授業にグループエンカウンターを取り入れている。

Q： 介護福祉士国家試験を全員受験にしているとリタイアする生徒も出てくるが、どのように対応しておられるのか。求人の形態としてパート、アルバイトが増えているが、このことに関して取り組みがあれば伺いたい。
(福岡 久留米筑水高)

A： 本校では生徒同士のつながりが強いのでみんなで頑張ろうという気持ちを高め、取り組ませている。求人のない中で、パートでも求人を出してもらえらるということがありがたいということを生徒に話しているので、抵抗感はなくなっている。

指導助言 名倉 弘子 先生 (大分県教育庁学校教育課主幹兼係長)

これまで学校設定科目として実施されてきた「福祉」が教科「福祉」となった。これを機会に、各学校で教科「福祉」について、指導内容の見直しをしていただきたい。

「福祉」は人間としての教育であり、感性を育てることが大事。資格取得だけが目標ではないことを認識しなければならない。

どの時期にどのような指導をしていくのか、他教科や進路指導との連携、評価方法等もふまえ、「福祉」でどのような教育をして行くのか、保護者や地域に説明ができるよう、研究を進めてほしい。

コース・系列等設置校分科会

30日(木) 14:50~16:50

野津中央公民館 和室

研究協議題

1 現場実習

発表 「本校における現場実習の現状とこれからの課題」

新潟県立西川竹園高等学校 教諭 中川裕輝

2 資格取得

発表 「介護福祉士資格取得の取り組みについて」

秋田県公立合川高等学校 教諭 穴倉博明

指導助言： 高取 千鶴子 (福岡県教育庁高校教育課指導主事)

司会進行： 唐島 一将 (島根県立松江農林高等学校教諭)

矢野 美代子 (広島県立黒瀬高等学校教諭)

記録： 田中 直美 (佐賀県立牛津高等学校教諭)

弟子丸 ともえ (佐賀女子高等学校教諭)

(質疑応答および意見交換)

1. 現場実習について

Q： 看護の講師として指導を行っているが、この会にご参加の先生方で看護の先生はどれく

らいいらっしゃるのですか。(熊本芦北高)

A： (挙手で8名確認) 訪問介護員養成課程の実習は3～4日の実習であるが、デイサービス見学・同行訪問 実習・施設での介護実習におけるそれぞれの目的をだしてきちんとそれを生徒に把握させ実習を行わせた方がよいと思う。本校では、それぞれ目標を決め、最低項目を示し、実習後その評価をしている。また、受け入れ側にも知識・技術・態度で評価していただいている。また、実習現場が多岐にわたっているため、巡回が大変である。巡回の出欠確認だけなら福祉科の教員でなくともだれでもできると思われる。何を目的として巡回指導を行うか明確にしておく必要がある。生徒の実習目標と巡回時の指導内容があってなければいけないと考え、本校では目標に対する達成度や実習の記録について確認・指導を行っている。実習の受け入れ先が減っているという件についてだが、現場の方は有資格者であるため専門職者としてのプライドがある。そのため、実習目的なしのいい加減な気持ちで来られては困るのは当然であると考えられる。資格取得を目指しているのであれば、教員も生徒も、明確な実習の目的意識が必要ではないかと思う。(熊本 芦北高)

Q： 現場実習の事後指導はどのようにされているか。また、実習後生徒はどのような感想をもっているか。実習ノートの形式について教えてほしい。(京都 福知山高)

A： 事後指導は、次の週にまとめを行い、発表をさせている。個人でまとめて発表をし、質問に答える形で実施している。生徒の感想は表現力の不足もあって「たいへんだった」「楽しかった」「先生の言うことと同じだった」「利用者にこんなことをしていいの・・・」というような感想を述べている。また、「もう行きたくない」「とても、利用者のことを考えている」等実習先により異なる場合もある。実習ノートは、パソコンに保存しているの
で後の時間でよければお見せ致します。(新潟 西川竹園高)

2. 資格取得について

Q： コースでのスタートと聞いたが、当初から介護福祉士の養成を行ったのか。

(大分 文理大付属高)

A： 当初から介護福祉士の養成であった。訪問介護員養成研修事業は2級から1級へと
なった。(秋田 合川高)

〈指導助言〉

高取 千鶴子先生(福岡県教育庁高校教育課指導主事)

発表にもありましたように、福岡県においても現場実習の受入先確保が難しいという状況がある。任意の連絡調整協議会を設立し、申し合わせ事項などを検討して、各施設には従前と変わらぬ実習受入のお願いはしているが、施設側も昨今の各機関からの実習申込の多さに回答を難渋されている。実習先の確保については、受け入れ時の施設側及び学校側の課題を明確にしなが、今後一層検討する必要がある。

福祉教育の目標については、目標をどこにおくかが大きな問題であり、必ずしも介護福祉士国家試験受験資格取得や訪問介護員の認定だけが教育の目標におかれるのではない。福祉教育の目標は、一つは介護福祉士養成等の専門的な知

識・技術を有する人材、すなわち将来のスペシャリストの育成であり、もう一つは社会福祉に対する幅広い視野と福祉観を養う、いわゆる福祉教養を身につけることかと考える。まだ、教科ができたばかりであり、教育の実践はこれからである。体系だった教育の指導内容・方法を確立していかなければならない。

教育は教師一人の思いだけで動くのではない。福祉教育も然りである。各学校には各学校の教育目標があり、学校全体で取り組まなければならない。例えば、特色ある教育課程を実施する上においては、各大学科の枠を取り払うことで、新しい教育の展開が見えてくることもある。課題は多くあるが、生徒のモチベーションが高められ、学習成果が期待できる授業の工夫展開が必要である。最近、福岡県でも高等学校において訪問介護員の養成を実施したいとの問い合わせが多く、どのような科目を設置すればよいか、よく尋ねられる。そうではなくて、まず先にその学校での福祉教育の目標があり、どのような教育を目指すのが大切である。資格等はその後についてくるものかと思う。

現在、福祉の教科免許を有する教員が誕生しているわけであるが、課題は山積している。一刻も早く福祉の研究部会等の立ち上げを期待し、本県の福祉教育の充実を図りたい。

大会（2日目）報告

全体報告会

平成15年10月31日（金）9：00～10：00 トキハ会館

司会進行：伊藤忠重（大分県立山香農業高等学校長）

記録：三宅靖子（宮崎県立日南農林高等学校）

濱砂美穂子（宮崎県立妻高等学校教諭）

校長部会報告

埼玉県立不動岡誠和高等学校長 大塚 専司

平成15年度事業計画案、会計予算案ともに承認された。夏には新産業教技術指導者養成講習が行われ、有意義な研修内容であった。

現在、校長会加盟校は205校。昨年より15校増加である。今年度は全ブロックの理事が入れ替わり、事業運営上困難も多少生じている。

規約については、各地区の理事・参事を若干名に改変した。次年度は10年の節目として功労者の表彰を行いたい。

矢幅調査官より

①第15回介護福祉士国家試験結果について

福祉系高校47.7%（NHK学園を含まない）内訳は専門学科49.2%総合学科44.7%普通科33%である。2校では90%以上の合格率を挙げた（山形県立山辺高校・岐阜県立大垣桜高校）。

②介護福祉士試験について

「質から量へ」の流れを受け、筆記試験が100問から120問になった。実技試験免除認定講習会のメリット・デメリット等検討しながら厚生労働省に3点の申し入れをした。1）講習料を安価に、2）講習会の指導者には高校教員にもその資格を与えて欲しい、3）実施時期は夏期休業中に複数回でお願いしたい、の3点である。

また、「評価はどのように行うのか」という不安もあり、質問が出た。詳細は千葉県立松戸矢切高校のホームページにアップされている。

③福祉科教員の研修について

福祉に関わる教員全体の資質向上を図るために千葉・青森・秋田・北九州などで公開授業研究会をしている。また、県単位で部会や研究会を設立したところもある。矢幅調査官からは、積極的に前向きに研修をしていただきたいとのことであった。

④その他

要望事項等

- 1 施設介護職員の処遇の改善（定数には規定はない）。
- 2 産振基準の改訂により、施設は1170㎡、設備費は4412万円となりました。
- 3 福祉科校長会の独立については、今後、組織の検討委員会を設けて考えていきたい。

主任会等の部会報告

(1) 学科設置校分科会

青森県東奥学園高等学校教諭 小川 義光

ア 「介護技術及び指導技術の向上を目的とした授業実践」

熊本県立阿蘇清峰高等学校教諭 中山美宇

介護福祉士受験資格と同時に訪問介護員の各級認定をしている学校は多いが、同校では社会福祉演習の授業において、“指導者としてどうあるべきか”と家族への介護教室を想定して授業実践の発表がなされた。生徒が講師としての役割を行い、指導内容の工夫やロールプレイ等、ワークシートの活用を通して全体で検討や評価をし、質の高い授業を展開している報告があった。

イ 「専門学科における進路指導と課題」

函館大妻高等学校教諭 畔田かおり・田中芳博

同校の進路状況は、就職が60%進学30%その他10%と大別できるが、就職のうち67%が介護職という数字を挙げている。その理由としては施設訪問や職場開拓を積極的に行い、求人についての情報をこまめにもらったり、生徒には「社会人としての大切な事」を徹底指導し、意識高揚にも努め、ハローワークの職員・卒業生からの就労へのアドバイスや面接指導等を細やかに行っている。

長年の歴史や伝統も築きあげ、地域では「福祉の大妻」と言われるほど、合格率の良さ（合格率76.8%卒業生取得率89%）や施設で働く先輩達の実績もこの就職率に結びついている発表がされた。

田中教諭「心にせまる進路指導」～作文から見る生徒の福祉観～としての発表がされた。生徒が、ある場面ある場面で書いた作文から福祉観を読みとり、1年＝理想追求期 2年＝葛藤期 3年＝自己実現期と考察し、生徒の書いた作文による「心の中の土台作り」を通して進路実現に結びつくきめ細やかな指導実践やクラス経営の発表がなされた。

大分県学校教育課名倉弘子主幹からは福祉教科のそれぞれの目標と合わせ、どういう生徒に育てるか、またはそれを目標に指導計画を立て、どういう授業をするかは重要なことである。人間教育や感性を育てることも大事である。他教科とも連携を取り、授業を進めて頂きたい。

これからは各学校でどういう教育をしているかが問われる時代である。シラバスや年間計画等を立てて授業研究をしてもらいたいとの指導助言がなされた。

(2) コース・系列等設置校分科会

島根県立松江農林高等学校教諭 唐島 一将

ア 「本校における現場実習の現状とこれからの課題」

新潟県立西川竹園高等学校教諭 中川裕輝

平成6年度に生活文化科が設置され、2年次から福祉・食物・服飾デザイン

各コースに類型化されている。福祉コースは訪問介護員2級の指定を受けており、施設実習や同行訪問実習を行っている。2年次夏期休業中に3日間のボランティア活動（生徒自ら受け入れの打診）3年次でも校外実習として施設実習3日間、同行訪問3日間を生徒の居住区域等に受け入れをお願いしている。

近年、問題として浮上してきたことには受け入れ先が20ヶ所程度あり巡回指導が大変であるということ。

社会福祉協議会が民間やJAに同行訪問事業を委託したことや、利用者のプライバシーの意識の高まり等同行訪問先が不足し、3日間は長すぎるとの声もあがっている。

また、実習先からは生徒の悪い部分の態度も度々指摘を受け、受け入れを困難にしているケースもあるとの報告もあった。

県費負担の実習費（800円/日額）であるが、（最近1,000円に増額）専門学校や他校の状況より尚も施設側から増額するよう要求されて困っている。

発表に対して「実習内容の目標の明確化」「巡回指導の目標の明確化」「実習後の生徒の様子を事後指導すれば……」等の質問や意見が出た。

イ 「介護福祉士資格取得の取り組みについて」

秋田県公立合川高等学校教諭 穴倉博明

秋田県合川町は昭和41年に「社会福祉の町宣言」を全国に先駆けて行っており県内でも福祉の先進地域でもあった。そんな地盤の中で平成3年より介護福祉コースを開設、出身中学の広域化・多様化（運動部と勉強の両立を目指す生徒）が増え、平成7年から介護福祉科を開設し、現在に至る。

介護福祉士国家試験対策として小テストや放課後、長期休業中にも補習を行っているが、それに臨む態度は保護者を含め厳しい部分もある。

課題としては、進路関係①進学希望者の基礎学力不足②福祉系以外への進路希望の対応③職場開拓があり、国家試験関係では①福祉に関心・意欲のなくなった生徒への対応②外部講師との連携③職員の国家試験に対する共通認識の再構築④実習施設の確保等があげられた。

〈指導助言〉 高取千鶴子先生（福岡県教育庁高校教育課指導主事）

実習受け入れ先の減少については全国的に見られる現象であるが、なぜ減少しているのか問題の分析を行うべきであろう。

福祉教育の目標を「専門的職業人の育成」とするのか、「将来のスペシャリストを育成する」とするのか、あるいは「国民としての福祉教養として行う」のかを、学校として明確にしていきたい。

報告

（1）家庭部会事務局報告 全国高等学校協会家庭部会事務局長 小島和雄

ア 当校長会の会員構成について

平成15年度加盟校は2,587校である。

- イ 平成15年度総会・研究協議会について
- ウ 平成15年度全国常務理事会・全国理事会について
- エ 平成15年度家庭科講習会について

第47回大阪大会に305名の参加。衣・食・住以外にも保育や福祉分野があるので積極的に参加いただきたい。
- オ 平成15年度専門学科校長会総会・研究協議会について
- カ 調査研究委員会について
- キ 第138回全国理事会・第90回総会研究協議会（滋賀大会）について
- ク 平成14年度家庭科技術検定受験状況について

新しいガイドラインが来年から実施されることが承認。評価の目を揃えることが課題。保育技術検定に家庭看護もあるのでぜひ取り組んでいただきたい。
- ケ 「文部科学省認定」家庭科技術検定をめぐる動きについて
- コ 第13回全国産業教育フェア「さんフェア北海道2003」（北海道大会）について

福祉科校長会事務局がとりまとめ、山形県立天童高校、栃木県立真岡北陵高校、千葉県立松戸矢切高校の3校が参加。
- サ 文部科学省及び中央教育審議会等の動向について

(2) 福祉科校長会事務局 千葉県立松戸矢切高等学校教諭 佐藤 知行

ア 加入状況 現在205校

イ 各部活動報告

① 研修部

昨年度、実践事例集を収めたCD-ROMを配布。

今年度は社会福祉実習・社会福祉演習のテキストを作成予定。

② 調査統計部

理事会をふまえて、関係教職員名簿を作成している。今後の活動の基礎資料として活用方法等検討中。教育実習に関するアンケートを依頼したが、今後もアンケート等には御協力いただきたい。

③ 広報部

インターネットの広報活動を展開中。

アドレス <http://www.h7.dion.ne.jp/~fukushi/jimukyokudayori.htm>

<http://www.h7.dion.ne.jp/~fukushi/fukushikeinews.htm>

校長会組織図、訪問介護員級認定校一覧、介護福祉士受験可能校一覧、厚生労働省の「介護福祉士試験の在り方や介護福祉士の質の向上について」検討委員会概要等をホームページに掲載。各地区の研修会内容の様子や福祉科目のシラバスも今後掲載予定。資質向上や情報の共有化をスピーディーに行いたい。

ウ 新産業技術等指導者養成講座

福祉科校長会事務局が担当。「社会福祉援助技術」「介護技術」に関する講座を行った。概ね好評な内容であったが、受講定員30名

に対しての若干の空きもあったので、今後募集方法や開催地域の工夫改善を図りたい。

エ 産業教育フェア

主催者からの急な出展依頼にも関わらず、山形県立天童高校・栃木県立真岡北陵高校、千葉県立松戸矢切高校の3校が参加していただいた。来年以降は地区別の対応等を検討していく。

お知らせ

平成16年1月10、11日に第5回ソーシャルワーク実践教育研修講座が東京国立オリンピック記念青少年総合センターで実施。(チラシ配布済み) 模擬授業・ワークショップを通じて最新のソーシャルワークの教授法が学べるので、ぜひ参加いただきたい。

ブロック別会議

31日(金) 10:10~10:40

トキハ会館

北海道ブロック

I 指導者養成講座について

- ・ 講座案内が届いていない学校があった。
- ・ 今回参加した皆さんの意見、感想を聞き、その上で次回の講座に反映して欲しい。
- ・ 参加したい気持ちはあるが、予算等の関係もあり参加できない現状である。
- ・ 今回カリキュラムは出ていたが、内容等についてももう少し詳しく具体的に知らせて欲しい。
- ・ 今後の講座については、教科書のない講座(社会福祉実習・社会福祉演習・福祉情報処理)について開講して欲しい。

II 学科主任等代表者会議の報告について

① 研修部

- ・ 指導書のない教科に対してのテキストとなりうるものをつくっていくという方針である。本年度は実習の指導書に取り掛かる予定である。内容については、ベッドメイキングでのシーツ交換・移動介助～ベッドから車椅子へ、車椅子からベッドへ・歩行介助で杖歩行についてである。これらのことについて、指導案と生徒指導用の資料、実際に生徒に対して使用している資料等を提供して頂きたい。

② 調査統計部

- ・ 名簿等の作成に関する資料のための情報については、プライバシーに気をつけ不必要な情報までとらないようにするという報告を受ける。

- ・ 今回の教育実習に関するアンケートの統計結果については、第5回ソーシャルワーク実践教育研修講座で発表予定。
- ・ 参加できない学校にも、結果がわかるようにしてほしい。
- ・ 国家試験の実技に関する調査・情報をもう少し早く提供して欲しい。

③ 広報部

- ・ 全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会事務局のホームページに連絡事項や情報(全国福祉系の情報)がのっているので、機会あるごとに見るように注意あり。
- ・ 重要な案件に関しては、加盟校に確実に伝わるようにしていただきたい。
- ・ 広報部との兼ね合いはどうか。事務局に集まった情報及び広報部に集まった情報は、お互いにすみやかに加盟校に伝わっているのか。
- ・ ホームページでよいものと、加盟校全体に確実に文書等で伝えなければならないものがあるのではないか。

Ⅲ 介護技術講習会制度の導入について

- ・ 筆記試験を受験する前に、介護技術講習会をし実技修了とする意味が分からない。
- ・ 筆記試験に合格して初めて一定の基準に達したとみなし、その者に対して介護技術講習会を受けても良いし、実技試験を受けても良いという選択をするのであれば分かるのだが。
- ・ リーダー指導者の対象に高校の教師が入れないのであれば、高校はずしと取られてもしかたがないのではないかと。
- ・ 単位修了認定をどこで、誰がどのように評価するのが問題になる。
- ・ この方法では、高校教師がリーダー等になれない。そうすると、一般の人が介護技術講習会を受け、高校生は筆記試験を受けた後、実技試験を受けるという形になり、実技試験を受けるのは高校生だけに分けることができる。
- ・ その後、実技試験がなくなり、高校生の受験が不可能になることも考えられる。
- ・ いずれ高校生を排除するつもりなのではないかと思われる。
- ・ 講習会に参加する受講対象者の資格についてはどうなのか。
(受験資格者のみか？介護職員の場合は3年未満でも良いのか？)
- ・ 一時試験不合格の場合、次年度も講習会に参加しなければならないのか。
- ・ 修了認定であれば一度でいいのか。認定されれば毎年二次は免除となるのか。

Ⅳ その他

- ・ 北海道地区として、高校福祉部会や高教研の組織等を発足させ、横の連絡を密にしていかなければならない。
- ・ 平成18年度に実施予定の北海道大会の準備に入らなければならない。
- ・ 北海道だけでなく東北との交流も深めていくべきである。
- ・ ブロック会議の時間をもう少し多くしてほしい。

東北ブロック

議題：ブロック等での研修会の活性化について

本ブロック内での研究や研修を活発にできないか。

久慈農林高等学校：本ブロックで福祉を教えている教員は何人くらいいるのか。把握しているのか。

東奥学園高等学校：本ブロックの様々な情報を本校で収集したいと考えている。現在は、福祉を教えている教員についての情報はプライバシーの関係で全国会長校(事務局)からはもらえない。必要であるので東北ブロックの分はこれから人数程度の情報はまとめた。各加盟校に電話連絡して、全教員が対象での研修会を本校で実施したい旨を伝える。来年8月頃、夏休み中の実施であれば学科主任だけではなく参加できるのでは？

本ブロックで研修会を実施することについては賛成か。

東奥学園高等学校：全国事務局での仕事を東北ブロックとして、本校でまとめる。研修会の実施時期としては、ねぶたの時期は宿泊代が倍になるのでは？した方がよい。その前後の時期はどうか。連携を深めるために各校の代表者だけではなく全員が参加できるようにしたい。

久慈農林高等学校：各校で4～5人全員を出す金(旅費等)の裏付けが取れるかどうか？全員は、不可能ではないか。大義名分がないと難しい。しかも青森では1泊2日(日帰りは無理)になる。

東奥学園高等学校：せめて2分の1の人数は出していただけないものか。

久慈農林高等学校：各校1人がいいところでは。福祉教科だけ2人というのは…。例えば、家庭部会から独立し、当面(立ち上げ時期)は充実させるために大切であると校長会での申し出があるというような大義名分がなければ難しい。実施時期も7月末や8月上旬は、各校とも教科の補習・課外や部活等々で忙しい時期なのではないか。

東奥学園高等学校：夏休み中が難しいのであれば10月10日頃の3連休はいかがか。代表者だけ参加の研修はどうかと考える。

久慈農林高等学校：例えば、現在、本校で同教科が2名いない(出張)状況を考えると、校務運営上難しい。

東奥学園高等学校：予備調査方々各校長に素晴らしい方が講演にみえるので、福祉教育充実のために是非参加をお願いしたいとの電話(呼びかけ)をしますが。

公立合川高等学校：座学面の研修だけでなく、実技面の研修の充実も大切であると実感する。実施時期については、週休日は出張命令がかけられないので、平日になる。各校よりの複数参加をねらうのであるなら長期休業中の平日が適当ではないか。

東奥学園高等学校：本校では現在、田中先生を内地留学させている。40施設との連携もあるし、学校の施設も充分なので、研修会を期待してほしい。実施幹事校は活性化のためにも持ち回りを考えている。各校1名の参加になるのであれば、本校としても一番いいのは長期休業中である。

七戸高等学校：福祉教科をやっている学校や教員でさえも校長会の組織を知らない。青森は福祉の教員が臨時免許でやっている人も多いし、家庭科の中の福祉としてやっている学校が多い。研修会等々の各県の動きを聞きたい。

東奥学園高等学校：理事会では独立に関する委員会をつくることになりそうだ。これからは、家庭科の中の福祉ではなく、福祉の教員としての自信を持ってできるように。

上越教育大院生：大きなブロックとしてよりは、より小さな地区での実施の方が、問題点を明確できてるんにおいてより具体的な研修ができるのではないかな。できれば県単位での研修の実施がよいのでは。

公立合川高等学校：秋田県の研究会は来週の11月12、13に実施の予定。

東奥学園高等学校：継続できる方法で考えてやっていきたい。

関東ブロック

議 題： 関東地区の研修会・研究会組織の現状について

(1) 栃木

県内3校（真岡北陵・田沼・塩谷）が持ち回りで、年1回福祉学科の連絡会を開いている。今年は、真岡北陵が会場校として、基礎介護の授業研究等をした。各3校の年間指導計画、基礎介護の「介護の意義」の指導書を作ってきた。来年から県の教育研究会福祉部会が立ち上げる予定である。

(2) 茨城

これから、校長会の高教研の理事会に働きかけて、検討してもらう段階である。

(3) 群馬

情報交換会を行っている。県内での福祉科は吾妻1校で、他はコース・総合学科を持つ学校である。授業計画や授業についての情報交換を目的としている。第1回は訪問介護員養成研修の手続き等についても検討した。年2～3回を計画している。第2回は、教育実習や本大会の報告等について資料を持ち合いながら研修を進めていきたい。第3回については、未定である。

(4) 茨城

これから、校長会の高教研の理事会に働きかけて、検討してもらう段階である。

(5) 埼玉

来年度、県の高連研・研究会立ち上げの計画をしている。教科「福祉」の講習を受けた教員や福祉科目を持つ学校に働きかけていく。

(6) 千葉

今までは研究会は開催しない。11月に学科、総合学科、コースを持つ福祉関係の連絡協議会を予定している。来年以降に研究部会の立ち上げを考えている。

(7) 東京

現在、無し。加盟校4校のうち、都立の2校は、統廃合でなくなるが、来年は私立にコース制の立ち上げが1校あり、今後、総合学科の系列を持つ学校も出てくる可能性もあるので、今後に動き出すときには、報告をする。

(8) 神奈川

福祉部会は、昨年立ち上げ会議をしている。福祉科設置校は3校、コースで国家試験の受験資格を持つ学校が1校、その他福祉科目設置校があり、会議は30人以上の参加がある。昨年の内容は、大学の先生等の講義の後、分科会で科とコースに分かれて会議をした。予算は県から講師料等、運営に18万円が出ている。

関東地区における研修会等活性化の方策について

(川崎) 教育実習の時に合わせて授業公開を近隣に声をかけてみる。また、文部科学省関連の福祉科コンテンツを使う社会福祉基礎や社会福祉制度の研究授業の際に授業公開をすることも一つの方法である。折を見て授業公開を近隣に声をかけることが無理をせずにできる方法である。

(千葉) 独立に繋げるために昨年からの各県での組織作りから関東地区の研修会の場を作っていく。

(栃木) 各県の中での努力と関東地区での研修会を開いた流れの上の独立が理想的であろう。栃木県の場合、まず来年度から実施して、今提言されたものを取り込みながら実践して行く。独立した部会を持たなくては行けないことがはっきりしている。

(司会) 大学の出張授業・出前授業等を最大限に活用していくことも経費の負担力のない状況下では、1つの方法である。

(千葉) 公開授業の情報があれば、近隣への参加が徐々にできる。

(川崎) 年度当初に事務局との連携によって情報公開され、共有化できる。各県とも財政上の厳しさがあるだろうが、参加の実現が関東ブロックの研修となっていく。

(司会) ブロック研修会にはコーディネートをする機関が必要である。必要があれば事務局の松戸矢切がコーディネートを務める。また、経費の裏づけのない場合が多いかと思うが、校長先生方にご理解をいただき、ご寛大な措置をお願いしたい。

社会福祉実習の指導書作成に関して、実践内容、資料等の協力依頼について (研修部)

新産業教育技術等指導者養成講習会実施の内容について

来年度の要望

- ・ 社会福祉援助技術
- ・ ロールプレイについて
- ・ 社会福祉演習・ケアプランについて
- ・ 国家試験対策について

北信越ブロック

議 題： 各校の現状と課題について

1. 各校の紹介・現状と課題

① 上田千曲

- * 生活福祉科を平成9年度から開設
- * 訪問介護員養成研修事業（2級）と介護福祉士の資格等が取得可能
- * 40人定員の全員が国家試験受験で始まったが、果たして全員受験でいいものかどうか考慮している。
- * 開設からしばらく経ち、職員の研修にももう少し取り組んでいきたい。

② 大野東

- * 平成3年に開設
- * 国家試験受験は希望制を取り入れ、40人定員で毎年約35人程度受験を希望
- * 希望を取る際には、将来性や利点等を説明した上で希望を取る。
- * 今後も希望制を続ける。
- * 国家試験受験希望者の意欲を引き出すのに時間がかかっていることが課題
- * 施設実習のケアプラン関係で昨年度までは計画で終わっていたが今年度からは実施まで行う。生徒の表情がよくなったので、今後も続けたい。

③ 西川竹園

- * 生活文化科内で3コースを展開。そのうちの福祉コースで訪問介護員養成研修事業（2級）を実施。
- * 実習先の確保が毎年の悩み。
- * 毎年、授業や実習の指導で様々、試行錯誤が続く。

④ 有磯

- * 生活福祉科で訪問介護員養成研修事業（2級）を実施。
- * 家庭科の専門学科が減少する中で、昨年度は家庭クラブの会長校や家庭科技術検定があり、多忙かに悩む。
- * 訪問介護員養成研修事業（2級）のほか、学校の生き残りをかけて特色を出すべく、併設の農水科との連携を取りながら思慮している。

⑤ 八尾

- * 家政科から生活福祉科に改組して誕生。そこで訪問介護員養成研修事業（2級）を実施していたが、昨年度から普通科のみになり、生活福祉科の生徒は現在3年生のみ。
- * 生活福祉科閉科を受けて、普通科に福祉コース（20名）を設置。福祉関連の単位数が少な居にもかかわらず、学校の目玉として位置付けられ、地域からの期待もあるのだが、それに応えるものがない。

⑥ 田鶴浜

- * 平成8年に健康福祉科として誕生。国家試験受験校。
- * 国家試験の合格率は9割近い。

- * 実習先は全県から来るのだが、原則地元で行っている。
- * 巡回指導の範囲が広くなり負担が多い。
- * 事前指導をしっかりと行い、専門学校の実習生より高校生の方が評判がよい。
- * 就職等も順調で、現状を維持する（落とさない）ことを目指す。

⑦ となみ野

- * 女子高校から変わって3年目。単位制高校。本年度から国家試験受験。
- * 昭和60年頃から福祉教育に取り組む。
- * 今年度から福祉系の就職希望者もあり、全員ではないが、希望の福祉系の就職先に決定している。(今までは福祉系希望者は上級学校への進学を指導)

⑧ 能登青翔

- * 農業高校から段階的廃校、2校の統合により、誕生。総合学科。農業高校のときから、訪問介護員養成研修事業（2級）を実施。現在の2年生から介護福祉士の受験資格取得可能のカリキュラム。
- * 福祉の専任担当が一人で不安がある。
- * 途中で系列の変更が可能のため、授業の展開をどうするか思慮している。

⑨ 八海

- * 平成7年から、県内唯一の福祉科として開設。コース制で国家試験受験の福祉コースと進学向けの教養コースの2コース制をとる。
- * 学校が都市部から離れており、教職員の定着率が低く、入れ代わりが激しい。
- * 5人いる科の教員のうち、2人が教諭で、3人が講師。講師は1年限りで入れ代わる人が多い。講師に負担がかかる。
- * 生徒は素直で指導はしやすいが、自ら学ぶ意欲が低く、学習方法を知らない生徒も多い。
- * 教材の不足を感じる。授業準備も困る。
- * 多忙化の中、授業準備が帰宅後になったり、教員同士の情報交換ができない。
- * 各校と生徒の書いた文書等のやり取りなどの情報交換ができるとありがたい。

⑩ 啓新

- * 全県から生徒が来る。
- * 介護福祉士受験のコースと訪問介護員養成研修事業のコースがある。
- * 7～8割は就職。介護福祉士合格率は7～8割。
- * 現場実習での言葉遣いやコミュニケーションの指導が悩み。

<記載方法>

- * ○数字は当日の発言順序です。
- * ○数字のあとに高校名を記載しました。
- * 設置立と高等学校は省略しています。

2. 諸連絡

- * 新産業技術研修について

3. その他

* 名刺交換や各参加者同士で適宜、情報交換。会議自体は定刻開始・定刻終了。

東海ブロック

議 題：①今後の校長会理事校・学科主任校の確認（東海ブロック）
②平成17年度全国大会について

三重県立上野商業高等学校： 議題の確認

今後の理事校、学科主任代表校のローテーションを確認したい。校長部会の理事を増やすかどうかはかりたい。

平成17年度の全国大会について、主幹は三重県立明野高校で行うが、東海ブロックとしての開催であるので、各校へ協力を依頼したい。大会の内容は研修中心、時期8月中旬頃で提案したい。

学科主任代表校のローテーション

< 議題①について >

年度 H	主	サブ
15. 16	三重県	岐阜県
17. 18	岐阜県	愛知県
19. 20	愛知県	静岡県

愛知県立高浜高等学校： 学科主任は主とサブで2校ずつ出すのはよい。

三重県立上野商業高等学校： 学科主任代表校は以前に決定したローテーションで行う。

理事のローテーションと学科主任代表校のローテーションを切り離した方がよいか。

愛知県立高浜高等学校： 学科主任代表校を複数にした理由は？

愛知県立古知野高等学校： 学科主任代表者の組織の中の、研修部・調査統計部・広報部の活動を充実させるために、人数増の要請があったことから、各ブロック2名ずつになった。

三重県立上野商業高等学校： 確認・・・学科主任代表校のローテーションは以前の決定通りとする。（上表）

< 議題②について >

三重県立上野商業高等学校： 事例研究等の資料提供に協力を願いたい。中身の濃い研修会にしたい。

岐阜県立坂下高等学校： 出張旅費の関係上日程の圧縮化を希望する。コンパクトな会議にしてほしい。

三重県立上野商業高等学校： 理事会・学科主任代表者会議も含めて2日間にした。

○ 国家試験（実技）の変更に伴っていろいろな問題が出てくると考えられる。

①講習会を受けて認定された者と、そうでない者との指導に違いが

生じる。

②合格率は全体的に下がると予想している。そうなると、生徒のやる気にも影響する。

訪問介護員の修了どまりで卒業する生徒もでてくる。

③国家試験への要望があれば、校長を通して事務局（松戸矢切高校）へ提出してほしい。

○全国大会への要望について

・12月4日に準備委員会を実施予定、要望があれば上野商業高校へ。参加して帰るだけの会にはしたくない。

<その他の意見等>

岐阜県立坂下高等学校：坂下高校は今年から福祉科を立ち上げたが、生徒の現状から国家試験の合格の路は厳しいだろう。生徒の福祉への興味・関心・意欲が高まらない、そんな生徒の底上げをどう図っていくかが今後の大きな課題である。最終的には教師の情熱にかかっているのか。

※新産業技術講習会の中身の要望等を各校の先生方にお伺いする予定でしたが、議題の内容や時間の関係で伺うことができませんでした。

※ブロック会議終了後、校長先生方で校長会理事について話し合いをもたれました。

近畿ブロック

議 題：近畿ブロック福祉教育実践について

1. 「第2回全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会・近畿支部会」および「第3回近畿ブロック福祉教育実践研究会」開催について安井哲夫近畿理事から開催実施要項が提案された。

実施要項

(1)日 時 平成15年11月27日(木)

(2)日 程 10:00~10:30 受付

10:30~11:00 開会行事 ①挨拶 ②日程説明

11:00~12:30 講演 兵庫県但馬県民局但馬長寿の郷
企画調整部 地域ケア課主査
備酒仲彦氏

12:30~13:30 昼食・休憩

13:30~15:30 研究協議会 ①校長会(会場 未定)
②学科主任等(会場 未定)

15:00~15:30 閉会行事 ①校長会報告
②学科主任等報告

(3)会 場 姫路職員福利センター3階 大会議室 (姫路総合庁舎内)

兵庫県姫路市北条1-98 tell 0792-81-3001代表
アクセス

(4) 研究協議会について

- <校長会> 「福祉に関する学科の課題について」
<学科主任等> 「専門性を生かしながら生徒を伸ばす授業の展開を求めて」
社会福祉基礎・基礎介護の学習指導案による意見交換
担当：兵庫県立新宮高等学校 福祉科教諭

(5) 講師 備酒仲彦氏

兵庫県但馬県民局但馬長寿の郷 企画調整部 地域ケア課主査

プロフィール

1961年神戸市生まれ

1983年高知医療学院卒業 理学療法士免許

2001年神戸大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程入学

論文など

健常高齢者の日常生活動作の価値序列 (理学療法学日本理学療法士協会)

健常・障害高齢者の日常生活動作の価値序列 (理学療法学日本理学療法士協会)

地域におけるケアマネジメント (理学療法リナリ医学書院)

ケアマネジメント理学療法 (医学療法ムック 三輪書店)

都道府県行政と理学療法士の役割 (公衆衛生 医学書院)

考えなおしてみませんか地域ケア 連載 (保健婦雑誌医学書院)

著書

地域ケアを見直そう (医学書院 平成15年5月発行)

学会

日本理学療法士学会・日本公衆衛生学会

2. 新産業技術等指導者養成講習の研修実施希望科目について

希望調査数	「社会福祉基礎」	0名
	「社会福祉制度」	0名
	「社会福祉援助技術」	2名
	「社会福祉実習」	1名
	「基礎介護」	1名
	「情報処理」	0名
	「社会福祉演習」	3名

質疑応答 出来れば講義と実技関係を合併複合した研修を実施して頂くようお願いしたい。

3. 現状と課題について

・近畿ブロックは他のブロックに比べて、遅れていると思われる。積極的に今後勉強会等を持つ

必要がある。

- ・訪問介護員の養成校はその位置づけと方向性を持つ必要がある。交流を密にして福祉教育の充実を図っていく必要がある。

中国ブロック

議 題：①各校の現状報告

- 自己紹介を兼ね、各校の概要・資格取得・現在の課題等報告。
※印出された課題→「福祉」免許を持った教諭の適正配置をのぞむ。
・訪問介護員養成が難しくなっている。

議 題：②指導者養成講座の内容について

- 会場を東京に限定せず、東西に分けたらどうか。
- 「福祉制度」「福祉情報処理」の指導で困っている。(地区として希望)
- 研修案内を全体へ流して欲しい。

議 題：③中国ブロックについて

- 地区の繋がりを深めるためにも連絡網の作成を今後検討してゆく。

四国ブロック

議 題：平成16年度 徳島大会について

1. 徳島県立小松島西高等学校 小倉 正幹校長より…「徳島大会ご案内(案)」について
四国地区理事校と連絡を取り合い、事務局と相談しながら今後4県に協力要請をしていく。
2. 主任等協議会の学科設置校分科会
授業研究の発表者は尽誠学園高等学校 長畑 満弘先生に決定。
3. 提言
 - ①高知中央高等学校 杉村 真一先生より…主任等協議会の分科会がたいへん勉強になったので、もう少し時間を取った方がよいのではないか。
 - ②尽誠学園高等学校 長畑 満弘先生より…公開授業の批評会をもったらどうか。
 - ③今治明德高等学校 大西 浩一先生より…主任等協議会の学科設置校分科会とコース・系列等設置校分科会をきっちり分けてほしい。

その他

- (1) 香川県教育委員会 渡辺 恵美子指導主事、徳島県教育委員会 竹原 明美指導主事より
新産業技術等指導者養成講習会に出張してもらう予算枠は、県内若干名しかない。
- (2) 来年度新産業技術等指導者養成講習会の科目希望調査
- (3) 社会福祉実習の現場実習(集中実習)について意見交換

九州・沖縄地区ブロック1 九州沖縄地区理事あいさつ

大分県立野津高等学校校長 安田 緑一

本校が理事を担当しているのので、主管校となりました。教科福祉も始まり、福祉科の充実発展のためにもご協力をお願いします。

2 宮崎県の実情紹介

宮崎県立日南農林高等学校

学科主任 三宅 靖子

今年度福祉部会を立ち上げました。宮崎県には、県立4校、私立2校の福祉科があります。宮崎県産審答申を受けて、家庭部会福祉20名いることや平成15年度から新教科福祉が始まり教科福祉の担当者の研修の機会の確保や予算措置への対応などの実情もあり、昨年2月の校長会で承認され実施となりました。規約等の準備や8月18日に設立総会を実施しました。

予算について福祉の免許所有者へ案内を6月に配布し、7月に締め切り30名の加入がありました。会費は3000円です。県より補助金1万円、家庭部会より8万円、各校の設立負担金2万円ずつ、そして会費で、収入としています。

会則ですが、すでに福祉部会のある岡山県や広島県と連絡を取りながら設立を進めてきました。

3 質疑応答

Q 家庭部会の方は、脱会したのですか。(鹿児島県立宮之城農業高等学校校長 上妻 勝士)

A 看護の免許を持っている先生方は、脱会した方が多いようです。2名は、重複(福祉と家庭)しています。基本的に個人の意思を尊重しています。家庭科免許を持つものは、重複して加入しています。(宮崎県立日南農林高等学校学科主任 三宅 靖子)

Q 事業内容の研究調査の実施内容の教科「福祉」評価に関する研究会について詳しく教えてほしい。(鹿児島県立開陽高等学校教頭 川畑 伸一郎)

A 宮崎県では、今年度すべての教科が評価に関する研究会を持ち取り組んでいます。「福祉」だけではありません。5月から、月に1回代表者が話し合いをしている。「福祉」では、3名代表で参加しています。基礎介護・社会福祉援助技術・社会福祉基礎の評価を予定しています。

(宮崎県立日南農林高等学校学科主任 三宅 靖子)

Q 熊本の方の実情はどうですか。(司会 大分県立野津高等学校教諭 南 富貴子)

A 熊本県では、昨年の9月に検討を始め、今年の2月くらいから立ち上げ3月に最初の設立検討会をもちました。会則案などの検討を行い6月に1回目の総会を実施しました。予算は高教研の会員の数が28名で、会費1000円、各部会350円で、8万円となり、

一律10万円の配当で、合計19万円の予定となっています。事業内容については、12月に検討して次年度への見通しを立てたいと予定しています。また、家庭部会・産業振興会の補助が少なくなってきました。（熊本県立阿蘇青峰高等学校教諭 中山美宇）

4 検討事項

① 九州・沖縄地区副理事について

九州は、加盟校が年々増加し56校あるので来年度より始めたい。提案としては、次年度担当校が理事をしてはどうか。次年度は長崎県の予定である。（大分県立野津高等学校校長 安田 緑一）

② 来年度より九州・沖縄地区ブロックの学科主任代表者を2名に

理事のある県が、学科主任の方を出したい。長崎県より出す。（大分県立野津高等学校校長 安田 緑一）

③ 九州・沖縄地区福祉科系高等学校長会総会・研究協議会と併せて、学科主任等の研究協議会の開催について

来年度まで大分県で担当するときに学科主任等の研究協議会の開催を行う予定。（大分県立野津高等学校校長 安田 緑一）

④ 新産業技術講習会への希望について

参加者が少なかった。アンケートにご意見をお願いしたい。（大分県立野津高等学校校長 安田 緑一）

5 その他

Q 検討事項の九州・沖縄地区福祉科系高等学校長会総会・研究協議会などに各県の指導主事が参加してほしい。県教育委員会の方がきて指導助言を受ける場にして欲しい。（熊本県立阿蘇青峰高等学校校長 山本 学）

A 依頼をすすめていきたい。（大分県立野津高等学校校長 安田 緑一） 以上

指 導 講 評

31日(金) 10:50~12:00

トキハ会館

司会進行：小山 康直(大分県大分高等学校長)

記 録：嘉弥真 愛(沖縄県立中部農林高等学校教諭)

仲間 真弓(沖縄県立中部農林高等学校教諭)

事例発表

「福祉」私たちの手で ～地域連携の実践～

大分県立野津高等学校教諭 南 富美子

(1) 本校の概要

本校は、各学年2学級、生徒数220名足らずの福祉科単科の小規模専門高校である。普通科3学級の普通高校であったが、平成8年度に普通科1学級が福祉科に学科改編され、平成13年に普通科の募集停止、福祉科1学級増となった。生徒は大分市をはじめ県中南部地域一円から入学しており、遠隔地の生徒は野津町が運営する寮から通学している。

また、全国唯一の福祉科単科の専門高校として地域社会に期待されている本校は、福祉・介護に関する専門的な知識・技術・心を学ぶことによって社会福祉に貢献し、社会のニーズに応えられる地域のリーダーたる人材の育成を目的としている。そして、「福祉の町づくり」を標榜する野津町や町内各施設、団体等との連携や生徒会、家庭クラブ、和太鼓部、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる。

(2) 地域連携について

地域連携の目的として、1つは専門性を生かした地域住民参加の授業や学校行事、ボランティア活動に参加することを通し、学習内容の定着や充実を図るとともに、地域における福祉活動のリーダーとしての資質を身につけさせることである。2つめは学校を地域に開放し、福祉についての研修会や異世代交流を図るなどの実践活動を行うことにより地域の福祉活動の活性化を図ることである。その連携先として野津町健康福祉科やファミリーサポートみずのわ、野津南保育園、大分大学福祉科学センターなど、多くの機関と連携を図っている。

(3) 活動状況

活動状況としては、障害者施設を知るということで11月に障害者施設での実習を行っている。一年生を対象にしており、事前研修として町内にある知的障害者更生施設「潔き聖母の家」の指導員の方に来ていただき実習の心得等について講義をしてもらいました。本校の実情をよく把握し適確な指導をしていただいているので、今度の実習がとても楽しみである。

次に町内の高齢者が多い野津町グランドゴルフ協会にお願いをし、「社会福祉援助技術」のレクレーションの授業のまとめとしてグランドゴルフ大会を3月に校内で実施している。高齢者イコール介護の対象というイメージで高齢者の方を見ているますが、このグランドゴルフ大会を通し

でグランドゴルフをされる高齢者の元気よさに生徒は驚いている。生徒にとっては福祉のイメージを広げるよい機会になっている。

次に「社会福祉演習」の授業の中で地域のいろいろな施設や団体を利用させていただき、生徒の研究活動を行っている。来年はお世話になった町内の方々を招待し、「社会福祉演習」の発表会を予定している。

次は9月に行われた本校の体育大会での学校行事で、町内にある先ほどの知的障害者更生施設の入所者の方と、学校の隣にある野津南保育園児を招待し、競技の中に生徒と一緒にできる特別競技を入れている。生徒は施設の利用者の方や園児を自然に受け入れて楽しそうに競技をしている姿が見られ、非常に微笑ましく、来賓の方々や保護者の方々がいい表情をして生徒はがんばっているなどというお声をいただく。

次は昨日も演奏させていただいた和太鼓部だが、年間50回以上の演奏活動を行っており、学校外にも出ている。特に福祉施設や各種イベント等でたいへん喜ばれており、最近では和太鼓をやりたくて入学する生徒も増えている。

最後に野津町が主催した訪問介護員2級養成については、本校の施設・設備を活用いただき、職員も講師として協力をしている。今後も本校が持っている設備や人材を野津町に協力していきたいと考えている。来年度は介護支援専門員の研修会を町が考えており、それについても協力していきたい。

このようにそれぞれの交流があるが、各連携の施設の方、団体の代表者の方と連絡会を実施し、私たち教員以上に生徒のことをどういうふうに育てていくかということや今の現状、生徒の様子やこれからどういうふうにしたらいいかということを実際に考えて意見を出してくれる。

そしてこの連携を通して多くの町民の方々から感想を頂いている。一部を紹介すると、町内にお住まいの一人暮らしの高齢者の方から地元の新聞へ投書があった記事である。毎年家庭クラブの活動で町内の一人暮らしの高齢者の方や施設に入所している方々に全校生徒が書いた年賀状を出している。この投書には1枚の年賀状にどれだけ自分が勇気づけられたかが書かれており、とても喜んでいただいた。次に和太鼓部が町民にも開放している文化祭で、「太鼓の演奏が町民に感動を与えてくれることを忘れないでください」とメールを送ってくださった方もいる。他にもいろいろなメールや会合でいい評価を受けており、和太鼓は本当にいい活動をしているということを実感している。次に訪問介護員2級養成講座の参加者が、「講座を通じて福祉の心を学んだが、思っていた以上にずっと大変な仕事だということがわかった。この大変な仕事を目指す野津高等学校の皆さん、すばらしい学習環境を活かして今後もがんばってください」という感想が寄せられた。このように本校には多くの方々が温かい心で本校の生徒を見守ってくださっているということがとても伝わり、小さい町の小さい学校だが、町民の方々と一体となって学校が成り立っているということを私はひしひしと感じている。

(4) 成果と課題

1つ目は、本校が核となり、地域連携を図ることにより、各団体に横のつながりができ、地域

福祉の重層的なネットワークづくりの一助になったのではないかとと思われる。

2つ目としては、生徒の学習の場が広がり、様々な世代、または人との交流の中で多くのことを学ぶことができた。

3つ目は、様々な活動を通して本校の生徒に対する理解が深まったことを感じた。

4つ目は、地域施設で就職する生徒が増え、地域に根付き、地域福祉の担い手となる人材の育成の一步となったのではないかと考えている。

課題としては、ひとつひとつの活動の検証がまだできていないので、検証方法の確立を行って、さらに効果的な連携を図る必要があると考えている。

指導・講評

国立教育政策研究所教育課程研究センター教育開発部教育課程調査官

文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官

矢 幅 清 司

(1) 現在の福祉科の現状

介護福祉士国家試験を受験できる学校は全国で 164 校、訪問介護員養成研修事業を実施している学校がのべ 562 校である。内訳では 1 級課程が 77 校、2 級課程が 334 校、3 級課程が 151 校である。中心が 2 級課程である。若干 1 級課程が減る傾向にある。それは各都道府県での申請認可が下りなくなっている状況がみられる。

また、資格とは関係のない福祉科目のみを置いている学校が 160 校ある。そうすると福祉を学んでいる生徒の数は約 5 万人にもなる。

(2) 進路の状況

目的意識を持っている生徒が他の学科よりも多い。そして、福祉関係への進学者は進学者の中では約半数、就職希望者の中ではその約 7 割が福祉関係に希望している。かなりの生徒が高校生の時代に福祉を学び、さらに福祉を学びたいという進路をとる生徒、そして福祉を活かした職場に就きたいという生徒が多いということがわかる。

(3) 教科書の問題について

福祉科目は 7 科目あるが、「社会福祉実習」と「社会福祉演習」は教科書が発行されない。また、「福祉情報処理」は準教科書として、校長会のバックアップで今年から活用されている。

教科書としては、「社会福祉基礎」・「社会福祉制度」・「社会福祉援助技術」・「基礎介護」の 4 科目が検定を終えている。それぞれ 3 社もしくは 2 社の会社で出版されているので、各学校の設置目的に合わせた教科書等を使ってほしい。今年度採択された数は、「社会福祉基礎」が 2 万 4 7 5 冊で、5 0 0 校以上の学校で「社会福祉基礎」が学ばれていることがわかる。また、「基礎介護」は 7, 2 4 3 冊で「社会福祉基礎」よりは少ないが、「基礎介護」はより専門的な資格を取るといふ生徒がとるものなので、7, 0 0 0 名以上の生徒がなんらかの福祉の資格を取ろうということを選

択している状況である。

教科書として発行されない「社会福祉実習」や「社会福祉演習」に関するサブノートやテキスト等は、校長会が発行し、各学校に提供するような状況になるといいのではないだろうか。

(4) 教員養成について

昨年度までに法的な養成は終了した。現職教員等講習会で1,517名が養成されている。高等学校教員資格認定試験では、全国で173名の方が合格し、免許を取得している。現在のところ、約1,700名以上のものが「福祉」の免許を持っている状況にある。文部科学省としての必要数の予測よりはるかに多い数になっている。各現場からは免許を持った教員がほしいとかそういう配置をしてほしいという要望が文部科学省にあるが、免許を持った者をその学校に配置するという人事の問題になるので、各都道府県の考え方に基づくものである。必要数は養成したので、各学校の校長先生の方から免許をもった方を配置してくださいということを各都道府県に要望してもらいたい。

今後は大学での養成ということで本格的に教員が出てくると思うが、現在のところ全国で121大学181課程で「福祉」の免許が取得できる。なかには通信教育課程で取れるところもある。今後、各都道府県において「福祉」の免許の独自の採用をお願いしたい。各都道府県による「福祉」の採用試験は2年前から始まっているが、今年度は7つの県で採用試験が行われている。

(5) 産業教育振興の基準の改訂について

今回の改訂で一番変わったのが「情報」と「福祉」である。これから整備を進めていく中で新しい改訂基準を各都道府県と交渉し、整備を進めていってほしい。これは法律的には産業教育だけが動くのではなくて、理科教育と合わせて出されるものである。案として各都道府県に配布しているのでそれを活用してほしい。

(6) 学校への要望

一つは福祉科校長会としての調査・統計の委員会があるが、福祉科高校の総意を持って何か要望するときに、はっきりとした数字があって「だからこうしてほしい」という要望を出さなければならない。その基礎となるものがこの調査・統計ではないかと思う。毎年同じ項目を調査し蓄積するものと、そのときどきに必要なものを随時行うアンケート調査があると思う。そういう点で毎年欠かすことなく積み重ねていってほしい。この調査・統計の数字のおかげで審議会に出されて、このアンケートがあったから要望が通る基礎資料もあった。それをこれからもしっかりとやっていってほしい。

二つめの要望として、今まで要望書をいただいたが、今まで何を要望して、何の要望が叶ったのか、何が課題としてまだ残っているのかをきちっと整理してほしい。要望書を出したからいいでは課題は解決されない。したがって今までの要望書を再度確認し、整理してほしい。

三つ目は産業教育フェアについてであるが、産業教育フェアは専門高校を知ってもらうよい機会である。その点でその産業教育フェアを福祉科校長会としてもフルに活用してほしい。今年度は北

海道大会で、6つの学校からの出展があった。出展数、出展の方法、そして参加の方法、例えば意見・体験発表や作品・研究発表にも福祉科として入り込んでほしい。そうすることによって福祉を学ぶ生徒の活躍する場も広がっていくと思われる。来年度は広島県で開催される予定になっている。また、平成17年度には文部科学省と各専門校長会の協力を頂き、東京都で行う予定になっている。このときは今までとは違う形での開催になるので、事務局だけでなく、全国の高校、そして先生方にもいろいろ協力していただきたい。

四つ目は校長会の広報手段としてホームページを立ち上げたことはすばらしいことである。随時新しい情報が入るし、遠く離れたところからでも情報を印刷することもできるのですばらしい取り組みである。今後は単に情報だけではなく、例えば授業で活用できる指導案、シラバス等を全国の先生方が活用でき、進路決定にも役立つことができる。今回は立ち上げたことに意味がある。まだ学校としてホームページを開けないところもあると思うが、各学校でアクセスできるような環境整備をしていただきたい。

五つ目は教員研修について、文部科学省として今年度から実施した新産業技術等指導者養成講習会を活用していただきたい。そして東京を中心にやっているが、旅費の関係もあって参加できない教員もいるので、2つある講習会のうち一つは西日本、もう一つは東日本というように交互に繰り返すと先生方にも負担がかからず参加できるのではないかと考えている。文部科学省としても努力していくが、学校側からも積極的に出していきたい。また、その他にも先ほど紹介のあったソーシャルワークの研修講座や福祉関連の学会等があるので、積極的に参加していただきたい。高校福祉科という分科会を持っている学会は日本福祉教育・ボランティア学習学会というものもあるので活用していただきたい。

また、校長会そのものと全国大会のあり方というものを10年を節目に再度見直しをする時期ではないかと思う。よりよい大会になるように皆さんの知恵を出し合って考えてほしい。そのことがひいては生徒に還元されるのではないか。

(7) 福祉についての考え方

教員が障害者に対して、もしくは障害に対して否定的な考えを持っている場合には、その生徒のほとんどが否定的な考えを持つようになる。それは口に出さないにしても通じていくものである。そういう点で今一度障害に対する理解を深めてほしい。自分の障害観というものを見直してほしい。今の福祉教育を大きく分けると2つある。一つは心に響く感性的なアプローチ、もう一つはそれを体系づけて知識もしくは実践できるという取り組みでのアプローチがあると思う。今の福祉教育はどちらかというところを心で育てることのみに陥っている。感性と共に知識、体験、そして介護を育てていけばいいが、感性のみで育てた場合においてその子どもは本当に障害を持っている方を理解しているかといった場合、ある調査によると、感性だけで体験もしない、そして障害を持った方と付き合いを持ったことがないという場合においては、時間が経つにしたがって障害者に対して否定的な意識が強くなっていく。単に体験させればいい、感性に訴えればいいではなくて、その前後に体系付けた知識を与えることが大切である。ぜひとも障害者に対する情緒的な理解とともに、

障害児、あるいは障害者に対する認識のきちんとした知識の形成も合わせてやってほしい。

ではなぜ障害を持った方々に対する偏見を持つのかと言うと、昔から4つの原因があるのではないかとされている。

一つは障害者と直接的な接触経験によって生まれる偏見というものである。つまり障害者のことを何も知らないで、好ましく思っていない人が町でばったり障害者と会ったとき、嫌悪感を感じ偏見を持つということがある。出会う前、又は後に障害者に対してのある程度の正しい認識を持つておく必要がある。二つ目は過度の普遍化に基づく偏見というものである。最近、テレビとか新聞などの福祉の記事の中で「障害を持ってがんばっている」といういい方をすることが多い。「障害者＝がんばっている人間」ではなくて、障害を持っていようがなかろうが、同じ人間だというスタンスでなくてはならない。「障害者＝がんばっている姿＝美」というように見てしまうとそれも偏見になるのではないか。三つ目は無知に基づく偏見というものである。科学的に裏づける根拠がないが、あたりまえのように思っていることがある。例えば「前世に悪い事をしたから障害をもったのだ」という言われ方をする場合がある。全く根拠のないことだと思っているが、言ったりする場合がある。それは無知が生んだ偏見である。四つ目はうわさに基づく偏見というものがある。障害者に対しての無責任な人のうわさがどんどん膨らんでいく。

私たち福祉教育に関わるものとしてはそういう大きな4つの偏見を打破し、否定的な福祉教育ではなくて、障害者に対して偏見を持たないアプローチをしていかなければならない。

日本では、目の前に車いすの方がいると母親が「じろじろ見てはいけませんよ」と言って見せないようにする。そういった「じろじろ見てはいけない」という教育ではなくて、「何かできることはないかな」と正しい知識と正しい技術を持ってそれを実践できるようになることを期待したい。

(8) 最後に

みなさんの実践と校長会の働きかけがあって今年度より教科「福祉」が誕生し実践されている。現状に甘んずることなく、さらなる飛躍を目指して取り組んでいってほしい。本大会での知見を各学校に持ち帰っていろいろと活用していってほしい。この会が元気の出る会、情報交換する場であってほしい。そして全国にネットワークを広げる会になることを期待している。

閉会行事 平成15年10月31日(金) 12:00~12:30 トキハ会館

司会進行：永松 克興 (大分県昭和学園高等学校長)

記 録：嘉弥真 愛 (沖縄県立中部農林高等学校教諭)

仲間 真弓 (沖縄県立中部農林高等学校教諭)

開会のことば

鹿児島県尚志館高等学校長 林 敬次郎

鹿児島県立尚志館高等学校の林です。皆様方の御協力によりまして順調に日程を消化して参りました。いよいよ、最後の締めくくりといたしまして閉会行事に替えさせていただきたいと思ひます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

主催者あいさつ

福祉科高等学校長会会長 木村 行幸

皆様、こんにちは。矢幅清司調査官、山本順子家庭部会副理事長、小島和雄事務局長様、それぞれご多忙の中、理事会を含めまして三日間いろいろな活動、ご指導、ご助言を頂きましたことをまずもってお礼申し上げます。

この大分大会は「変革の時代に求められる魅力ある高校福祉教育」、副題といたしまして「福祉の未来を担う人間性豊かな人材を育てるために」、このように定めて開催されました。開会行事に始まり、基調講演、公開授業、講演会、お腹に鳴り響く和太鼓の演奏、予定時間を越え、熱心に協議がなされた校長会の総会、そして「福沢諭吉」の使い方についてご指導いただきました教育懇談会、教育課題につきまして矢幅先生にお話をさせていただいたところでございますが、どれをとっても内容の濃い充実した時間を過ごすことができ、今大会の目標は十分に達成された、このように思います。野津高校の授業をすべて参観させていただきました。平生からどの先生も心の教育が実践されている背景を先生方の授業展開の中でしっかりと見ることができました。その中で、私自身、これはと思ったことが一つございます。それは、田口先生の現代文の授業でした。「福祉に関する本のスピーチ」を参観いたしまして、今後の福祉教育のあり方について、これはヒントになるものではないか、と感じるところであります。福祉の教育は、福祉教科の中だけで行うものではなく、全教科でこれは推進すべきものである、このように感じたのであります。この授業では生徒は福祉に関する本を読み、その感想をそれぞれ述べていました。この授業はロングホームルームや総合的な学習の時間において福祉を底流とした人間の生き方、在り方を学ぶものとしておおいに活用できるものではないかと感じた次第であります。田口先生のご了解が得られるならば、生徒がどのような

本を読んでいただくを教えてください、ホームページに載せまして色々な場で皆様方に活用していただきたい、このように思った次第であります。

校長会の総会では、複数の県から福祉の研修会を今年度から開催する話を聞きまして、大変力強く思った次第でございます。今後も校長先生方の御支援のもと、職員の資質の向上を図るべき機会をぜひ設けていただきたいと思います。また、全国レベルでの情報の共有ということで、ホームページを大いに活用していきたいと思いますので、皆様方のご協力を重ねてお願いをする次第でございます。

本年は福祉元年、「おぎゃー」と。産声をあげたばかりでございます。今後とも先生方が福祉の心、福祉の意義を踏まえ、福祉教育の発展にご苦労は多いかと思いますが、ご尽力下さいますことをお願いいたします。

職員の研修につきましては、来年の八月の初旬ですが、大橋謙策日本社会事業大学教授、この方に講師と通訳をお願いをいたしまして、プライベートということになりますが、北欧の福祉施設等の見学研修をしたいと、このように考えております。北欧は福祉の先進運営の国ですから、どのような施設があるのか、国民はどのような考え方を持っているのか、そういったものを直接見たり、聞いたりすることはおおいに参考になるのではないかと思います。私自身、二十数年前に、マレーシアにニュージーランド、それからオーストラリア等の数校をたまたま見学する機会に恵まれました。当時、小学校は1クラスだいたい12・3名、中学1クラスは20名弱、高校が26名で、つまり少人数学級、そういうところでありました。懇親会の場において「私のクラスは45名の生徒がいます。」こういう風な話をしましたらビックリしまして、「それでは生徒が何を考えているのかわかるんですか？」で、私は「I don't know.」と答えました。日本の先生方は、多くの生徒に対してどれだけ高い教育効果のある授業を行っているのか、ということをしみじみと感じたことを今もはっきりと覚えております。この研修につきましては、決まり次第、先生方の方にご連絡を差し上げたいと考えております。

最後になりましたが、大分大会の開催にご尽力下さりました、野津高校の皆様、大分県教育委員会関係各位に拍手を持ってお礼の気持ちを表現させていただきたいと思います。では、みなさん拍手をお願いします。以上を持ちましてあいさつと致します。

次回主管校あいさつ

徳島県立小松島西高等学校長 小倉 正幹

来年度、第10回の開催をお引き受けしております徳島県の小松島西高等学校の小倉でございます。まずは、野津高等学校の安田校長先生をはじめ、関係者の方々には大変ご苦勞様でございました。あと数分でございます。私どもは、後365日ですので、大変重い気持ちがございます。小松島西高校につきまして、少し説明させていただきます。人口約4万4千人の小松島市にございまして、4つの学科を持つ総合的な専門高校でございます。商業科が2クラス、食物科が2クラス、生活文化科が1クラス、福祉科が1クラスあり、生徒数は約650名でございます。約半数の生徒が就職をしております。お手元の「徳島大会のご案内(案)」につきましては、期日、研究会等は、この7月下旬に四国ブロックの理事校である飯山高校さんのお世話によりまして、四国ブロックの会を催しまして、このように決めさせていただいているところであります。全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会並びに、前開催県の方々のご指導をいただきながら、また四国ブロックの先生方の御協力も仰ぎながら、明日からでも準備に取りかからなければと思っている次第でございます。よろしくお願ひしたいと思います。

それと、もう一つですが、場違いなパンフレットを1枚忍ばせてあります。「GO!ファイト!!松西!!!」というのがあったと思いますが、少し宣伝をさせていただきます。先ほど商業科があると申しましたが、本年度その科の生徒が起業化教育推進事業に取り組んでおります。そこで本県の特産である藍染め製品をインターネット販売しようということでございます。仕入・販売し決算報告をするというものです。小松島西高校のホームページをご覧いただく場合にちょっと見ていただければと思います。商業科の宣伝をさせていただきました。ついでにと言ってはなんですが、平成16年度は7月30日から全国高等学校総合文化祭というものが徳島県で開催をされます。正式部門は18部門でございますが、本校家庭科を中心としまして、県下全体の家庭科を学ぶ生徒が服飾文化部門ということで協賛いたしております。また、こちらにも参加する生徒さんがございましたら、ご案内いただけたら大変ありがたいな、と思います。

今回はかぼすと和太鼓でご接待をいただきました。来年はすだちと阿波踊りでご接待いたしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

主管校挨拶

大分県立野津高等学校長 安田 緑一

あつという間の2日間でした。今こうして、無事に大会を終了できますのも役員の皆様はもとより、参加をされた先生方の協力のおかげと心から感謝申し上げます。北は北海道から南は沖縄県からと、遠くの地から、そしてお忙しい中をおいで頂きましたからには、何かおみやげを持って帰っていただけるような、そのような大会にしなければと、一生懸命準備をしてまいりました。不行き届きの点もあったろうかと思えますけれども、昨日の教育懇談会の席等で何名かの先生方から、いろいろな言葉を聞きます時に何とか合格点をもらえるのかなと思っているところでもあります。3年前に主管校ということでお引き受けした訳ではありますが、大分市内からこの距離でありますし、宿泊施設も充分ではありません。小規模校でもございます。交通事情も三年前ですと、昨日よりも、バスが10分～15分余分にかかっていたと思います。今はみごとに四車線になっているわけでありませう。先生方にはご記憶があらうかと思えますが、昨年ワールドカップ・サッカー大会が行われました。その時に大分でも3試合が行われたので、昨年5月、6月の2か月で一気に立派な道路に整備されたわけでありませう。あたかも今回の全国大会に備えての整備であったかのようでありませう。そしてまた、この大会三日間を通じまして、本当に好天気恵まれ、この青空のもと大分野津町の澄んだ空気を吸っていただけました。そういう意味でも大変うれしい大会でございます。主管校をお引き受けいたしましたし、今本当によかったと思っております。この大会を通じて本校といたしましても学ぶべきところ、いろいろな課題も多く感じられました。それより何よりよかったのは本校の職員、生徒みんなそして各関係機関の方に御協力、御支援をいただき、そして、学校をあげて取り組めたということでございます。ここで、本校の職員を褒めるのはどうかと思うのですが、本大会に対しての職員の取り組み、この大会に向けての準備振りは見事であったと、そのように感じております。来年度は徳島県の小松島西高等学校を主管校に行われます。みなさんとの再会を楽しみにしながら今年以上の実りある大会になるよう心からお祈りし、挨拶といたします。

閉会のことば

沖縄県立中部農林高等学校長 官里 朝光

関係各位のご臨席のもと全国九ブロックから、福祉科教育に係わる高等学校が一同に会しました2日間の充実した本大会の成果を、さらに教育現場で活かしていただきますことを心から念願し、これを持ちまして平成15年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会、第9回総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会、大分大会のすべての日程を閉会いたします。ありがとうございました。

主管校挨拶

大分大会を終えて — 学校あげて、町あげての大会 —

主管校 大分県立野津高等学校 校長 安田 緑

北は北海道から南は沖縄県からと、全国各地から234名の方々に参加していただき、第9回大会が、新教科「福祉」が設置されたこの記念すべき年に、この地で盛大に開催され、心より感謝申し上げます。大会期間中、清んだ青空に恵まれましたし、予定通り全日程を終えることもでき、参加者には、何かお土産を持って帰ってもらえる大会にできたのかなと自負しております。

今年は九州地区が開催県ということで、主管校を引き受けたわけですが、人口9千の野津町は自然環境には恵まれています、大分から約40キロ、宿泊施設もない、本校といえば教職員合わせて20名余りの小規模校です。不安の出発でしたが、県内の福祉系列を持つ高等学校の校長・教諭の先生方に全面的な協力を得て、今日の日を迎えることができました。特に私学の心強い支援は忘れることができません。本校としても、この大会を貴重な研修の場として、これまでの取り組みに新たな課題を見出し、それらを今後の福祉教育に活かしていきたいと考え準備に臨みました。

主管校を引き受け、今、本当によかったと思っております。全校6クラスの生徒全員に対して公開授業ができ、これが生徒にとっても大きな自信につながったこと。福祉の授業だけでなく国語の授業も行い、すべての教科・行事を通しての教育が必要であることが認識されたこと。何よりよかったのは、野津町等の関係機関の協力・応援をいただきながら、学校あげて取り組めたことが大きな収穫でした。この大会を通じて、学ぶべきところも多くありました。これからも、「福祉は私たちの手で」という高い志を持って、地域の福祉リーダーとなる人材を育成するべく教育活動に取り組んでいく所存です。

最後になりましたが、懇切丁寧に大会運営の指導助言をいただいた古河第二高校・松戸矢切高校、そして、文部科学省・厚生労働省・大分県教育委員会等関係者の皆さんに厚くお礼を申し上げます。来年は小松島西高等学校を主管校に開催されます。皆さんとの再会を楽しみにしながら、今年以上に実りある大会になりますよう祈念致します。

大分大会事務局を担当して

主管校大分県立野津高等学校 教諭 南 富美子

大分大会の開催につきましては、大分県内、九州沖縄ブロックの先生方をはじめ多くの方々のご支援をいただきましたこと心から感謝しております。お陰様で無事大会を終えることができました。

4年前、当時の学校長から「平成15年に野津高校が主管校で福祉科の全国大会を開催することを引き受けたから」というお話がありました。本校に赴任してまだ間もなかった私は、全国大会が何なのかもわからない状態でした。あれから4年経ち、当時の先生方が転勤退職される中、とうとう私が事務局を担当することになってしまいました。教職員30名足らず、生徒数220名の小さな学校でどのように全国からの先生方をお迎えし、大会を運営していけばいいのだろうと不安でいっぱい

した。月日は過ぎ、大会の日はどんどん迫ってきました。

そして、野津町で全国大会をとということで、会場を野津町中央公民館に学校で公開授業をということを決めました。公開授業は、全クラスを公開し、普通教科の授業の公開もすることを考えました。普通教科を福祉科の生徒にどのように指導しているかを見ていただくことも福祉科単科の高校として大切なことであろうと考えました。このような公開授業の在り方や多くの会場での大会運営も本校の職員全員の協力がなくてはできない取り組みでした。本当に有り難かったと思っております。また、九州沖縄ブロック及び県内各校の校長先生をはじめ諸先生方もお忙しい中、我が事のようにこの大会のことを考えてくださり、大会運営に力を尽くしてくださいました。特に「身体を壊さないように気をつけて頑張ってください」という励ましの言葉にはいつも元気をいただきました。

大会運営につきましては皆様のご支援に感謝をすることばかりです。来年は大会も10年、節目の年です。大会の在り方も再検討され、充実した大会となるように前主管校として協力を惜しみません。そして、個人的にもますます高校福祉教育が発展していくように日々の教育実践に精進していかなくてはならないと思っています。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

規 約

平成 7年10月12日施行
平成10年 7月23日改正
平成11年10月21日改正
平成14年10月31日改正
平成15年10月30日改正

(総 則)

- 第1条 本会は全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会と称する。
第2条 本会は全国高等学校長協会家庭部会の研究協議機関として、福祉教育の振興を図ることを目的とする。

(組 織)

- 第3条 本会は全国の福祉科（福祉科に準ずる）を置く高等学校の校長で組織する。
第4条 本会は次の地区を設ける。
1、北海道地区
2、東北地区
3、関東地区
4、北信越地区
5、東海地区
6、近畿地区
7、中国地区
8、四国地区
9、九州・沖縄地区

(事 業)

- 第5条 本会の目的を達成するために年1回の総会・研究協議会を開催するほか、研究活動、広報活動等を行い、また学科主任の連絡、情報交換、研究協議等の事業を行う。

(役 員)

- 第6条 前条の事業を行うために本会に次の役員を置く。
1、会 長 1名
2、副会長 1名
3、理 事 各地区若干名
4、監 事 2名
5、参 与 若干名
第7条 役員は理事会を構成し、本会の企画・運営に当たる。
第8条 役員の出選方法は次のとおりとする。
1、理事は各地区ごとに総会で選出する。
2、会長は理事の互選とする。
3、監事は会長が委嘱する。
4、副会長は会長が委嘱し理事を兼ねることができる。
5、会長所属地区からは、新たに理事を選出できる。
6、参与は会長が委嘱する。
第9条 役員の出選方法は2年とする。但し、再任は妨げない。
第10条 本会の事務局は会長高等学校に置く。

(会 計)

- 第11条 本会の経費は会員の会費で支弁する。
会費は年額5,000円とする。

(附 則)

この規約は平成 7年10月12日から施行する。

平成14年度事業報告

全国高等学校長協会家庭部会 福祉科高等学校長会

期 日	活 動 内 容	備 考
5月30日(木) 10:00~15:30	第1回 学科主任代表者会議 ・茨城大会について ・学科主任代表者会組織について ・代表者組織の活動について 研究部・調査統計部・広報部	日本私立学校振興・共済事業団 502号室
5月30日(木) 13:30~16:00	第1回理事会 ・役員を選出について ・要望書の作成について ・茨城大会に向けて ・平成15年度開催地区について (九州地区) ・『福祉科高等学校長会』の事務局担当校について	家庭部会事務局会議室
5月30日(木) 16:00~17:00	理事・学科主任合同会議 ・理事会及び学科主任会報告	家庭部会事務局会議室
7月25日(木)	広報「福祉系高校だより」 第1号発行	広報部 事務局 吉田高等学校
10月12日(土) 13日(日)	第32回福祉教育セミナー 福祉科関係高校卒業生の大学入学 枠の拡大要望	龍谷大学 参加者 長浜高等学校 水口順子 教諭
10月30日(水)	第2回 理事会 第2回 学科主任代表者会議	茨城大会会場 茨城県立古河第二高等学校 あすなろ会館
10月31日(木)	茨城大会 第1日 (講演会・総会・公開授業・研究協議 会等)	講師 金城大学副学長 井上千津子 氏
11月 1日(金)	茨城大会 第2日 (全体報告会 閉会行事 等)	
12月27日(金)	広報「福祉系高校だより」 第II号発行	広報部 事務局 吉田高等学校
3月14日(金)	茨城大会報告書の刊行	A4、450部、67P (うち、写真4P) 各校2部配布
5月23日(金)	実践事例集発行	研修部 事務局 函館大妻高等学校

平成14年度全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会計決算報告書

収 入 額	1,263,656 円
支 出 額	721,405 円
残 額	542,251 円

1 収入の部

(単位:円)

科	目	予 算 額	決 算 額	比較増減(△)額	摘 要
会	費	895,000	955,000	60,000	年会費5,000×191校
繰	越 金	308,635	308,635	0	
雑	収 入	1,000	21	△ 979	
合	計	1,204,635	1,263,656	59,021	

2 支出の部

(単位:円)

科	目	予 算 額	決 算 額	比較増減(△)額	摘 要
総務費	会 議 費	120,000	88,556	31,444	
	印 刷 費	30,000	0	30,000	
	旅 費	100,000	40,800	59,200	事務局1人分総会派遣費
	通 信 費	180,000	63,740	116,260	
	小 計	430,000	193,096	236,904	
事業費	報告書印刷費	400,000	349,650	50,350	A4版450部
	総会補助費	40,000	40,000	0	
	広報部補助費	40,000	29,920	10,080	
	調査研究部補助費	70,000	21,820	48,180	
	研修部補助費	30,000	50,665	△ 20,665	
	雑 費	30,000	36,254	△ 6,254	封筒印刷・写真
	小 計	610,000	528,309	81,691	
予 備 費	164,635	0	164,635		
合 計	1,204,635	721,405	483,230		

本会計は、決算報告書のとおり正確かつ適正に処理されていたことを認めましたので、ここに報告いたします。

平成15年5月28日

全国高等学校長協会家庭部会 福祉科高等学校長会 監事

群馬県立大間々高等学校長

古 籾 勝彦



埼玉県立不動岡誠和高等学校長

宇田川 努



全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会
平成15年度事業計画

期 日	活 動 内 容	備 考
5月28日(水) 10:00~12:00	第1回 学科主任代表者会議 ・大分大会について ・学科主任代表者会組織について ・代表者組織の活動について (研究部・調査統計部・広報部)	千代田区九段上集会室
5月28日(水) 10:00~12:00	第1回理事会 ・役員を選出について ・大分大会に向けて ・福祉科校長会独立について ・平成16年度開催地(四国)区について ・『福祉科高等学校長会』の事務局担当校について	千代田区九段上集会室
5月28日(水) 13:00~16:00	理事・学科主任合同会議 ・理事会及び学科主任会報告	千代田区九段上集会室
7月28日(月) ~8月1日(金)	新産業技術等指導者養成講習 社会福祉援助技術に関する講義と実技	NHK学園高等学校
7月30日(水) ~8月7日(木)	新産業技術等指導者養成講習 介護技術に関する講義と実技	文京社会福祉専門学校
10月29日 (水)	第2回 理事会 第2回 学科主任代表者会議	大分大会会場：大分県立野津高等学校・野津町中央公民館・小田急センチュリーホテル・トキハ会館 講師：大分大学教授 荻野 源吾 氏
10月30日 (木)	大分大会 第1日 (講演会・総会・公開授業・研究協議会等)	
10月31日 (金)	大分大会 第2日 (全体報告会 閉会行事 等)	
2月27日 (金)	大分大会報告書の刊行	A4・450部・ 6OP(うち、写真5P) 各校2部配布

- ・広報「福祉系高校だより」発行
- ・社会福祉セミナー福祉科関係高等学校卒業生の大学入学卒の拡大要望
- ・指導案(実践事例集)の作成

平成15年度
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会
会計予算

1. 収入の部

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	比較増減額	摘要
会費	955,000	895,000	60,000	年会費5,000円×191校
繰越金	542,251	308,635	233,616	
雑収入	500	1,000	-500	
合計	1,497,751	1,204,635	293,116	

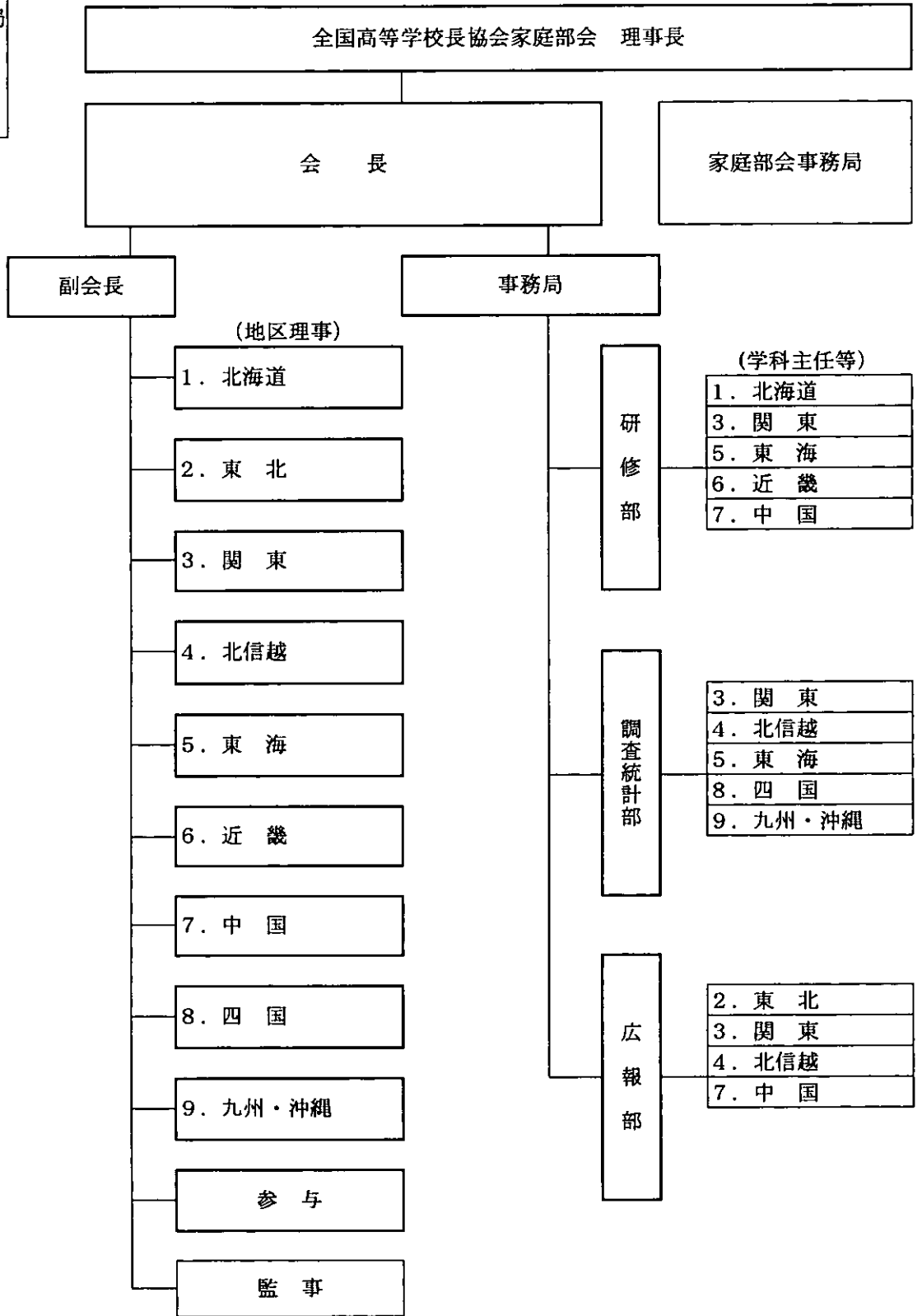
2. 支出の部

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	比較増減額	摘要	
総務費	会議費	70,000	120,000	-50,000	
	印刷費	30,000	30,000	0	
	旅費	100,000	100,000	0	事務局1人分総会派遣費
	通信費	100,000	180,000	-80,000	
	小計	300,000	430,000	-130,000	
事業費	報告書印刷費	400,000	400,000	0	A4版 450部
	総会補助費	40,000	40,000	0	
	広報部補助費	60,000	40,000	20,000	
	調査統計部補助費	60,000	70,000	-10,000	
	研修部補助費	60,000	30,000	30,000	
	雑費	30,000	30,000	0	封筒印刷・写真
小計	650,000	610,000	40,000		
予備費	547,751	164,635	383,116		
合計	1,497,751	1,204,635	293,116		

平成15・16年度 組織図

文部科学省
初等中等教育局
教科調査官



平成15年度加盟校

地区別・都道府県別数

ブロック	都道府県	小計	合計	ブロック	都道府県	小計	合計		
1. 北海道	北海道	5	5	6. 近畿	滋賀	4	18		
2. 東北	青森	3	26		京都	2			
	岩手	7			大阪	4			
	宮城	3			兵庫	5			
	秋田	6			奈良	2			
	山形	3			和歌山	1			
	福島	4		7. 中国	鳥取	0	17		
3. 関東	茨城	3	島根		4				
	栃木	3	岡山		7				
	群馬	11	広島		3				
	埼玉	2	山口		3				
	千葉	4	8. 四国		徳島	3		12	
	東京	4		香川	2				
神奈川	6	愛媛		5					
4. 北信越	新潟	5	15	高知	2	9. 九州沖縄	福岡	12	56
	富山	3		佐賀	5				
	石川	3		長崎	2				
	福井	2		熊本	9				
	山梨	1		大分	9				
	長野	1		宮崎	6				
5. 東海	岐阜	6	23	鹿児島	11				
	静岡	7		沖縄	2				
	愛知	4		合計			205		
	三重	6							

過去10年の推移

	1. 北海道	2. 東北	3. 関東	4. 北信越	5. 東海	6. 近畿	7. 中国	8. 四国	9. 九州沖縄	全国
平成6年度	4	13	12	4	5	6	7	2	13	66
平成7年度	4	12	13	6	5	7	9	2	16	74
平成8年度	4	17	14	10	6	9	11	5	22	98
平成9年度	5	18	15	13	7	10	13	5	25	111
平成10年度	5	20	15	7	12	11	18	9	30	127
平成11年度	5	21	21	10	14	10	17	9	35	142
平成12年度	5	24	21	13	16	11	18	10	44	162
平成13年度	5	25	22	5	16	17	19	10	50	169
平成14年度	5	26	29	15	20	17	18	10	50	190
平成15年度	5	26	33	15	23	18	17	12	56	205

平成 15・16 年度 役 員

地区	役職	氏名	学校名/住所	都道府県	TEL/FAX
文部科学省初等中等教育 局教科調査官		矢幅 清司	〒100-0013 千代田区霞が関3-2-3	東京都	03-3519-8718 03-3519-8729
全国高等学校長協会 家庭部会理事長		今濱 勝久	(都)上野忍岡高等学校長 〒110-0014 台東区北上野2-24-14	東京都	03-3841-7916 03-3841-6937
全国高等学校長協会 家庭部会事務局長		小島 和雄	〒102-0071 千代田区富士見1-5-6	東京都	03-3261-0617 03-3288-1670

関 東	会 長	木村 行幸	(県)松戸矢切高等学校	千葉県	047-363-0577
			〒271-0095 松戸市中矢切54		047-363-0577 (同一)
東 北	副会長	高橋 福太郎	(私)東奥学園高等学校	青森県	017-775-2121
			〒030-0821 青森市勝田2-11-1		017-775-2137
1. 北海道	理 事	奥寺 仁子	(道)置戸高等学校	北海道	0157-52-3263
			〒099-1112 常呂郡置戸町字置戸256-8		0157-52-3263
2. 東 北	理 事	高橋 福太郎	(私)東奥学園高等学校	青森県	017-775-2121
			〒030-0821 青森市勝田2-11-1		017-775-2137
3. 関 東	理 事	大塚 専司	(県)不動岡誠和高等学校	埼玉県	048-561-6651
			〒348-0024 羽生市大字神戸706		048-560-1051
4. 北信越	理 事	飯島 彦太郎	(県)上田千曲高等学校	長野県	0268-22-7070
			〒386-8585 上田市大字中之条626		0268-23-5370
5. 東 海	理 事	辻井 賢隆	(県)上野商業高等学校	三重県	0595-21-1900
			〒518-0833 上野市緑ヶ丘東町920		0595-21-1923
6. 近 畿	理 事	安井 啓夫	(県)榛原高等学校	奈良県	0745-82-0525
			〒633-0241 宇陀郡榛原町下井足210		0745-82-7606
7. 中 国	理 事	若槻 士郎	(県)松江農林高等学校	島根県	0852-21-6772
			〒690-8507 松江市乃木福富町51		0852-21-6796
8. 四 国	理 事	斉藤 賢一	(県)飯山高等学校	香川県	0877-98-2525
			〒762-0083 綾歌郡飯山町下法軍寺664-1		0877-98-2576
9. 九州・沖縄 第9回大会 主管校	理 事	安田 緑一	(県)野津高等学校	大分県	0974-32-2031
			〒875-0201 大野郡野津町大字野津市537-1		0974-32-2119
関 東	監 事	古山 豊	(県)御宿高等学校	千葉県	0470-68-2911
			〒299-5102 夷隅郡御宿町久保1528		0470-68-6886
関 東	監 事	氏家 武彦	(私)日本女子体育大学体育学部 附属二階堂高等学校	東京都	03-3322-9151
			〒156-0043 世田谷区松原2-17-22		03-3322-9813

**平成 15・16 年度
学科主任等代表者 組織分担表**

事務局:佐藤 知行・鈴木 恭太・蜂屋 康子 (千葉県立松戸矢切高等学校)					
	ブロック	氏名	公私	学校名	TEL FAX
				住所	
1 授業・指導書研究 研修部	5. 東海	校長部会 辻井 賢隆	公	上野商業高等学校 三重県上野市緑ヶ丘東町 920	0595-21-1900 0595-21-1923
	5. 東海	◎富井 恵子	公	上野商業高等学校 三重県上野市緑ヶ丘東町 920	0595-21-1900 0595-21-1923
	3. 関東	○佐藤 恵子	公	不動岡誠和高等学校 埼玉県羽生市大字神戸 706	048-561-6651 048-560-1051
	1. 北海道	前田 信治	公	置戸高等学校 北海道常呂郡置戸町字置戸 256-8	0157-52-3263 0157-52-3263
	6. 近畿	松本 美幸	公	榛原高等学校 奈良県宇陀郡榛原町下井足 210	0745-82-0525 0745-82-7606
	7. 中国	矢野実代子	公	黒瀬高等学校 広島県賀茂郡黒瀬町乃美尾 1	0823-82-2525 0823-82-2527
	2 全国基礎調査 調査統計部	8. 四国	校長部会 斉藤 賢一	公	飯山高等学校 香川県綾歌郡飯山町下法軍寺 664-1
8. 四国		◎北村 文恵	公	飯山高等学校 香川県綾歌郡飯山町下法軍寺 664-1	0877-98-2525 0877-98-2576
5. 東海		○渡辺 美智子	公	大垣桜高等学校 岐阜県安八郡墨俣町上宿 465-1	0584-62-6131 0584-62-5608
3. 関東		鈴木 恭太	公	松戸矢切高等学校 千葉県松戸市中矢切 54	047-363-0577 (同一)
4. 北信越		中川 裕輝	公	西川竹園高等学校 新潟県西蒲原郡西川町大字鱧 2-1	0256-88-3131 0256-88-2172
9. 九州 沖縄		南 富美子	公	野津高等学校 大分県大野郡野津町大字野津 537-1	0974-32-2031 0974-32-2119
3 各校の近況・福祉情報 広報部		4. 北信越	校長部会 飯島彦太郎	公	上田千曲高等学校 長野県上田市大字中之条 626
	4. 北信越	◎小林 逸元	公	上田千曲高等学校 長野県上田市大字中之条 626	0268-22-7070 0268-23-5370
	2. 東北	○河野 春子	公	迫桜高等学校 宮城県栗原郡若柳町川南戸ノ西 184	0228-35-1818 0228-35-1822
	2. 東北	小川 義光	私	東奥学園高等学校 青森県青森市勝田 2-11-1	017-775-2121 017-775-2137
	3. 関東	蜂屋 康子	公	松戸矢切高等学校 千葉県松戸市中矢切 54	047-363-0577 (同一)
	7. 中国	唐島 一将	公	松江農林高等学校 島根県松江市乃木福富町 51	0852-21-6772 0852-21-6796
	平成 10 年 5 月 28 日・全国福祉科学科主任代表者会議での確認事項 (1)学科主任代表者会議の中で分担する。 (2)担当者が異動となっても担当校として遂行する。 (3)平成9年福井大会で、学科主任代表者会活動費が措置されたが会議における出張等の費用は各該当校で配慮をする。				

**総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会
会場地区一覽**

ブロック		北海道 東北	関東 北信越	東海 近畿	中国 四国	九州・ 沖縄
回	年度					
1	平成7年度			静岡・ 三島高		
2	平成8年度	釧路 星園高				
3	平成9年度		福井・ 大野 東高			
4	平成10年度					宮崎・ 門川 農高
5	平成11年度				岡山・ ベル 学園高	
6	平成12年度			兵庫・ 新宮高		
7	平成13年度	岩手・ 一関 第二高				
8	平成14年度		茨城・ 古河 第二高			
9	平成15年度					大分・ 野津高
10	平成16年度				徳島・ 小松島西高	
11	平成17年度			三重		
12	平成18年度	○				
13	平成19年度		○			
14	平成20年度					○

**総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会
分科会分担一覧**

ブロック		1	2	3	4	5	6	7	8	9
回	年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄
1	平成7年度			千葉・松戸矢切高	石川・田鶴浜高	静岡・三島高		岡山・岡山女子高		
2	平成8年度	釧路星園高	青森・東奥学園高 岩手・一戸高							
3	平成9年度			千葉・松戸矢切高 神奈川・高浜高	石川・金沢伏見高			岡山・美作高 山口・久賀高		福岡・杉森女子高
4	平成10年度			茨城・八千代高 栃木・真岡北陵高		静岡・静岡女子高				沖縄・陽明高
5	平成11年度		山形・山辺高	千葉・御宿高		愛知・高浜高	京都・福知山淑徳高			
6	平成12年度		①青森・七戸高 ②福島・光南高	②茨城・古河第二校 ③埼玉・不動岡誠和高		④三重・上野商高	①兵庫・日高高		③愛媛・北条高	④鹿児島・加治木女子高
7	平成13年度	① 置戸高	②岩手・西和賀高		③新潟・八海高	④愛知・古知野高				
8	平成14年度			① 神奈川・川崎高			② 和歌山・有田中央高	③岡山・倉敷中央高／美作高 広島・吉田高		④宮崎・高原高
9	平成15年度	④函館大妻高	③秋田・合川高		②新潟・西川竹園					①熊本・阿蘇清峰高
10	平成16年度			②		③	④		①	
11	平成17年度		④			①		②		③
12	平成18年度	①			④		③		②	

*分科会のテーマは次の4つとする。

①授業研究(主管地区校が担当する) ②現場実習 ③資格取得 ④進路指導

*分科会のテーマは持続性を有するものとする。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会 加盟校リスト

通NO.	加盟 番号	ブロック	校名	校名	学科名	コース・専修名	郵便番号	住所(各道府県から)	TELNo.	FAXNo.	ホームページ(H・P)	学校長名	主任等名
1	1	北海道	道 釧路	福祉科 生活福祉科	福祉科	福祉科	099-1112	北海道釧路市野田町字野田250-8	0157-52-3283	0157-52-3283	http://www.town.oketo.hokkaido.jp/oketokoukou/index.cfm	奥寺 仁子	前田 信治
2	2	北海道	村 留寿都	農業福祉科	農業福祉科	農業福祉科	048-1731	北海道紋別郡留寿都町字留寿都179-1	0136-48-3376	0136-48-3386	無	山田 匠芳	宮田 俊江
3	3	北海道	市 網走	福祉科	福祉科	福祉科	085-0806	北海道網走市武佐4-28-10	0154-48-1538	0154-48-1941	無	川村 肇二	阿部 剛彦
4	4	北海道	町 剣持	農業・生活科	生活福祉科	生活福祉科	098-0323	北海道上市川町網走町栄町6215	018534-2549	018534-2894	http://users.edas-net.ne.jp/kenko/	佐々木 誠治	渡部 香葉子
5	5	北海道	私 函館大豊	福祉科	福祉科	福祉科	040-0002	北海道函館市網走町14-23	0138-52-1890	0138-52-1892	http://www.lncv.ne.jp/otsumagih/	外山 茂雄	田中 芳博
6	6	北海道	専 青森県立七戸	総合学科	福祉サービス系列	福祉サービス系列	039-2516	青森県上北郡七戸町字野田47-31	0176-62-4111	0176-62-4112	http://www.kamikita.ssn.ac.jp/~shichinohta/	高橋 昭子	外崎 留理子
7	7	北海道	私 東奥学園	福祉科	福祉科	福祉科	030-0821	青森県青森市南田2-11-1	017-775-2121	017-775-2137	http://www.toogakuen.ac.jp	高橋 福太郎	小川 義光
8	8	北海道	私 光星学校	保健福祉科	福祉科	福祉科	031-8507	青森県八戸市清原台6-14-5	0178-33-4151	0178-31-6278	http://www.jomon.jp/~kosei05/	鈴木 麗幸	中村 千鶴子
9	9	北海道	専 若手県立西田塾	普通科	福祉情報コース	福祉情報コース	029-5503	岩手県和賀郡湯田町湯田19-25-2	0197-84-2809	0197-84-2844	http://www2.iwate-ed.jp/nwg-h	小平 忠孝	笠水上 須正
10	10	北海道	専 若手県立一田第二	福祉科	福祉科	福祉科	021-0041	岩手県一田町若手字野中23-1	0191-25-2242	0191-25-5432	http://www2.iwate-ed.jp/kuc-h/	鈴木 誠治	野塚 彰人
11	11	北海道	専 若手県立久慈学院	福祉科	福祉科	福祉科	028-0021	岩手県久慈町門前36-10	0194-53-4371	0194-53-2540	無	高橋 敏秀	阿部 也寸志
12	12	北海道	専 若手県立一戸	福祉科	福祉科	福祉科	028-5312	岩手県一戸町一戸字藤巻60-1	0195-33-3042	0195-33-2777	無	日山 敏子	藤澤 大
13	13	北海道	専 若手県立若谷堂	総合学科	福祉系列	福祉系列	023-1122	岩手県江刺市龍山4-47	0197-35-1911	0197-35-4677	無	高橋 敏也	榎井 栄
14	14	北海道	私 桜岡カレッジ	総合学科	福祉サービス系列	福祉サービス系列	020-0851	岩手県盛岡市向中野字字川2-3	019-636-0827	019-636-0830	http://www.school.jp	宮本 義孝	森岡 一恵
15	15	北海道	私 若手女子	福祉科	福祉科	福祉科	020-0025	岩手県盛岡市大沢川原1-6-34	019-623-6467	019-652-3327	http://www.iwategoshi-h.ed.jp	澤野 裕子	石川 一代
16	16	北海道	専 宮城県立村田	総合学科	社会福祉系列	社会福祉系列	989-1305	宮城県仙台市若林区村田大字村田字堂谷1	0224-83-2275	0224-83-2276	無	天田 武邦	日下 みどり
17	17	北海道	専 宮城県立西田	総合学科	福祉科	福祉科	989-5502	宮城県栗原市若林区西田大字西田184	0228-35-1818	0228-35-1822	http://hakuou.myswan.ne.jp/	太田 四郎	河野 香子
18	18	北海道	私 明成	普通科	介護福祉コース	介護福祉コース	981-6570	宮城県仙台市青葉区川崎2-26-1	022-278-6131	022-277-5130	無	小島 信弥	榎本 香葉代
19	19	北海道	専 秋田県立大館	普通科	看護福祉コース	看護福祉コース	017-0876	秋田県大館市野田2-3-1	0186-49-1010	0186-49-1011	http://www.katsura-ch.akiita-c.ed.jp	永井 高道	成田 ハリエ
20	20	北海道	専 秋田県立雄勝	普通科	福祉コース	福祉コース	019-0112	秋田県雄勝郡雄勝町下殿内字小白岩197-1	0183-52-4355	0183-52-4356	http://www.yocutopia.or.jp/~netikd	芳賀 誠	栗田 美樹子
21	21	北海道	専 秋田県立雄勝	普通科	生活・福祉系列	生活・福祉系列	019-0701	秋田県平鹿郡雄勝町雄勝字一本柳137	0182-45-2073	0182-45-2088	http://www2.adu-c.orz.fakita.in/~schll1281	近藤 敏敏	遠藤 敏雄
22	22	北海道	専 秋田県立北	生活科学科	福祉コース	福祉コース	012-0823	秋田県湯沢市湯沢/原2-1-1	0183-73-5188	0183-73-5189	無	丹 隆	渡部 由佳
23	23	北海道	組合 秋田県立合川	介護福祉科	福祉科	福祉科	018-4221	秋田県北秋田郡合川町下杉字中島54-2	0188-78-3177	0188-78-3178	http://www.kumagera.ne.jp/aitkewac/	佐藤 第一	穴倉 博明
24	19	北海道	専 秋田県立六脚	福祉科	福祉科	福祉科	019-1404	秋田県北秋田郡六脚町六脚字島崎52	0187-84-1280	0187-84-0040	無	草野 忠義	岩沢 慎子
25	24	北海道	専 山形県立山辺	福祉科	福祉科	福祉科	990-0301	山形県東田川郡山辺町大字山辺3028	023-684-5482	023-684-5545	http://www.yamanobe-h.ed.jp/	武田 允興	佐藤 健男
26	26	北海道	専 山形県立鶴岡中央	総合学科	社会福祉系列	社会福祉系列	997-0017	山形県鶴岡市大字大玉寺字日本園410	0235-25-5724	0235-25-5734	無	菅生 田樹	飯澤 英美恵
27	27	北海道	専 山形県立天童	総合学科	保健福祉系列	保健福祉系列	994-0021	山形県天童市大字山元8650	023-653-6121	023-653-6189	無	佐藤 利廣	奥山 留美子
28	28	北海道	専 福島県立水戸	総合学科	福祉科	福祉科	969-0227	福島県西白河郡矢吹町南町532	0248-42-2205	0248-44-3373	http://www.koban-ch.f.fsa.ed.jp/	市川 淳一	大久保 義行
29	29	北海道	専 福島県立川口	普通科	福祉コース	福祉コース	968-0011	福島県大沼郡金山町大字川口字乾沢2434-1	0241-94-2154	0241-94-2240	http://www.kaneguchi-ch.f.fsa.ed.jp/	原 秀司	田中 賢司
30	30	北海道	専 福島県立新井	普通科	福祉コース	福祉コース	963-4398	福島県田村郡田村町大字新井字石崎15-3	0247-82-1511	0247-82-5233	http://www.funabiki-ch.f.fsa.ed.jp	原 秀司	榎本 雅子
31	31	北海道	専 福島県立小野	総合学科	福祉科	福祉科	963-3401	福島県田村郡小野町大字小野字新字島ノ後6	0247-72-3171	0247-72-6211	http://www.ono-h.f.fsa.ed.jp	古岡 隆史	北村 修一

通No.	加盟 番号	ブロック	学校名	学科名	コース・専修名	郵便番号	住所(郵便局から)	TELNo.	FAXNo.	ホームページ(H・P)	学校長名	主任等名
32	3	関東	茨城県立古河第二	福祉科	専	308-0024	茨城県古河市幸町19-19	0280-32-0444	0280-31-8602	http://www.koz2-h.ed.jp/	白戸 尊男	嶋田 拓巨
33	3	関東	茨城県立八千代	総合学科	社会福祉系列	300-3561	茨城県船橋市八千代町大字早原4824-2	0298-48-1838	0298-48-3201	http://www.yachiyo-h.ed.jp	鈴木 忠司	潮田 巧巳
34	3	関東	茨城県立大子第二	普通科	福祉コース	319-3521	茨城県大子町北田原662	02957-2-0147	02957-2-1301	http://www.daigo2-h.ed.jp	松本 弘明	大内 康子
35	3	関東	栃木県立真岡北校	職業福祉科	専	321-4415	栃木県真岡市下郷町396	0285-82-3415	0285-83-4834	http://www.hokuh-hs.oyama.tochigi/nougyou/HOKRY/	高沼 久因	津瀬 由美子
36	3	関東	栃木県立塩谷	社会福祉科	専	329-2332	栃木県塩谷郡塩谷町大宮2579-1	0287-45-1101	0287-45-0988	http://www.tochigi-c.ed.jp/Aokou/Highschool/Shioya/index.htm	井上 満子	飯村 新子
37	3	関東	栃木県立田沼	社会福祉科	専	327-0312	栃木県安堵郡田沼町本300-1	0283-82-3411	0283-82-8404	http://www.tanuma-h.ed.jp/	奈良部 賢	鈴木 茂子
38	3	関東	群馬県立新田南	総合学科	福祉サービスマジック	370-0347	群馬県新田市新田町大字大原990	0278-57-1056	0278-57-3953	http://www.edu-c.pref.gunma.jp/sakko/sakko/mika	一ノ瀬 忠雄	北澤 朝子
39	3	関東	群馬県立渋川南	総合学科	生活文化系列	377-0000	群馬県渋川市折原3912-1	0279-24-2320	0279-24-8543	http://www.seitui-hs.gun.ed.jp/	黒岩 健一	名塚 直寛
40	3	関東	群馬県立大岡	普通科	福祉生活系	376-0102	群馬県山田郡大岡町町崎193-1	0277-73-1811	0277-72-4212	http://www.ome-hs.gen.ed.jp/	伊藤 敏	菅下 美歩
41	3	関東	群馬県立万寿	普通科	福祉サービスマジック	370-1503	群馬県多野郡神流町生利1649-1	0274-57-3119	0274-57-2453		高橋 茂	増山 乃和子
42	3	関東	群馬県立太田西女子	家政科	専	373-0844	群馬県太田市下田島1243-1	0278-31-0511	0278-31-8921	http://www.edu-c.pref.gunma.jp/sakko/kou/nishi/	山崎 米子	冬木 真登因
43	3	関東	群馬県立吾妻	福祉科	専	377-0801	群馬県吾妻郡吾妻町原町192	0278-86-2334	0278-86-2747	http://www.egatune-hs.gen.ed.jp/	高橋 隆夫	堀原 佐知子
44	3	関東	群馬県立岡北	コミュニケーション	園芸福祉コース	375-0017	群馬県岡田町園庭90	0274-22-2308	0274-22-6741	http://www.fujikita-hs.gen.ed.jp	中村 昭夫	井上 徹
45	3	関東	群馬県立岩井	総合学科	専かま玉生活サイエンス	370-2104	群馬県多野郡岩井町高殿1478-1	027-388-3511	027-388-2286	http://www.yoshi-hs.gen.ed.jp/	渡嶋 敏	飯塚 知子
46	3	関東	群馬県立玉村	普通科	福祉選択	370-1134	群馬県在来郡玉村町与次分14	0270-85-2308	0270-84-1970	http://www.edu-c.pref.gunma.jp/sakko/kou/tamamura/	小林 繁夫	高所 里美
47	3	関東	私立第一	家政科	福祉教育系	376-0043	群馬県桐生市小曾町1-5	0277-22-6131	0277-22-8134		高橋 昇	杉山 雅宏
48	3	関東	群馬県立高崎南	普通科	福祉系列	370-0033	群馬県高崎市大原町631	027-352-3460	027-353-0855		宮川 清	青柳 博文
49	3	関東	埼玉県立不動岡南	社会福祉科	専	348-0024	埼玉県羽生市大字神戸706	048-581-8851	048-580-1051	http://www.seiwa-hs.psec.ed.jp/	大塚 尊司	佐藤 恵子
50	3	関東	私立学園	普通科	福祉実践生コース(福祉)	345-0015	埼玉県北葛城郡杉下町登壇1642	0480-38-1810	0480-38-2876	http://www.shokagakuen.ac.jp	迫野 寿彦	釜田 和文
51	3	関東	千葉県立松戸西	福祉新課程	専	271-0095	千葉県松戸市中央切54	047-388-4741	047-388-4386	http://www.h7.dion.ne.jp/fukushi	木村 行幸	佐藤 知行
52	3	関東	千葉県立船橋	普通科	福祉教育コース	289-5102	千葉県夷隅郡御宿町久保1628	0470-85-2811	0470-88-6886		古山 登	嶋島 文乃
53	3	関東	千葉県立船橋南	普通科	福祉コース	274-0053	千葉県船橋市重宝町656-8	047-457-5200	047-457-7578		上野 孝祐	藤崎 正明
54	3	関東	埼玉県立文化女子	普通科	福祉クラス	280-8801	千葉県千葉市中央区弁天町2-8-9	043-252-3551	043-258-9501	http://www2.san.nagasaki.ac.jp	植草 昭	安田 新子
55	3	関東	東京都立大妻学園	普通科	福祉コース	178-0061	東京都練馬区大塚学園町9-1-1	03-3924-3185	03-3924-9411	http://www.Oizumizakuen-h.metro.tokyo-jb	佐々木 孝宏	前田 朋乃
56	3	関東	東京都立南	普通科	生活・科学コース	143-0027	東京都大田区中島込3-11-10	03-3774-0373	03-3774-0325		川崎 明栄	田村 祥子
57	3	関東	日本女子体育大学付属 習志野附属二階堂	普通科	福祉コース	156-0043	東京都習志野区松原2-17-22	03-3322-8151	03-3327-6164	http://www.jucos.ac.jp/buzokukou/	氏取 武彦	若水 昌司
58	3	関東	東京都立野津田	普通科	専修 福祉コース	195-0063	東京都町田市野津田2000	042-734-2311	042-734-9388	http://www02.eonet.ne.jp/ayanishi/	安田 健	小山 哲広
59	3	関東	神奈川県立横浜西	普通科	福祉教育コース	252-1123	神奈川県横浜市早川1485-1	0467-77-8121	0467-76-8199	http://www.scb-nct.na.in/~sakabana/	鈴木 理	後谷 奈司
60	3	関東	神奈川県立高浜	普通科	福祉教育コース	254-0805	神奈川県平塚市高浜8-1	0463-21-0417	0463-23-7138	http://academic2.phile.on.jp/eusui/	伊藤 伸子	雨宮 義徳
61	3	関東	神奈川県立津久井	普通科	社会福祉コース	220-0209	神奈川県津久井郡津久井町三ヶ木272-1	042-784-1053	042-784-7860	http://www.sch-nct.na.in/~sakabana/	山本 初	村山 留也
62	3	関東	川崎市立川崎	福祉科	専	210-0806	神奈川県川崎市川崎区中島3-3-1	044-244-4981	044-211-8295	http://academic2.phile.on.jp/eusui/	高橋 輝之	菅田 昌弘
63	3	関東	神奈川県立横浜南	普通科	福祉コース	240-0023	神奈川県横浜市長土ヶ谷区新井町447	045-731-6361	045-716-0202	http://www.y-csaihs.ac.jp/	安達 健隆	安田 新子
64	3	関東	神奈川県立二俣川管理福祉	福祉科	専	241-0815	神奈川県横浜市旭区中環1-6-1	045-391-6165	045-381-9777		藤田 寛	森 公美子

通No.	加盟 番号	ブロック	校名	校名	学科名	コース・専門名	郵便番号	住所(都道府県から)	TELNo.	FAXNo.	ホームページ(H.P)	学校長名	主任等名前
65	60	4. 北信越	新潟県立八海	新潟県立八海	福祉科	無	949-8632	新潟県魚沼郡六日町大字栄川1276	025-772-3281	025-772-8878	無	丑田 清夫	小杉 国義
66	61	4. 北信越	新潟県立高田北城	新潟県立高田北城	生活文化科	福祉コース	943-8525	新潟県上越市北城町2-8-1	025-522-1164	025-526-1579	http://www.kitahirojama.ed.jp	野内 清忠	原谷 洋子
67	62	4. 北信越	新潟県立新井	新潟県立新井	総合学科	福祉系列	944-0031	新潟県新井市町田1-10-1	0255-72-4151	0255-72-7529	http://www.ngt-ori-h.ed.jp/	吉原 喜久雄	期間 正恵
68	63	4. 北信越	新潟県立西川竹園	新潟県立西川竹園	生活文化科	福祉コース	959-0421	新潟県西蒲原郡西川町大字藤2-1	0256-88-3131	0256-88-2172	無	小野 敏夫	守崎 洋子
69	64	4. 北信越	中野	中野	普通科	福祉医療系	940-8585	新潟県長岡市新保町1371-1	0258-24-0203	0258-24-0205	http://www.chubuats-u-h.ed.jp/	神主 式二	駒橋 益雄
70	65	4. 北信越	富山県立八尾	富山県立八尾	普通科 生活福祉科	福祉コース 無	939-2376	富山県黒部郡八尾町町田2-13	076-454-2205	076-454-5889	http://www.yatsuo01@ym.pref.toyama.jp	仙石 正三	畑山 明子
71	66	4. 北信越	富山県立二ツ井	富山県立二ツ井	総合福祉科	無	932-0114	富山県小矢野市清水95-1	0766-61-2040	0766-61-8255	http://www.tonamino-h.tvm.ed.jp	高本 成一	加賀谷 恵子
72	67	4. 北信越	富山県立有崎	富山県立有崎	生活福祉科	無	935-0025	富山県永見市津川1056	0766-74-0228	0766-74-0827	http://www.tvm.ed.jp/sec358/	伊藤 保	橋 晶子
73	68	4. 北信越	石川県立巻沢伏見	石川県立巻沢伏見	普通科	福祉コース	921-8044	石川県金沢市巻沢町5-85	076-242-6175	076-242-7458	http://www.ishitawa-c.ed.jp/~uturh/	宮崎 忠夫	峯 綾子
74	69	4. 北信越	石川県立田鶴浜	石川県立田鶴浜	健康福祉科	無	929-2195	石川県鹿島郡田鶴浜町上野が丘59	0767-66-3116	0767-66-2351	無	高 一男	永井 和典
75	70	4. 北信越	石川県立越前野村	石川県立越前野村	総合学科 生活科学科	介護福祉系列介 護福祉コース	928-0331	石川県黒部郡野村字野田4番3	0768-76-1211	0768-76-0079	http://www.onohierashi-h.ed.jp	針谷 俊明	中村 由美子
76	71	4. 北信越	福井県立大野原	福井県立大野原	福祉教育科	無	912-0016	福井県大野市五江9-10	0779-66-4610	0779-66-5577	無	萩原 秀昭	立石 武太
77	72	4. 北信越	豊新	豊新	福祉科	無	910-0017	福井県福井市文京4-15-1	0776-23-3489	0776-21-2822	http://www.keishinn.ed.jp	古厩 孝徳	住司 美和
78	73	4. 北信越	山梨県立甲府城西	山梨県立甲府城西	総合学科	福祉・生活科学系列	400-0064	山梨県甲府市下藤田1-9-1	055-223-3101	055-223-3103	http://www.kohyjs-k@pref.yamanashi.jp	坂野 恭徳	岩田 知子
79	74	4. 北信越	長野県立上田千鶴	長野県立上田千鶴	生活福祉科	無	386-8585	長野県上田市大字中之条26	0268-22-7070	0268-23-5370	http://www.uec.ne.jp/~chitama/	飯島 恭太郎	高橋 加代子
80	75	5. 東海	岐阜県立大垣南	岐阜県立大垣南	福祉科	無	501-0103	岐阜県関八郡豊秋町上野466-1	0584-82-6131	0584-82-5608	http://school.gifu-net.ed.jp/godakabun-ha/	山本 順子	渡辺 美智子
81	76	5. 東海	岐阜県立坂下	岐阜県立坂下	福祉・ライフ科 生活文化科	ヒューマン・ケア類型	509-9232	岐阜県恵那郡坂下町224-1	0573-75-2183	0573-75-4011	http://www.atsubol.gifu-net.ed.jp/sakaakit-ha/	佐々木 信雄	岩田 知子
82	77	5. 東海	岐阜県立国津	岐阜県立国津	生活福祉科	無	509-6196	岐阜県国津市上砥町7942	0572-68-4161	0572-67-1988	http://www.kceol.gifu-net.ed.jp/mizunomi-ha/	千早 保之	渡藤 浩代
83	78	5. 東海	岐阜県立津波北	岐阜県立津波北	生活福祉科 家政科	無	503-0321	岐阜県津波郡平田町今境3885-2	0584-66-2142	0584-66-2972	http://www.kairukita-ha.hirata.ed.jp/	伊藤 正敏	後藤 さとみ
84	79	5. 東海	岐阜県立本巣	岐阜県立本巣	家政科	無	501-0407	岐阜県本巣郡赤倉町弘生寺859-1	058-324-1201	058-323-0651	無	新井 勝	今村 敏美
85	80	5. 東海	岐阜県立高山	岐阜県立高山	健康福祉科 家政科	介護福祉コース 生活福祉類型	506-0052	岐阜県高山市下岡本町2000-30	0577-32-5320	0577-32-5321	http://www.school.gifu-net.ed.jp/takayama-ha/	小谷 俊明	松本 洋子
86	81	5. 東海	静岡県立若田	静岡県立若田	福祉科	無	421-0303	静岡県吉田町片岡2130	0548-32-1241	0548-32-7831	無	百田 弘弘	福嶋 みちる
87	82	5. 東海	静岡県立船湾	静岡県立船湾	普通科	福祉類型	413-0102	静岡県船湾市下多賀1484-22	0557-68-3291	0557-68-1854	http://www.itu.co.jp/~etamihs/	青木 敏	原須 のぞみ
88	83	5. 東海	静岡県立磐田北	静岡県立磐田北	福祉科	無	438-0086	静岡県磐田市見付2031-2	0538-32-2181	0538-37-8354	無	太田 恒義	伊藤 秀子
89	84	5. 東海	静岡県立富士宮東	静岡県立富士宮東	福祉科	無	418-0022	静岡県富士宮市小島1234	0544-26-4177	0544-26-0007	http://www.nhiizuoka-c.ed.jp/fujinomiya-higashi-h/	佐藤 玲子	船津 倫子
90	85	5. 東海	三島	三島	福祉科 家政科	無	411-0944	静岡県東郡長泉町竹原354	055-975-0035	055-976-0735	http://www2.tohai.or.jp/mishimakoto/	渡邊 敏	笠田 洋子
91	86	5. 東海	静岡県立女子	静岡県立女子	普通科	無	422-8076	静岡県静岡市八幡3-6-1	054-285-2274	054-282-2757	http://www.tcu.ac.jp	竹中 俊	太田 久巳子
92	87	5. 東海	沼津中央	沼津中央	普通科	福祉コース	410-0033	静岡県沼津市津崎町11-20	055-921-0348	055-924-7158	無	桐山 敏雄	平野 謙
93	88	5. 東海	愛知県立高浜	愛知県立高浜	福祉科	無	444-1311	愛知県高浜市本郷町1-6-1	0566-52-2100	0566-52-7059	http://www.takahama-h.nichi-c.ed.jp/	加藤 秀男	神谷 千寿
94	89	5. 東海	愛知県立宝峰	愛知県立宝峰	生活福祉科	無	441-1205	愛知県宝峰郡一宮町大字大字樋水445	0533-95-2041	0533-95-2846	http://www.horyo-h.aichi-c.ed.jp	仲島 千恵	原田 薫子
95	90	5. 東海	愛知県立古知野	愛知県立古知野	福祉科	無	483-8331	愛知県江南市古知野町高瀬1	0587-56-2508	0587-53-0969	http://www.kochino-h.aichi-c.ed.jp/	伊藤 久夫	嶋田 麻知代
96	91	5. 東海	愛知県立陸津	愛知県立陸津	生活福祉科	無	474-0025	愛知県大府市中央町5-15	0562-46-5351	0562-44-0626	無	斎藤 正晴	河井 典子
97	92	5. 東海	三重県立明野	三重県立明野	福祉科	無	519-0501	三重県度会郡小泉町明野1481	0596-37-4125	0596-37-4127	無	佐藤 良一	立谷 恵理

通No.	加盟番号	ブロック	品名	学校名	学科名	コース・習得名	郵便番号	住所(都道府県から)	TELNo.	FAXNo.	ホームページ(H・P)	学校長名	主任者名前
98	93	5. 東海	品	三重県立上野野原	福祉科	集	518-0833	三重県上野野原ヶ丘町920	0595-21-1900	0595-21-1923	http://www.mie-c.ed.jp/cueno/	辻井 賢隆	高井 惠子
99	94	5. 東海	品	三重県立みえ女子学園	総合学科	社会福祉科	514-0803	三重県津市山崎1239	059-220-6317	059-220-6218	http://www.mie-c.ed.jp/hmisyu/	瀬古 淳二	野呂 朱美
100	197	5. 東海	品	三重県立飯橋	総合学科	介護福祉科	515-1411	三重県飯橋町大字洞見5480-1	0598-32-2203	0598-32-2204		荒井 順治	伊藤 太美子
101	198	5. 東海	品	三重県立三曹	総合学科	社会福祉科	511-0222	三重県員弁郡員弁町町田632	0594-74-2006	0594-74-4104		中村 秀文	坂田 仁美
102	199	5. 東海	品	三重県立桑名	総合学科	介護福祉科	519-2593	三重県桑名郡桑名川村48	0598-76-0040	0598-76-0316	http://www.mie-c.ed.jp/hshubz/	橋井 正典	橋井 道子
103	95	6. 近畿	品	滋賀県立彦根	福祉科	集	526-0033	滋賀県彦根市方町270	0749-62-0896	0749-65-1340	http://www.bies.ne.jp/nageko-h	北川 真澄	村元 研二
104	96	6. 近畿	市	守山市立守山女子	家庭に関する学科	生活福祉コース	524-0041	滋賀県守山市勝部3-9-1	077-582-2019	077-583-2829	http://cgi1.bies.ne.jp/morjo01/	小西 健雄	中西 順子
105	97	6. 近畿	市	滋賀学園	普通科	福祉コース	527-0003	滋賀県八日市市藤部北町520-1	0748-23-0838	0748-23-6145		清田 剛	今江 智美
106	98	6. 近畿	市	滋賀県立大津	介護福祉科	集	525-0025	滋賀県津市西海川1-18-1	077-583-3435	077-585-5820	http://www.bies.ne.jp/asyaka-hs	兼原 夏嗣	桑原 元剛
107	99	6. 近畿	市	滋賀県立大津	普通科	福祉コース	622-0002	京都府船井郡藤原町藤原町1-78	0771-82-0163	0771-83-0989	http://www.ceteline-kyoto.ed.jp/	岡本 英輔	松崎 由香
108	100	6. 近畿	市	福知山学院	総合学科	介護福祉科	820-0936	京都府福知山市宇正町等36-10	0773-22-3763	0773-23-5519	http://www2.nkansai.ne.jp/sch/shukutoku/	山口 亨	下川 直輝
109	101	6. 近畿	府	大阪府立松原	総合学科	地域福祉科	580-0041	大阪府松原市三宅3-4-1	072-334-8008	072-334-8142	http://www.osaka-c.ed.jp/matsubara/	吉村 和彦	加納 明彦
110	102	6. 近畿	府	大阪府立茨木	総合学科	福祉科	533-0024	大阪府茨木市東茨木区島島1-7-106	06-6323-6351	06-6323-8237	http://www.osaka-c.ed.jp/kunijima/	池田 暎昭	亀井 敏直
111	103	6. 近畿	市	茨木市立茨木	福祉科	集	554-0011	大阪府大阪市此花区朝日1-1-9	06-6461-0091	06-6465-0336	http://www.yodonomizu-h.ed.jp/	藤巻 榮二	藤井 成俊
112	200	6. 近畿	市	大阪府立淀川	福祉科	集	555-0024	大阪府大阪市淀川区野原3-3-15	06-6474-2221	06-6473-9950	http://www.ecoc.ne.jp/yodo/	大倉 雅之	青木 雅至
113	104	6. 近畿	市	兵衛野立日高	福祉科	集	609-5395	兵庫県姫路市日高町中1	0796-42-1133	0796-42-1948	http://www.hyogo-c.ed.jp/hidaka-ha/	尾花 雅一	山崎 由美
114	105	6. 近畿	市	兵庫県立新宮	福祉科	集	678-4313	兵庫県篠原郡新宮町新宮27-1	0791-75-0018	0791-75-2349	http://www.hyogo-c.ed.jp/shingu-ha/	藤田 正徳	長谷 順子
115	106	6. 近畿	市	神戸第一	家庭科	介護福祉コース	651-0058	兵庫県神戸市中央区堂会町等々1	078-242-4811	078-242-5723		岸本 進	重野 峰
116	107	6. 近畿	市	園田学園	普通科	総合コース(福祉選択)	661-0012	兵庫県尼崎市南園田町1-24-16	06-6428-2242	06-6428-0201	http://www.senedakuen.ed.jp	松尾 匡嗣	北中 陽子
117	108	6. 近畿	市	日ノ本学園	普通科	福祉コース	679-2151	兵庫県神崎郡香取町香取990	0792-32-5578	0792-32-3420	http://www.hinomoto.ac.jp/	池田 武弘	伊藤 健哉
118	109	6. 近畿	市	奈良県立樟原	福祉科	集	633-0241	奈良県宇陀郡樟原町下井足210	0745-82-0325	0745-82-7806		安井 啓夫	松本 美奈
119	110	6. 近畿	市	天理(第二)	介護福祉科	集	632-8585	奈良県天理市和之内町1260	0743-82-2456	0743-82-2456	http://www.tenri-h.ed.jp/2bu/	飯野 成彦	山下 順弘
120	111	6. 近畿	市	和歌山県立有田中央	総合学科	集	643-0021	和歌山県有田郡若菜町下東野459	0737-52-4340	0737-52-6749	http://andachuo-hb.wakayama-c.ed.jp	蓮原 真治	名原 伸子
121	112	7. 中国	品	鳥取県立倉田産業	総合学科	生活・福祉科	698-0041	鳥取県倉田町高津3-21-1	0856-22-0642	0856-22-0684		山田 忠男	坂本 繁子
122	113	7. 中国	品	鳥取県立松江農科	総合学科	福祉コース	690-8507	鳥取県松江町乃木福富町51	0852-21-6772	0852-21-6796	http://www.sanb-sania.co.jp/consti/matsuno/	若槻 士郎	松山 直子
123	114	7. 中国	市	明風	福祉科	集	698-0006	鳥取県倉田町三宅町7-37	0856-22-1052	0856-22-8729	http://www.iwami.or.jp/meisai/	岸 政徳	伊藤 由香
124	115	7. 中国	市	松江女子学院	普通科	福祉科	690-0015	鳥取県松江市乃木1-14-51	0852-21-5578	0852-21-1350		庄司 肇	船木 雅哉
125	116	7. 中国	品	岡山県立倉敷中央	福祉科	集	710-0845	岡山県倉敷市西番井1384	086-485-2559	086-486-2832	http://www.kurachuo.okayama-c.ed.jp/kurach.htm	中根 公郎	本多 理奈
126	117	7. 中国	品	岡山県立倉敷北校	普通科	社会福祉科	716-1112	岡山県倉敷市上野町藤野山1028	0866-54-1033	0866-54-0933	http://www.kibihoku.okayama-c.ed.jp/	藤原 孝博	河本 洋子
127	118	7. 中国	品	岡山県立津浦	普通科	生活福祉科	709-3111	岡山県津浦郡津浦町津浦26	0867-22-0741	0867-22-2380	http://www.hukuwa.ed.pref.okayama.jp/hukuwa.htm	永井 祐	野上 寛子
128	120	7. 中国	市	岡山市立岡山南校	総合学科	福祉科	700-0814	岡山県岡山市天神町9-24	086-226-7100	086-226-7109	http://www.korokukan.city.okayama.ed.jp	仁藤 輝行	寺田 貴美
129	121	7. 中国	市	倉敷市立倉敷南校	普通科	介護福祉コース	708-0004	岡山県倉敷市山北500	0868-22-4835	0868-24-6171	http://www.mimasaka.ed.jp	北村 哲志	竹田 智彦
130	122	7. 中国	市	備前市立備前	総合福祉科	生活福祉コース 介護福祉コース	700-0054	岡山県岡山市下野瀬町7-38	086-252-2101	086-253-0582	http://www.baij-h.ed.jp	高畑 幸彦	五十嵐 真

通NO.	加盟 番号	ブロック	校名	学科名	コース・通称名	郵便番号	住所(都道府県から)	TELNo.	FAXNo.	ホームページ(H・P)	学校長名	主任等名前
131	123 7. 中国	私	岡山宇直	普通科	総合コース(福祉系選択)	704-8502	岡山県岡山市西大寺1-19-19	086-842-3864	086-843-8040	http://www.gakugeikan.ed.jp	桑 輝彦	竹内 嘉孝
132	124 7. 中国	県	広島県立広島	福祉科	県	724-0622	広島県東広島市豊田町力蔵第1	0823-82-2525	0823-82-2527	http://www.kurose-h.hiroshima-c.ed.jp	池田 由美子	黒田 真子
133	125 7. 中国	県	広島県立世羅	生活福祉科	県	722-1193	広島県世羅郡世羅町本郷870	0847-22-1118	0847-22-3244	http://www.sere-h.hiroshima-c.ed.jp	田邊 慶嗣	土生 宏美
134	126 7. 中国	県	広島県立吉田	生活福祉科	福祉コース	731-0501	広島県吉田郡吉田町西719-3	0826-62-0031	0826-62-0207	http://www.yoshida-h.hiroshima-c.ed.jp	津田 義則	井上 智恵
135	127 7. 中国	県	山口県立久賀	福祉科	県	742-2301	山口県大高郡久賀町久賀4851-2	0820-72-0024	0820-72-0096	http://www.yng.ed.jp/seiko-h/	木瀬 悦二	三輪 敏
136	128 7. 中国	私	中村女子	介護福祉科	県	753-8530	山口県山口市祝津91-1-1	083-822-0418	083-822-8063	http://www.y-nakamura.ed.jp	桂 雄三	岡崎 克子
137	129 7. 中国	私	聖光	普通科	社会福祉コース	743-0011	山口県萩市若井9-22-1	0833-72-1187	0833-72-1308	http://www.tokunet.ed.jp/josei/	藤井 隆正	秋本 元之
138	130 8. 四国	県	徳島県立城西	総合学科	健康福祉系列	770-0003	徳島県徳島市社通町2-1	088-431-5138	088-433-0453	http://www.nacuto-f.ed.jp	村山 一行	鎌田 かつお
139	131 8. 四国	県	徳島県立小松島西	福祉科	県	773-0015	徳島県小松島市中田町部ノ下28-1	08853-2-0129	08853-2-5462	http://www.kazawa-ed.jp/mikh01/top.htm	小倉 正幹	稲村 桂子
140	202 8. 四国	県	徳島県立鳴門第一	普通科	福祉コース	772-0003	徳島県鳴門市撫養町南浜字星日本58	088-485-1107	088-685-0049	http://www.kegawa-ed.jp/hanzh01/	石川 好文	増田 尚子
141	132 8. 四国	県	香川県立三木	総合学科	福祉系列	761-0702	香川県三木郡三木町平本760	087-891-1100	087-891-1551	http://www.niharamonm-h.kas.ed.jp	市野 唯夫	竹内 泰枝
142	133 8. 四国	県	香川県立坂山	総合学科	福祉サービスクラス	762-0083	香川県綾歌郡坂山町下法聖寺664-1	0877-98-2525	0877-98-2576	http://www.hqjo-h.esnet.ed.jp	斎藤 賢一	北村 文恵
143	134 8. 四国	県	愛媛県立新居浜南	総合学科	福祉サービスクラス	792-0836	愛媛県新居浜市南町1-32	0897-43-6191	0897-44-7447	http://www.matsuyamainan-h.ed.jp	宇和上 正	定岡 秀美
144	135 8. 四国	県	愛媛県立北条	総合学科	生活福祉系列	789-2493	愛媛県北条町北000-1	089-993-0333	089-993-0429	http://ehm-hqjo-h.esnet.ed.jp	友田 義一	二宮 栄子
145	136 8. 四国	県	愛媛県立立川之石	総合学科	福祉サービスクラス	786-0201	愛媛県西予郡喜多内町立川之石1-112	0894-36-0550	0894-36-1894	http://kawanotsuki-h.esnet.ed.jp/	永井 博	村上 真子
146	137 8. 四国	私	松山学院	福祉科	県	780-8550	愛媛県松山市北久米町816	089-976-4343	089-976-4346	http://www.matsuyamainan-h.ed.jp	福地 勝哉	中田 千栄子
147	201 8. 四国	私	今治明徳	普通科	総合福祉コース	794-0054	愛媛県今治市北日町1-4-47	0898-22-6767	0898-33-2723	http://www.ina-matoku.ed.jp/matoku/	白川 晃敏	大西 浩一
148	138 8. 四国	県	高知県立城山	普通科	福祉教育コース	781-5310	高知県香美郡香美町1612	0887-55-2126	0887-55-0170	http://www.kochinet.ed.jp/shiroyama-h/	吉岡 成	野中 昭良
149	139 8. 四国	県	高知県立宮戸	総合学科	生活福祉系列	781-7102	高知県室戸市室戸221	0887-22-1155	0887-22-3891	http://www.kochinet.ed.jp/muroto-h/	大宮 健吾	別役 千世
150	140 9. 九州	県	福岡県立三井	普通科	福祉教育コース	838-0122	福岡県糸島市室戸660	0942-72-2161	0942-72-8084	http://rad.fku.ed.jp	高山 史朗	内田 洋子
151	141 9. 九州	県	福岡県立水	社会福祉科	県	839-0817	福岡県久留米市山川町1493	0942-43-0481	0942-45-0143	http://kurumehikusui.tu.ed.jp/	杉森 克彦	紫垣 久美子
152	142 9. 九州	県	福岡県立黒木	普通科	福祉・看護コース	834-1216	福岡県八女郡黒木町大字黒原10-2	0943-42-1150	0943-42-3791	http://www.bigfobe.ne.jp/~sugimori/	太田良 盛幸	結永 淑子
153	143 9. 九州	県	福岡県立大牟田南	普通科	国際(英語)	836-0872	福岡県大牟田市南条町1-26	0944-53-3510	0944-52-2817	http://www.0281f@ipccon.ocn.ne.jp	大坪 康二	吉田 政枝
154	144 9. 九州	市	福岡市立福岡女子	保育福祉科	県	819-0013	福岡県福岡市博多区堂島3-2-2	092-861-7344	092-883-4227	無	韓 敏光	金子 敏子
155	145 9. 九州	私	杉島女子	福祉科	県	832-0046	福岡県柳川市鳳州町3	0944-72-5216	0944-72-5218	http://www5.bigfobe.ne.jp/~sugimori/	柏原 正憲	森 茂樹
156	146 9. 九州	私	藤成	人間科学科	介護福祉コース 社会福祉コース	803-0854	福岡県北九州市小倉北区皇山町15-1	093-861-1331	093-581-4844	http://www.keisei-h.jp	徳木 嗣兒	竹並 正宏
157	147 9. 九州	私	沖学園	社会総合学科	介護福祉コース	816-0095	福岡県福岡市博多区竹下2-1-33	092-431-1868	092-441-3274	http://www.okigakuen.ed.jp/	沖 隆邦	藤井 勝之
158	148 9. 九州	私	大和学院	介護福祉科	県	822-0025	福岡県重芳市日吉町10-12	0949-25-0533	0949-22-0535	http://www.yamato-gakuen.ac.jp	川原 克彦	和田 正志
159	149 9. 九州	私	折尾堂真	普通科	福祉コース	807-0861	福岡県北九州市八幡西区藤川町12-10	093-602-2100	093-692-5890	http://www.ny.aimet.ne.jp/edjyo/	増田 仰	小川 真子
160	150 9. 九州	私	福岡	介護福祉科	県	825-0002	福岡県田川市大字伊田3934	0947-42-4711	0947-44-7269	http://www.fukuchi-h.ed.jp/	荒瀬 昭彦	谷崎 潤
161	151 9. 九州	私	久留米学園	総合学科	福祉系列	830-0032	福岡県久留米市東町272-4	0942-34-4535	0942-33-5222	http://www.gakuen.ac.jp	小西 高昭	日北 真一
162	152 9. 九州	私	佐賀県立神埼南	総合学科	生活福祉系列	842-0012	佐賀県神埼郡神埼町大字橋本2	0952-52-3191	0952-51-1017	http://www.saga-ed.co.jp/school/edu10038/index.htm	山田 一彦	海村 タマキ
163	153 9. 九州	県	佐賀県立鹿島学園	生活福祉科	生活福祉コース	849-1311	佐賀県鹿島市大字高津原539	0954-63-3126	0954-63-9007		藤原 哲夫	湖上 美奈子

通NO.	加盟 番号	ブロック	学校名	学科名	コース・指導名	郵便番号	住所(郵便局から)	TELNo.	FAXNo.	ホームページ(H・P)	学校長名	主任等名前
164	154	九州・沖縄	佐賀県立牛津	生活科	生活科コース	849-0303	佐賀県小城市牛津町牛津274	0952-66-1811	0952-51-5008	http://www.saga-ed.go.jp/school/edq/0009/index.htm	中山 隆英	田中 直美
165	155	九州・沖縄	北津	生活文化科	介護福祉コース 生活科コース	840-0921	佐賀県佐賀市高木通9-7-1	0952-30-8678	0952-33-5524	http://www.hokuryo.ac.jp/	久原 隆郎	石戸 秀昭
166	203	九州・沖縄	佐賀県立多久	総合学科	健康福祉系列	846-0002	佐賀県多久市北多久大字小村23	0952-75-3191	0952-71-9001	http://www.saga-ed.go.jp/school/edq/0028/	西野 文夫	田久保 賢朗
167	156	九州・沖縄	長崎県立大村南	総合学科	福祉生活科	858-0835	長崎県大村町久原1-416	0957-54-3121	0957-27-3056	http://www.johnan-h-nagasaki-e.ed.jp	宇田川 決	市丸 飯飯雄
168	157	九州・沖縄	玉木女子	福祉科	福祉科	850-0822	長崎県長崎市長谷1-21-6	095-826-6321	095-828-6837	http://www.tamaki.ed.jp/koukou	岩橋 弘	山内 茂樹
169	158	九州・沖縄	熊本県立八代東	福祉科	福祉科	869-4201	熊本県八代市東町大字橋本129	0965-92-0076	0965-92-5048		林 隆一	中野 祥子
170	159	九州・沖縄	熊本県立多良木	普通科	福祉科	868-0501	熊本県球磨郡多良木町多良木1212	0966-42-2102	0966-49-1022		米村 邦昭	瀬谷 博美
171	160	九州・沖縄	熊本県立阿蘇南	社会福祉科	福祉科	869-2812	熊本県阿蘇郡一の宮町大字宮崎4131	0987-22-0045	0987-22-5161	http://www.edu.c-pref.kumamoto.jp/ah/sasosho/	山本 登	中山 美子
172	161	九州・沖縄	熊本県立甲佐	普通科	福祉科	861-4606	熊本県上益城郡甲佐町藤田327	096-234-0041	096-234-4425		近藤 亨	廣瀬 加代子
173	162	九州・沖縄	菊池女子	社会福祉科	福祉科	861-1331	熊本県菊池市藤原1081	0968-25-3032	0968-25-3180		黒木 元子	中村 下元工
174	183	九州・沖縄	城北	社会福祉科	福祉科	861-0598	熊本県山鹿市志々枝798	0988-44-8111	0988-44-0747	http://www.infofarsa.ne.jp/school/yohoku	松浦 シズ工	坂場 雄也
175	164	九州・沖縄	熊本県フェリス学院	医療福祉科	福祉科	861-4108	熊本県熊本南高江7-3-1	096-357-7151	096-358-3044	http://elken-tv.ne.jp/users/faith/	福井 健爾	岩野 穂子
176	165	九州・沖縄	有明	福祉科	福祉科	864-0032	熊本県豊後市海永2200	0968-83-0845	0968-64-1366	http://www2.ocn.ne.jp/~hasriake	片山 盛雄	村田 太佳子
177	204	九州・沖縄	熊本県立芦北	福祉科	福祉科	869-5431	熊本県芦北町北町乙子屋20-2	0966-82-2034	0966-82-5609		横山 裕之助	飯島 真美
178	166	九州・沖縄	大分県立山香農	生活科	福祉科	879-1306	大分県蓮見郡山香町大字広瀬706	0977-75-1166	0977-75-1165	http://yume-ganengyou.eit.ed.jp/	伊藤 忠重	藤内 順子
179	167	九州・沖縄	大分県立野津	福祉科	福祉科	875-0201	大分県大野郡野津町大字野津市537-1	0974-32-2031	0974-32-2119	http://notu-h.oita-ed.jp/	安田 謙一	南 賢典子
180	168	九州・沖縄	大分県立都志原	普通科	生活科	871-0404	大分県下毛郡高良町大字戸原1663-1	0978-54-2011	0978-54-2519	http://yebekai-h.oita-ed.jp/	三浦 登	工藤 典子
181	169	九州・沖縄	徳重	福祉科	福祉ワーカーコース	870-0838	大分県大分市徳重7-8	097-543-8711	097-543-4516	http://www.oec-net.or.jp/yoshikan/	原 正朝	佐々木 修
182	170	九州・沖縄	福祉学院	保育福祉科	医療福祉コース	870-0883	大分県大分市水原560	097-544-3551	097-544-5883	http://www.oct-net.jp/fukutoku/	首藤 久登	鈴木 貴久
183	171	九州・沖縄	大分東明	商業科	商業介護福祉コース	870-8858	大分県大分市千代町2-4-4	097-535-0201	097-533-2660	http://www.coara.or.jp/~finkou/	古川 成門	平山 真
184	172	九州・沖縄	昭南学園	福祉科	福祉科	877-0082	大分県日田市日出町14	0973-22-7420	0973-22-7129	http://www.coara.or.jp/~shows/	永松 克興	安部 風美
185	205	九州・沖縄	大分県立日出崎台	総合学科	体育・健康系列	879-1504	大分県蓮見郡日出町大字大神1396-43	0977-72-2855	0977-72-2855	http://www.hiizokoku-h.oita-ed.jp	石川 隆寿	矢島 和子
186	206	九州・沖縄	大分県立在伯農	総合学科	食物・福祉系列	876-0835	大分県在伯町園町2-2-1	0972-22-1900	0972-22-1906		宮崎 和則	児玉 淑美
187	173	九州・沖縄	宮崎県立豊	福祉科	福祉科	881-0003	宮崎県西都市大字右後2330	0983-43-0005	0983-43-0005	http://www.miyazaki-c.ed.jp/suma-h/	高山 俊文	渡砂 美穂子
188	174	九州・沖縄	宮崎県立日南農林	福祉科	福祉科	889-3201	宮崎県南郷町南郷町大字中村3543	0987-64-1177	0987-64-1947	http://www.miyazaki-c.ed.jp/nichinannorin-h	榎川 尚生	三宅 晴子
189	175	九州・沖縄	宮崎県立門川農	福祉生活科	福祉生活科	889-0811	宮崎県東臼杵郡門川町大字門川尾末2680	0982-63-1336	0982-63-5194		池上和文	谷名 千恵美
190	176	九州・沖縄	宮崎県立高良	福祉科	福祉生活科 福祉科	889-4411	宮崎県西郷郡高良町大字広原4981-2	0984-42-1010	0984-42-1270	http://www.miyazaki-c.ed.jp/akehara-h/	横川 哲夫	石川 加奈恵
191	177	九州・沖縄	都城	介護福祉科	福祉科	885-8502	宮崎県都城市藤原町7916	0986-23-2477	0986-26-5220		久保 弘司	相葉 香信
192	178	九州・沖縄	日南学園	福祉科	福祉科	880-0125	宮崎県宮崎市広原898	0985-39-1321	0985-39-1324	http://www.nissho.ac.jp/nsh	安藤 幸次	谷口 和子
193	179	九州・沖縄	鹿児島県立加世田常盤	生活福祉科	福祉科	897-0002	鹿児島県加世田市武田14863	0993-33-3900	0993-33-3801	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/ah/asadaqum/index.htm	鈴木 透郎	百水 裕子
194	180	九州・沖縄	鹿児島県立古之城農	福祉科	福祉科	895-1811	鹿児島県薩摩郡古之城町虎居1900	0996-53-0020	0996-53-2718		上野 陽士	宮崎 富美子
195	181	九州・沖縄	加治木女子	医療福祉科	福祉科	899-5241	鹿児島県姶良郡加治木町木田5348	0995-63-3001	0995-63-3002	http://www.gb-kagoshima.ac.jp	山切 貞澄	迫田 貞治
196	182	九州・沖縄	鹿屋	総合福祉科	福祉科	879-1121	鹿児島県加世田市市郷仁庫1202	0993-53-3833	0993-52-7974	http://www.hoch.ed.jp	西 英雄	福澤 康之

通NO.	加盟番号	ブロック	校名	学科名	コース・専攻名	郵便番号	住所(都道府県から)	TELNo.	FAXNo.	ホームページ(H・P)	学校長名	主任専名前
197	183	九州・沖縄	出水中央 出水中央	医療福祉科	薬	899-0213	鹿児島県出水市西出水町448	0996-82-0500	0996-82-1772	http://www.izumi.ac.jp	松ヶ野 正弘	川畑 博美
198	184	九州・沖縄	神村学園高等部	医療福祉科	薬	898-8888	鹿児島県串木野市下名4460	0996-32-3232	0996-32-2990	http://www.kamimura.ac.jp	神村 裕之	山口 金光
199	185	九州・沖縄	神南	介護福祉科	薬	890-0044	鹿児島県鹿児島市常盤町440-5	099-281-2900	099-281-2522	http://www1.ocn.ne.jp/~shonan/	時任 克福	有木 時義
200	186	九州・沖縄	鹿児島福祉	社会福祉科	薬	899-2593	鹿児島県日置郡伊集院町清藤1938	099-273-1234	099-273-1651	http://www.nissho.ac.jp/kjh/	伊藤 博仁	桑原 美津子
201	187	九州・沖縄	尚志館	医療福祉科	薬	899-7104	鹿児島県曾於志志町安楽6200	0994-72-1318	0994-72-1319	http://www12.synapse.ne.jp/syoshikan/	林 毅二郎	今高 久子
202	188	九州・沖縄	鹿児島情報	医療福祉科	薬	891-0141	鹿児島県鹿児島市谷山中央2-4118	099-268-3101	099-268-1851	http://www.hurede-gakuen.com/	原田 理幸	西野 康子
203	207	九州・沖縄	鹿児島県立開陽	福祉科	薬	891-0198	鹿児島県鹿児島市上播元町5296-1	099-263-3733	099-260-8233	http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kaiyo/top.ht	今村 勇	鶴田 美子
204	189	九州・沖縄	沖縄県立陽明	介護福祉科	薬	901-2113	沖縄県浦添市字大平488	098-879-3082	098-879-9520	http://www.youmei-h.okinawa2.schoolnet.gr.jp	仲里 一彦	花城 勝代
205	190	九州・沖縄	沖縄県立宇都農林	福祉科	薬	904-2213	沖縄県豊志川市字田場1570	098-973-3578	098-973-3357	http://www.chubu-uh.oan.na.jp/	宮里 朝光	伊藤 幸子

あとがき

今年度主管校である大分県立野津高等学校をはじめ、研究発表されました先生方並びに九州・沖縄ブロック各校の先生方のご協力により、ここに大分大会報告書(通巻第9号)を発刊することができました。

初めての事務局という大役に戸惑うばかりではありましたが、全国の皆様のご指導・ご協力により終盤を迎えることができましたことを、職員一同心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(事務局)

平成16年度全国大会予告

期 日 平成16年10月27日(水) 理事会・学科主任等代表者会議
平成16年10月28日(木) 大会第1日目
平成16年10月29日(金) 大会第2日目
会 場 徳島県立小松島西高等学校
徳島県小松島市中田町原の下28-1
徳島県郷土文化会館
徳島県徳島市藍場町2-14
主管校 徳島県立小松島西高等学校

平成16年度

第1回理事会・学科主任等代表者会議予告

日 時 平成16年5月28日(金)
理事会・学科主任等代表者会議 10時
合同会議 13時
会 場 未 定

事務局

〒271-0095 千葉県松戸市中矢切54番地
千葉県立松戸矢切高等学校内
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会事務局
TEL・FAX: 047-363-0577
ホームページ <http://www.h7.dion.ne.jp/~fukushi/>
E-mail yakirifukushi@m7.dion.ne.jp